



下記修正一覧には、重複する修正の記載がある場合があります。ご了承ください。

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Patch 1 には、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch ビルド 4665 以降の Critical Patch の修正が含まれています。

#### ■修正されるウイルスバスター Corp. 11.0 の各問題

EN: HotFix\_1618 / JP: n/a

##### 問題 1:

ウイルスバスター Corp. サーバがウイルスバスター Corp. クライアントの設定をデータベースにアップデートする際、クライアントの GUID を検証せずに古い情報を削除するため、データベースに以前の GUID エントリがないウイルスバスター Corp. クライアントが初期設定に戻る問題

##### 修正 1:

本 Patch の適用後は、GUID の確認メカニズムが追加され、クライアント情報をアップデートする際、データベースのクライアントテーブルに特定のクライアントの GUID が存在するかどうか検証されるようになります。クライアントテーブルに GUID がない場合はエラーメッセージが返され、クライアントの設定は上書きされません。

~~~~~

##### 問題 2:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [グローバルクライアント設定] 画面にある [保存] ボタンをクリックすると、不明なエラーが発生する問題

##### 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. プログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1619 / JP: n/a

##### 問題:

ウイルスバスター Corp. サーバで SQL Server をデータベースに使用している場合、クライアントのドメイン情報に null 値があると「DbServer.exe」プロセスが予期せず停止する問題

##### 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. サーバプログラムの SQL プロシージャがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1620 / JP: n/a

## 問題:

TmListen または NtrtScan プロセスが停止せず、コンポーネントのアップデートに失敗することがある問題

この問題は、AutoPCC プロセスとウイルスバスター Corp.クライアントの TmListen または NtrtScan プロセスがほぼ同時に起動される状況下で生じていました。

## 修正:

本 Patch の適用後は、TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定できるようになり、この問題が修正されます。

## 手順:

TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「¥PCCSRV¥Autopcc.cfg¥」フォルダにある「AUTOPCC.ini」ファイルを開きます。
3. [WaitTime] セクションに次のキーを追加して、その値に任意の時間を秒単位で設定します。

[WaitTime]

ServiceTimeout=XX

注意: キーの初期設定値は 75 秒です。

EN: HotFix\_1622 / JP: n/a

## 問題:

グループ名にスラッシュ「/」が含まれる Active Directory グループを使用してウイルスバスター Corp.のユーザアカウントを作成しようとすると、ウイルスバスター Corp. Web コンソールにクライアントツリーが表示されなくなる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1623 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバが SQL モードである場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントツリーの特定のドメインに対して権限を持つユーザアカウントが、そのドメインのクライアントで検出された違反について通知メールメッセージを受信しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1624 / JP: HotFix\_1837

EN: HotFix\_1837 / JP: HotFix\_1837

問題:

情報漏えい対策オプションのバージョン 5.7 から 6.0 へのバージョンアップが失敗し、ブルースクリーン (BSOD) が発生する問題

この問題は、バージョンアップの際に OfficeScan Data Protection Service が停止せず、6.0 にアップデートされるファイルがある一方で、一部のファイルが上書きされずに、5.7 のまま残ることに起因し、生じていました。

修正:

本 Patch の適用後は、バージョンアップを実行する前に情報漏えい対策オプションのアップデートプログラムによって OfficeScan Data Protection Service が停止されるようになります。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1625 / JP: n/a

問題:

SQL モードのウイルスバスター Corp.サーバに 10,000 を超えるウイルスバスター Corp.ク

クライアントがレポートする場合、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのダッシュボードの表示に 60 秒以上かかる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールがデータベースからクライアント情報を取得する方法が改善され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1626 / JP: n/a

問題:

ドメイン設定のアップデート元をアップデートエージェントとしている場合に、ウイルスバスター Corp. クライアントがデバイスコントロール設定のプログラムのリストを適用できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. クライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1626.1 / JP: HotFix\_1805

EN: HotFix\_1799 / JP: HotFix\_1805

EN: HotFix\_1805 / JP: HotFix\_1805

問題 1:

Web コンソールでリアルタイム検索設定ページを開くと空のページが表示される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、リアルタイム検索設定ページが正しく表示されるようになります。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. クライアントで、「EnableCentralWhiteList」オプションが無効の場合、Web コンソール、またはクライアントコンソールからリアルタイム検索処理の設定を変更しても、変更が反映されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、リアルタイム検索処理の設定の変更が反映されるようになります。

EN: HotFix\_1628 / JP: HotFix\_1916

問題:

ウイルスバスター Corp. のタスクの管理中に OfficeScan Master Service 「OfcService.exe」が予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1629 / JP: n/a

問題:

ファイアウォールプロファイルで、ユーザが多数のファイアウォールプロファイルを追加すると 404 エラーが返される事がある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ファイアウォールプロファイルリストの処理に HTTP POST メソッドを使用できるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1631 / JP: HotFix\_1919

問題:

MSI パッケージからインストールしたウイルスバスター Corp. 10.6 クライアントを「アップデート」機能を使用してウイルスバスター Corp. 11.0 にアップグレードする際に、レジストリキー「DisplayVersion」の値がすぐに更新されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、レジストリキー「DisplayVersion」の値が更新され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1633 / JP: n/a

EN: HotFix\_1803 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.挙動監視モジュールでメモリリークが発生することがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

長期間運用した際に、「PccNTMon.exe」プロセスでメモリ使用率が上昇することがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1635 / JP: 1811

問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントでは、検索時間を短縮するため、手動検索の実行

時に検索から除外するファイルをキャッシュで確認するが、キャッシュが正常に機能せず一部のファイルが重複して検索され、手動検索の完了に時間がかかることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのセキュリティ設定を [中] から [高] に切り替えた後も、管理者権限を持たないユーザがウイルスバスター Corp.クライアントプログラムディレクトリに対してフルアクセス権限を持つ問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、セキュリティ設定が [高] に切り替えられると、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、管理者権限を持たないユーザのウイルスバスター Corp.クライアントプログラムディレクトリに対するアクセス権限が読み取り専用に自動的に制限されます。

EN: HotFix\_1636 / JP: n/a

問題:

アップデートエージェントとして機能するウイルスバスター Corp.クライアントは、ウイルスバスター Corp.サーバからのみコンポーネントをアップデートするように設定できるが、アップデートエージェントは、割り当てられたウイルスバスター Corp.サーバからのみドメイン設定をアップデートするように設定できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、割り当てられたウイルスバスター Corp.サーバからのみコンポーネントとドメイン設定をアップデートするようにアップデートエージェントを設定できるようになります。

EN: HotFix\_1637 / JP: HotFix\_1811

EN: HotFix\_1811 / JP: HotFix\_1811

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面にある [前回のウイルス検索日時 (手動)] および [前回のウイルス検索日時 (ScanNow)] の情報が手動検索タスクや ScanNow タスクの完了後に更新されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のファイルがアップデートされ、各ウイル

ス検索タスクの完了後、[前回のウイルス検索日時 (手動)] および [前回のウイルス検索日時 (ScanNow)] の情報がただちに更新されるようになります。

EN: HotFix\_1638 / JP: HotFix\_1919

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの ScanNow 機能から手動検索を実行する際、検索フォルダの選択ボックスに一部のドライブが表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1639 / JP: n/a

問題:

ユーザ指定アップデート元リストに割り当てられたウイルスバスター Corp.クライアントは、対応する IP 範囲に IP アドレスを一致させることでコンポーネントをダウンロードするが、クライアントに複数の IP アドレスがバインドされている場合、クライアントプログラムがそのすべての IP アドレスを列挙できず、コンポーネントをダウンロードできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1641 / JP: n/a

問題:

米国版の情報漏えい対策テンプレートを使用すると、個人名を含むファイルの転送が予期せずブロックされることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションのアップデートプログラムが改善され、この問題が修正されます。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動

アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。

3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、  
[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1641.1 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp. 11.0 で、データベースに多数のドメインがある場合、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのデバイスコントロール設定または情報漏えい対策設定の保存に数分かかることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、これらの保存時のパフォーマンスが向上します。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Patch 1 で C&C コールバック通知の「件名」に含まれるトークン変数を認識できず、対応する情報の代わりにトークン名が表示される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1643 / JP: HotFix\_1946

EN: HotFix\_1808 / JP: HotFix\_1808

EN: HotFix\_1824 / JP: HotFix\_1824

EN: HotFix\_1946 / JP: HotFix\_1946

問題:

[EnableEventLog] オプションが有効な場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されても、対応する NT イベントログが Microsoft Windows のイベントログファイルに表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、[EnableEventLog] オプションが有効な場合にウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されると、ウイルスバスター Corp.クライアントの NT イベントログ機能によって、対応する NT イベントログが Windows のイベントログファイルに追加されるようになります。



EN: HotFix\_1747 / JP: HotFix\_1747

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、Sentinel ライセンス開発キット (LDK) ランタイムのインストールが失敗する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1747.1 / JP: HotFix\_1747.1

問題:

Microsoft Internet Explorer 8 を使用して Web コンソールを開いた場合、以下の項目を日本語で追加できない問題

- [クライアント]→[情報漏えい対策]→[データ識別子]→ファイル属性
- [クライアント]→[情報漏えい対策]→[データ識別子]→キーワードリスト
- [クライアント]→[情報漏えい対策]→情報漏えい対策テンプレート
- [クライアント]→[クライアント管理]→[設定]→[情報漏えい対策設定]→[ルール]  
タブ→[追加]→ルール名

修正:

本 Patch の適用後は、Microsoft Internet Explorer 8 を使用して上述の項目を日本語で追加できるようになります。

EN: HotFix\_1748 / JP: n/a

問題:

MSI パッケージを使用して旧バージョンのウイルスバスター Corp.をインストールし、ウイルスバスター Corp. 11.0 にアップグレードした場合に、正しいパスワードを入力しているにもかかわらず、Windows の [コントロールパネル]→[プログラムと機能] からウイルスバスター Corp.クライアントをアンインストールできない問題

この問題は、ウイルスバスター Corp. 11.0 がアンインストールパスワード情報を異なる場所に保存していたために発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 がアンインストールパスワード情報を正しい場所に保存するようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1763 / JP: HotFix\_1763

問題:

CPUの使用率が高い、またはデータが破損している場合に、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラム「DbServer.exe」が予期せず停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、「DbServer.exe」に新しいエラー処理が追加されます。

EN: HotFix\_1767 / JP: HotFix\_1767

問題 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. の情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK で、Apple iPhone 6 や iPhone 6 Plus などのコンピュータ上のモバイルデバイスをブロックする機能がサポートされるようになります。

修正 1:

本 Patch の適用後は、デバイスコントロール機能によってモバイルデバイスが適切にブロックされるようになります。

~~~~~

問題 2:

Hotmail や Gmail から送信されるメールメッセージの受信者情報が情報漏えい対策ログに表示されないことがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、正しい受信者情報が情報漏えい対策ログに表示されるようになります。

手順 2:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1768 / JP: HotFix\_1768

問題:

Web コンソールでは、従来型スキャンパターンファイル情報の正しいフィールド名である「PTNFILE」ではなく「VIRUS\_PTN」を使用してウイルスバスター Corp.クライアントの並べ替えが行われるため、ユーザが従来型スキャンパターンファイルによってクライアント管理ツリー上のウイルスバスター Corp.クライアントを並べ替えできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、Web コンソールで「SORT\_COLUMN」フィールドの値が確認されるようになり、「VIRUS\_PTN」に設定されている場合は「PTNFILE」に変更されます。これによりユーザは、従来型スキャンパターンファイルによってクライアント管理ツリー上のウイルスバスター Corp.クライアントを正しく並べ替えられるようになります。

EN: HotFix\_1773 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK のプログラムの承認済みリストに含まれる一部の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用できない場合、アプリケーションの DNS の解決に時間がかかり、タイムアウトが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0.1253 によって FQDN および IP の解決処理が強化され、この問題が修正されます。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1779 / JP: n/a

問題:

管理者権限のないユーザが管理者ロールを切り替えられる問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1781 / JP: HotFix\_1510

問題:

初期化の問題に起因して、ウイルスバスター Corp.サーバコンピュータの再起動後、OfficeScan Master Service が正常に起動しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムファイルがアップデートされ、OfficeScan Master Service の初期化手順が改善されます。これにより、ウイルスバスター Corp.サーバコンピュータの再起動後、OfficeScanMaster Service が正常に起動するようになります。

EN: HotFix\_1785 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバから SQL サーバに接続できない場合、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面に重複するドメインが生成されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1789 / JP: HotFix\_1789

問題:

Windows プラットフォームでウイルスバスター Corp.クライアントを終了すると、Web コンソールの [クライアント管理] 画面で、[前回の終了日時] 列の情報がアップデートされない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで実行されるジョブの順番が改善され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1789.1 / JP: HotFix\_1789.1

問題:

英語版以外のウイルスバスター Corp.サーバで、「svrsvcsetup -enablessl」コマンドを使用して「SvrSvcSetup.exe」ツールを実行すると、次のエラーメッセージが表示される問題

Sync keys successfully.

web console URL file does not exist. URL file: [C:¥Program Files (x86)¥  
Trend Micro¥OfficeScan¥PCCSRV¥OfficeScan Web Console (HTML).url]

修正:

本 Patch の適用後は、「SvrSvcSetup.exe」ツールのコマンドを使用して設定を変更した  
場合、ウイルスバスター Corp.サーバによって関連するレジストリキーが直接書き込ま  
れるようになり、「SvrSvcSetup.exe」ツールが正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_1790 / JP: n/a

問題:

一部のウイルスログをウイルスバスター Corp.クライアントからウイルスバスター  
Corp.サーバにアップロードできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ファイルパスのバッファが拡張され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1799 / JP: HotFix\_1805

問題 1:

OfficeScan NT RealTime Scan サービスと挙動監視機能が同時に実行されている際に、  
システムが応答しなくなることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、上記の問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスターCorp.クライアントで「upgrade.exe」が実行され続けることが  
ある問題

この問題は、ウイルスバスター Corp.サーバが、検索設定に変更がない場合にも、  
ウイルスバスターCorp.クライアントに検索設定変更の通知を繰り返し送るため生じてい  
ました。

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスターCorp.サーバが、正しく通知を送るようになり  
ます。

EN: HotFix\_1809 / JP: HotFix\_1809

## 問題 1:

コンピュータが予期せず停止した後、コンピュータを起動すると、共有メモリの正しい情報を取得できないことがある問題

この問題は、ウイルスバスター Corp.の Smart Protection Server (SPS) で、情報の変更時に共有メモリの古い情報がクリーンナップされないために生じていました。

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、情報が変更されるたびに、共有メモリの古い情報が自動的にクリーンナップされるようになります。

~~~~~

## 問題 2:

パターンファイルのアップデートに失敗した際、SPS モジュールで「activeupdate」フォルダから新しいパターンファイルが削除されない問題

複数回続けてアップデートに失敗すると、「activeupdate」フォルダが大きくなり、使用するディスク容量が増大します。

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、パターンファイルのアップデートに失敗した場合、SPS によって「activeupdate」フォルダから新しいパターンファイルがただちに削除されるようになります。さらに、パターンファイルのアップデート処理機能が強化され、パターンファイルが正しくアップデートされるようになります。

EN: HotFix\_1812 / JP: n/a

## 問題:

Gmail、Google ドライブ、および Google がサポートするその他の Web サイトが HTTP2 ネットワークプロトコルに切り替えられているにもかかわらず、情報漏えい対策オプション 6.0 クライアントで HTTP2 違反を検出できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプション エンドポイントで HTTP2 のアクティビティを監視できるようになります。

## 手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。

3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1813 / JP: HotFix\_1813

EN: HotFix\_1912 / JP: HotFix\_1813

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールで、リアルタイム検索の検索実行設定に対する変更を保存できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスターCorp.クライアントコンソールで、リアルタイム検索の検索実行設定を正常に編集し、変更を保存できるようになります。

EN: HotFix\_1827 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策を有効にしてネットワークロケーションから FTP ロケーションにファイルをコピーすると、アクセス権限がないためにユーザがネットワークから切断される問題

修正:

本 Patch の適用後は、SMB からファイルをコピーする際の RDP (リモートデスクトッププロトコル) の切断の問題が修正されます。また、ファイルをコピーする前にエンドポイントで権限が検証されるため、コピー処理の開始時にエンドポイントがハングしなくなります。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。

3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、

[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1829 / JP: HotFix\_1829

問題:

ウイルスバスター Corp.の高度な保護サービスと Microsoft Internet Explorer に互換性がないため、「.xdw」ファイルをブラウザでダウンロード、および閲覧できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、Internet Explorer 上で、ウイルスバスター Corp.の高度な保護サービスが正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_1829.1 / JP: HotFix\_1829.1

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの Web レピュテーションサーバのネットワークトラフィックを監視する Trend Micro TDI (TMTDI) ドライバに起因し、Microsoft Windows Server プラットフォームで稼働するコンピュータのパフォーマンスが低下することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、Windows Server プラットフォームにインストールされているすべてのウイルスバスター Corp.クライアントから TMTDI ドライバをアンインストールできるようになります。

手順 Windows Server プラットフォームにインストールされているウイルスバスター Corp.クライアントから TMTDI ドライバをアンインストールするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. テキストエディタを使用して、ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

RmvTmTDIForWinServer=1



4. 変更内容を保存して、「ofcscan.ini」ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: RmvTmTDIForWinServer

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

7. ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータを再起動します。ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥services¥tmtdi

名前: DeleteFlag

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

TMTDI ドライバは、ウイルスバスター Corp.クライアントの次回起動時に自動的にアンインストールされます。

注意:

- 以前のオプション「RmvTmTDI」は、Windows Server プラットフォームと Desktop プラットフォームの両方で、同じドライバをウイルスバスターCorp.クライアントからアンインストールします。「RmvTmTDIForWinServer」が「ofcscan.ini」に存在しない場合、Windows Server プラットフォームのウイルスバスター Corp.クライアントは、「RmvTmTDI」の設定に従います。

EN: HotFix\_1833 / JP: n/a

問題:

圧縮された一部のウイルスバスター Corp.クライアントファイルが正常に解凍されず、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールを開けない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.ファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1835 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL Server をデータベースに使用している場合、クライアントのドメイン情報に null 値があると、「DbServer.exe」プロセスでデータベース例外エラーが発生し、プロセスが予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバプログラムの SQL プロシージャがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1838 / JP: Htofix\_1876

EN: HotFix\_1876 / JP: Htofix\_1876

問題:

ファイアウォール機能に関する 2 つのモジュール、TmPfw、TmWfp が、同時に同じフィルタを登録してしまうことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、TmPfw、TmWfp のフィルタ登録処理が排他されるようになり、この問題が修正されます。

手順:

本 Patch の適用後に、ウイルスバスター Corp.クライアントにパーソナルファイアウォールの新しいドライバが追加されます。このドライバをロードするには、ウイルスバスター Corp.クライアントがインストールされたコンピュータを再起動してください。

EN: HotFix\_1839 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバが C&C コールバックのログを受信し、アウトブレイクアラート通知をメールで行う際に、C&C コールバックのログが非常に大量にあると、ウイルスバスター Corp.サーバがメールを作成できずにクラッシュする問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、C&C コールバックのログが非常に大量にある場合に、アウトブレイクアラート通知のメールの作成でクラッシュする問題が修正され、正しくメール通知が行われるようになります。

~~~~~

問題 2:

C&C コールバックのアウトブレイクアラートのメール通知で、ログの内容が本文に正しく表示されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、C&C コールバックのアウトブレイクアラートのメール通知で、本文にログの内容が正しく表示されます。

~~~~~

問題 3:

ストアブローシージャはカンマで区切られた UID リストを含む文字列を最初のパラメータとして使用するが、その文字列が 4KB を超えているストアブローシージャを UID テーブル列のクエリに使用すると、Microsoft SQL Server から例外が返される問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1840 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. のプラグインである情報漏えい対策オプションが有効の場合、Windows To Go でのログインに時間がかかる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. のプラグインである情報漏えい対策オプションにて、この問題が修正されます。

※ウイルスバスター Corp. は Windows To Go に対応していません。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1844 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.と Lumension Security ソフトウェアの両方によって保護されている Windows 10 エンドポイントでブルースクリーン (BSOD) が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムと Lumension Security 間の互換性の問題が修正され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1846 / JP: n/a

問題:

[スパイウェア/グレーウェアログ] 画面でスパイウェアレコードを選択して [承認済みリストに追加] をクリックすると、「構文エラー: 無効な文字」というメッセージが表示され、画面のドメイン情報フィールドに文字化けが発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1851 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用している場合、Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバからウイルスバスター Corp.クライアントにポリシー設定を配信する際、アップデートされた設定が 1 つのクライアントにしかな適用されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、対象となるすべてのウイルスバスター Corp.クライアントに、Control Manager サーバから送信された設定が適用されるようになります。

EN: HotFix\_1855 / JP: n/a

問題:

スパイウェア/グレーウェアの承認済みリストに登録されているファイルまたはアプリケーションが、ウイルスバスター Corp.でスパイウェアまたはグレーウェアとして処理されてしまうことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1857 / JP: HotFix\_1857

## 問題:

クライアントのリストをエクスポートする際に複数のドメインを選択すると、エクスポートされたファイルに情報が何も含まれない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、複数のドメインを選択した場合も、クライアントのリストを正常にエクスポートできるようになります。

EN: HotFix\_1863 / JP: HotFix\_1977

EN: HotFix\_1977 / JP: HotFix\_1977

## 問題:

クライアントコンソールで、検索ステータスが「予期せず停止しました」であるにもかかわらず、検索ログに終了時刻が表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、上述の状況下で検索ログの [終了日時] フィールドに「N/A」と表示されるようになります。

EN: HotFix\_1865 / JP: n/a

## 問題 1:

ウイルスバスター Corp. 11.0 では管理者が既存のウイルスバスター Corp.データベースをネイティブのコードベースから SQL Server データベースに移行できるが、ウイルスバスター Corp.で SQL Server を使用すると、何らかの理由によりウイルスバスター Corp. Web コンソールの [検索設定] 画面で検索除外設定を保存できない問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.サーバに HotFix を適用し、新しいプログラムがクライアントコンピュータに配信された後、クライアントプログラムのバージョンがただちにアップデートされないことがある問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 3:

RDP (リモートデスクトッププロトコル) または ICA (Independent Computing Architecture) を使用して Citrix ターミナルサーバに接続する環境で、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションにより Microsoft Outlook が応答を停止することがある問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1874 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションにより保護されているコンピュータで「ワイヤレスアダプタ」に対するデバイスコントロール機能が有効な場合、情報漏えい対策オプションによって「USB LAN アダプタ」がブロックされる問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

手順:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

EN: HotFix\_1876.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.を多数の組織単位 (OU) が含まれる Active Directory と統合すると、[管理対象外のエンドポイント] 画面に表示されるクライアントの合計数が Active Directory のクライアント数と一致しないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、非管理下のエンドポイントの診断中に、ユーザ指定の Active Directory 範囲のすべてのコンピュータの情報を正常に取得できるようにすることで、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1886 / JP: n/a

問題:

Active Directory から組織単位 (OU) を削除した場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントが含まれていなくても、その OU がウイルスバスター Corp.ドメインの [カスタムクライアントグループ] リストに残る問題

修正:

本 Patch の適用後は、Active Directory から削除した OU にウイルスバスター Corp.クライアントが含まれているかどうか確認され、含まれていない場合は [カスタムクライアントグループ] リストから削除されるようになります。

EN: HotFix\_1902 / JP: HotFix\_1902

問題:

SQL 接続失敗時、ウイルスバスター Corp.サーバが SQL データベース利用不可アラートを送信しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、SQL 接続失敗時、SQL Server 利用不可アラートが送信されるようになります。

EN: HotFix\_1913 / JP: HotFix\_1913

EN: HotFix\_1941 / JP: n/a

問題:

トレンドマイクロのアップデートモジュールが、下記のパスにあるフォルダから不要なアップデートフォルダを削除しないことがある問題

¥Web¥Service¥AU\_Data¥AU\_Storage

修正:

本 Patch の適用後は、トレンドマイクロのアップデートモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

注意: 不要なフォルダの削除は、ウイルスバスター Corp.の次の正常なアップデートの際に実行されます。本 Patch の適用後、ウイルスバスターCorp.サーバの次のアップデートを待って、上述のフォルダを確認してください。

EN: HotFix\_1914 / JP: HotFix\_1914

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントから Microsoft Windows XP プラットフォームで稼働するリモートドライブに対して手動検索を正常に実行できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1915 / JP: n/a

問題 1:

DLP エージェントが予期せず停止することに起因して、新しい接続を開く際に情報漏えい対策オプションモジュールが応答を停止することがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールで新しい接続を正常に開くことができるようになります。

手順 1:

新しい情報漏えい対策オプションモジュールをウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
3. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

~~~~~  
問題 2:

同じ名前で別のフォルダに保存されている 2 つのファイルを添付した新規メールメッセージの Gmail での送信が、情報漏えい対策オプションモジュールでブロックされない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~  
問題 3:



Mozilla Firefox 38 または Chrome 43 で Gmail への機密ファイルのアップロードを  
ブロックできない問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1916 / JP: n/a

問題 1:

Microsoft Windows のイベントビューアーのログで、ウイルスバスター Corp.の SQL  
サーバでデッドロックの問題が発生する場合がある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

コンピュータが 4G LTE ネットワークなどのモバイルネットワークを介して接続されてい  
る場合、ウイルスバスター Corp.クライアントからウイルスバスター Corp.サーバに IP  
アドレスを送信できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、上述の問題が修正されます。

EN: HotFix\_1919 / JP: HotFix\_1919

問題:

ウイルスバスター Corp. 10.5 以前のバージョンからアップグレードすると、ウイルス  
バスター Corp.クライアントに破損したファイアウォールプロファイル情報が表示され  
る問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのアップグレードがあった場  
合に、ウイルスバスター Corp.クライアントによってファイアウォールプロファイルの  
サイズが確認され、正しい方法で解析されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1920 / JP: n/a

問題:

挙動監視機能により、Visual Studio で Qt を使用するとパフォーマンスの低下が発生する  
ことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1921 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのダッシュボードの検索画面でクライアント数のリンクをクリックすると、次のエラーメッセージが表示される問題

「エラーが発生しました。ネットワーク接続が有効であること、ウイルスバスター Corp.のサービスが実行中であることを確認してください。このエラーが再発する場合は、サポート担当者にお問い合わせの上、トラブルシューティングを依頼してください。」

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズが拡張され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1924 / JP: n/a

問題 1:

情報漏えい対策オプションモジュールが Google Chrome 43 64 ビット版を起動すると予期せず停止する問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

情報漏えい対策オプションモジュールの問題により、整合性のない情報が情報漏えい対策ログに表示されることがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1933 / JP: n/a

問題:

64 ビット版プラットフォームで、拳動監視サービスの情報エントリの処理方法に起因してシステムが応答しなくなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、拳動監視サービスの共通モジュールがアップデートされ、この問題

が修正されます。

EN: HotFix\_1941 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバが、Control Manager サーバのコンポーネントを、Control Manager の IPv6 アドレスを使用して SSL プロトコル経由でダウンロードできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1944 / JP: n/a

問題:

複数のクライアントリクエストがキューにあり CGI アプリケーションが応答しなくなると、ウイルスバスター Corp.サーバのマスターサービスがクライアントの新しいリクエストを受信しなくなる問題

修正:

本 Patch の適用後は、マスターサービスモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1948 / JP: n/a

問題:

Tmeext ドライバで null ポインタ値が検出されるとブルースクリーン (BSOD) が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、Tmeext ドライバにエラー処理メカニズムが追加され、NULL ポインタ値を処理できるようになります。

EN: HotFix\_1949 / JP: n/a

問題:

ファイルレピュテーションサービスがウイルスバスター Corp.クライアントで有効な場合に、このサービスの情報が Web コンソールに表示されず、新しいパターンファイルを正常にダウンロードした後も古いパターンファイルがクライアントフォルダに残ることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、iCRC 共通モジュールがアップデートされ、この問題が修正され

ます。

EN: HotFix\_1950 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントのダメージクリーンアップサービス (TSC.exe) がファイルのデジタル署名を確認する際、クライアントコンピュータの Microsoft Windows 証明書の有効期限が切れていると、ウイルスバスター Corp.クライアントのパフォーマンスに問題が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名の確認を回避できるようになります。

手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名チェックを無効にするには、次の手順に従います。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [Global Setting] セクションで、「DisableTSCSignatureCheck」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

DisableTSCSignatureCheck=1

注意: ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名のチェックを有効にする場合は、「DisableTSCSignatureCheck」キーを削除して手順 4.に進みます。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DisableTSCSignatureCheck

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_1951 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 により保護されているコンピュータで Web レピュテーション機能が有効な場合、サードパーティ製の Java アプリケーションが応答を停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、保護されているコンピュータ上でサードパーティ製 Java アプリケーションが正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_1957 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面で、一部のウイルスバスター Corp. クライアントについて誤ったファイアウォールステータスが表示されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1959 / JP: n/a

問題:

クライアントのグループ設定ルールが有効なウイルスバスター Corp. サーバに複数のウイルスバスター Corp. クライアントを登録すると、GenerateSAF プロセスにより新しいウイルスバスター Corp. クライアントをウイルスバスター Corp. サーバに登録できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1960 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールを介してルートドメインでウイルスバスター Corp. クライアントのリストをエクスポートしようとする 502 エラーが発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1966 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントの再起動直後、または Google Chrome での Google ドライブ初回アクセス時、ユーザが Google ドライブに機密ファイルをドラッグアンドドロップできることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

Skype クリックコールが有効な場合、Facebook にアクセスしようすると警告メッセージが表示される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1967 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバは、クライアントプログラムの署名が無効な場合に、接尾辞「\_invalid」を付加して、ファイル名の名称変更を実行するが、名称変更処理の際に、ウイルスバスター Corp.サーバによって誤ってファイルが削除されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバによってファイル名の名称変更が行われる際に、クライアントプログラムが削除されないようになります。

EN: HotFix\_1968 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールがクロスサイトスクリプティング (XSS) の脆弱性の影響を受ける問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1971 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのクライアントツリーで、文字化けが含まれるドメイン名を正しく表示できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ソート用の特殊文字など、事前に定義した特殊なキーワードをフィルタできるようになります。これにより、クライアントの自動グループ設定機能を使用して、ウイルスバスター Corp. サーバでクライアントツリーにドメイン名を正しく表示できるようになります。

EN: HotFix\_1972 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp. では、ウイルスバスター Corp. サーバがクライアントに対して開始する通信の認証に公開鍵暗号を使用するが、無効な公開鍵証明書を使用しているとウイルスバスター Corp. サーバのマスターサービスが応答を停止することがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. の証明書管理機能が強化され、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. の大規模感染メール通知に感染ファイルの名前とパスが正しく表示されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. サーバファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1974 / JP: n/a

問題:

iCRC 共通モジュールでメモリリークが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、iCRC 共通モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1974.1 / JP: HotFix\_1974

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで「%」文字を含む設定をアップロードできず、一部のウイルスバスター Corp.クライアントの正しい検索除外設定がウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールに表示されないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1975 / JP: n/a

問題:

特定の VPN クライアントプログラムを使用して IP アドレスを取得したウイルスバスター Corp.クライアントにウイルスバスター Corp.サーバからファイアウォールポリシーを適用できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1980 / JP: HotFix\_1980

問題:

クライアントコンソールから手動検索および予約検索のファイル除外リストを作成できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1981 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策オプションモジュールでは、ファイル属性リストでワイルドカード「\*」がサポートされているにもかかわらず、ウイルスバスター Corp. Web コンソールでは「\*」が処理されない問題

たとえば、情報漏えい対策オプションモジュールでは、次のようなファイル属性リストが処理されますが、ウイルスバスター Corp. Web コンソールでは処理されません。

- \*

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールで、情報漏えい対策モジュールのファイル属性リストの「\*」が処理されるようになります。



EN: HotFix\_1987 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの PccNT プロセスが予期せず停止し、アクセス違反イベントが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1990 / JP: HotFix\_1990

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで、クライアントプログラムのアップグレードについて説明する画面が英語で表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、該当する HTML ファイルが日本語版に更新され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1995 / JP: n/a

問題:

検索の実行中、ウイルスバスター Corp.クライアントが Smart Protection Network のフィードバックに使用される「TSCCensus.exe」プロセスを予期せず開始することがあり、これが Microsoft Windows プラットフォームで発生すると、コマンドプロンプトが開いて「C:¥WINDOWS¥ TSCCensus.exe」が実行される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで検索を実行中に「TSCCensus.exe」が実行されないようになります。

EN: HotFix\_1997 / JP: n/a

問題:

エンコードとデコードが呼び出すメカニズムが不一致であることにより、ウイルスバスター Corp.が Active Directory サーバと同期できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_1998 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策オプションモジュールが使用する一時ファイルにより、ディスク容量が不足する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_2003 / JP: n/a

## 問題:

特定ドメインのリアルタイム検索設定の変更を保存する際、ウイルスバスター Corp.が空の文字列を変換しようとする「不明なエラーです。もう一度実行してください」というメッセージが表示されることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp 11.0 サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、ドメインのリアルタイム検索設定を正常に編集して保存できるようになります。

EN: HotFix\_2005 / JP: n/a

## 問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントの再起動直後、または Google Chrome での Google ドライブ初回アクセス時、ユーザが Google ドライブに機密ファイルをドラッグアンドドロップできることがある問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

Skype Click To Call が有効な場合、Facebook にアクセスしようすると違反アラートが表示される問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_2006 / JP: HotFix\_2006

## 問題:

ドメインコントローラを構成する Microsoft Windows Server 2012 R2 にインストールされているウイルスバスター Corp.クライアントがクライアント管理ツリーに「WindowsNT プラットフォームシリーズ」と表示される問題

この問題は、Window API でドメインコントローラサーバを示す場合に使用されるスタン

ドアロンタイプを一部のウイルスバスター Corp.サーバプログラムで処理できないために発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.でドメインコントローラサーバのタイプを処理できるようになり、クライアント管理ツリーに正しい情報が表示されるようになります。

EN: HotFix\_2015 / JP: HotFix\_2015

問題:

グループポリシーを使用してドライブを非表示にしても、そのドライブがウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの手動検索画面のフォルダツリーに表示されたままになる問題

修正:

本 Patch の適用後は、適切なドライブのみフォルダツリーに表示されるようになります。

EN: HotFix\_2018 / JP: HotFix\_2018

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの挙動監視モジュールにより一部のプロセスが予期せず終了することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視サービスモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_2023 / JP: n/a

問題:

ブラウザ脆弱性対策オプションが有効な場合、ウイルスバスター Corp. 11.0 で保護されているコンピュータへのログオンに時間がかかることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 のブラウザ脆弱性対策オプションのモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_2030 / JP: n/a

問題:

iCRC 共通モジュールでメモリリークが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、iCRC 共通モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_2042 / JP: HotFix\_2042

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントが、意図しないファイルにアクセスされる攻撃を受ける可能性がある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの確認メカニズムが強化され、意図しないファイルにアクセスされる攻撃から、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムが保護されるようになります。

EN: HotFix\_2044 / JP: HotFix\_2044

問題:

起動時クリーンアップドライバのレジストリエントリがサービスに存在するにもかかわらず、起動時クリーンアップドライバファイルが Windows¥system32¥DRIVERS ディレクトリに存在しない場合に、システム起動時に起動時クリーンアップドライバが開始しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、起動時クリーンアップドライバがインストールされていない場合、または起動時クリーンアップドライバファイルが見つからない場合、ウイルスバスター Corp.クライアントに起動時クリーンアップドライバをインストールすることで、この問題が修正されます。

#### ■修正されるウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の各問題

EN: HotFix\_3010 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用している場合、Control Manager サーバからウイルスバスター Corp.クライアントにポリシー設定を配信する際、アップデートされた設定が 1 つのクライアントにしか適用されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、対象となるすべてのウイルスバスター Corp.クライアントに、Control Manager サーバから送信された設定が適用されるようになります。

EN: HotFix\_3013 / JP: n/a

問題:

RDP (リモートデスクトッププロトコル) または ICA (Independent Computing

Architecture) を使用して Citrix ターミナルサーバに接続する環境で、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションにより Microsoft Outlook が応答を停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3014.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 で C&C コールバック通知の「件名」に含まれるトークン変数を認識できず、対応する情報の代わりにトークン名が表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3015 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントでは、検索時間を短縮するため、手動検索の実行時に検索から除外するファイルをキャッシュで確認するが、キャッシュが正常に機能せず一部のファイルが重複して検索され、手動検索の完了に時間がかかることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのセキュリティ設定を [中] から [高] に切り替えた後も、管理者権限を持たないユーザがウイルスバスター Corp.クライアントプログラムディレクトリに対してフルアクセス権限を持つ問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、セキュリティ設定が [高] に切り替えられると、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、管理者権限を持たないユーザのウイルスバスター Corp.クライアントプログラムディレクトリに対するアクセス権限が読み取り専用に自動的に制限されます。

EN: HotFix\_3016 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの管理コンソールから手動検索を実行する際、

検索フォルダの選択ボックスに一部のドライブが表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のファイルが更新され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3017 / JP: n/a

問題:

ファイアウォール機能に関する 2 つのモジュール、TmPfw、TmWfp が、同時に同じフィルタを登録してしまうことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、TmPfw、TmWfp のフィルタ登録処理が排他されるようになり、上述の問題が修正されます。

EN: HotFix\_3018 / JP: n/a

問題 1:

OfficeScan NT RealTime Scan サービスと挙動監視機能が同時に実行されている際に、システムが応答しなくなることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、上記の問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスターCorp.クライアントで「upgrade.exe」が実行され続けることがある問題

この問題は、ウイルスバスター Corp.サーバが、検索設定に変更がない場合にも、ウイルスバスターCorp.クライアントに検索設定変更の通知を繰り返し送るため生じていました。

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスターCorp.サーバが、正しく通知を送るようになります。

EN: HotFix\_3019 / JP: n/a

問題:

SQL 接続失敗時、ウイルスバスター Corp.サーバが SQL Server 利用不可アラートを送信しない問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、SQL 接続失敗時、SQL Server 利用不可アラートが送信されるようになります。

EN: HotFix\_3028 / JP: n/a

**問題:**

ファイルの入出力 (I/O) タスクが他のアプリケーションによって中断された場合、ウイルスバスター Corp.クライアントのリアルタイム検索が検索タスクを実行できずエラーメッセージも表示されない問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントがリアルタイム検索の状態をチェックし、結果をクライアントとサーバの両方に表示できるようになります。

**手順:**

リアルタイム検索の状態チェック機能を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [Global Setting] セクションの下に、次の 2 つのキーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

EnableRTSHealthCheck=x

RTSHealthCheckFrequencyInMin=y

各要素の説明は次のとおりです。

"x" = "1": リアルタイム検索の状態チェック機能を有効にします

= "0": リアルタイム検索の状態チェック機能を無効にします

"y" = リアルタイム検索の状態チェックを行う間隔 (分単位。推奨値は 15)

4. ファイルを保存して閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

6. [SERVER\_CONSOLE\_SECTION] セクションの下に、次のキーを追加して、適切な値を設定します。

[SERVER\_CONSOLE\_SECTION]

ShowRealTimeScanHealth=z

各要素の説明は次のとおりです。

"z" = "1": サーバコンソールにリアルタイム検索の状態チェック機能のステータスを表示します

"z" = "0": サーバコンソールでリアルタイム検索の状態チェック機能のステータスを非表示にします

7. ファイルを保存して閉じます。
8. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
9. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

EN: HotFix\_3029 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのダッシュボードの検索画面でクライアント数のリンクをクリックすると、次のエラーメッセージが表示される問題

「エラーが発生しました。ネットワーク接続が有効であること、ウイルスバスター Corp.のサービスが実行中であることを確認してください。このエラーが再発する場合は、サポート担当者にお問い合わせの上、トラブルシューティングを依頼してください。」

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズが拡張され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3030 / JP: n/a

問題:

検索ログファイルが原因不明で破損すると、ウイルスバスター Corp.クライアントのアップグレード中に OfficeScan NT Listener サービスがクラッシュすることがある問題



## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで検索ログの無効なレコードを確認できるようになります。無効なレコードが検出された場合、ウイルスバスター Corp.クライアントはそのレコードをスキップし、次のレコードに移行します。

EN: HotFix\_3036 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 で、データベースに多数のドメインがある場合、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのデバイスコントロール設定または情報漏えい対策設定の保存に数分かかることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、これらの保存時のパフォーマンスが向上します。

EN: HotFix\_3040 / JP: n/a

## 問題:

TCacheGenCli ツールが「REMOVE\_GUID」コマンドに応答しない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3041 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバがウイルスバスター Corp.クライアントの設定をデータベースにアップデートする際、クライアントの GUID を検証せずに古い情報を削除するため、データベースに以前の GUID エントリがないウイルスバスター Corp.クライアントが初期設定に戻る問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、GUID の確認メカニズムが追加され、クライアント情報をアップデートする際、データベースのクライアントテーブルに特定のクライアントの GUID が存在するかどうか検証されるようになります。クライアントテーブルに GUID がない場合はエラーメッセージが返され、クライアントの設定は上書きされません。

EN: HotFix\_3043 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の Tmosprey ドライバに関連する問題により、Tmlisten.exe サービスが予期せず停止することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の Tmosprey ドライバがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3044 / JP: n/a

## 問題:

MSI パッケージでインストールしたウイルスバスター Corp.10.6 クライアントをクライアントコンソールの「アップデート」機能を使用してバージョン 11.0 Service Pack 1 にアップグレードすると、ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータから Juniper ネットワークを介して VPN 接続を確立できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3044.1 / JP: n/a

## 問題:

Web アプリケーションを使用して Microsoft Word ドキュメントを開くと、ブラウザ脆弱性対策オプションに関連するエラーにより Microsoft Internet Explorer 8 が予期せず停止する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ブラウザ脆弱性対策オプションが Internet Explorer 8 で正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_3045 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントをバージョン 10.6 からバージョン 11.0 Service Pack 1 にアップグレードした後、クライアントのバージョン情報に「Service Pack 1」が表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3048 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 で、ウイルスバスター Corp.クライアントを、クライアントのインストール前にクライアントコンピュータで事前定義していたマルチレイヤードメインに割り当てられない問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

**手順:**

ウイルスバスター Corp.クライアントを、クライアントのインストール前にクライアントコンピュータで事前定義していたマルチレイヤードメインに割り当てるには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. クライアントコンピュータで Windows レジストリエディタを開きます。
3. 目的のドメインについて次のレジストリ情報を追加します。

32 ビット版のウイルスバスター Corp.クライアントの場合:

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion]
"Domain"="ドメイン名"
"Server"="サーバ名"
"ServerPort"=dword:xxxxxxx
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion¥Internet
Settings]
"ServerPort"=dword:xxxxxxx
"Server"="サーバ名"
"UseProxy"=dword:00000000
```

64 ビット版のウイルスバスター Corp.クライアントの場合:

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion]
"Domain"="ドメイン名"
"Server"="サーバ名"
"ServerPort"=dword:xxxxxxx
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion¥Internet
```

Settings]

"ServerPort"=dword:xxxxxxx

"Server"="サーバ名"

"UseProxy"=dword:00000000

#### 4. ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールします。

EN: HotFix\_3050 / JP: n/a

問題:

SHA256 証明書と基になるサードパーティの SSL ライブラリとの相互運用性に問題がある場合、Trend Micro Common Client Solution Framework Service が応答しなくなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、関連モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3051 / JP: n/a

問題:

トレンドマイクロのアップデートモジュールが、下記のパスにあるフォルダから不要なアップデートフォルダを削除しないことがある問題

¥Web¥Service¥AU\_Data¥AU\_Storage

修正:

本 Patch の適用後は、トレンドマイクロのアップデートモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3052 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントのセルフプロテクション機能が有効な場合、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの情報漏えい対策オプションのモジュールで機密情報の送信を検出できない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、情報漏えい対策オプションのモジュールで機密情報の送信を検出できるようになります。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのダメージクリーンアップサービス (TSC.exe) が

ファイルのデジタル署名を確認する際、クライアントコンピュータの Microsoft Windows 証明書の有効期限が切れていると、ウイルスバスター Corp.クライアントのパフォーマンスに問題が発生することがある問題

#### 修正 2:

本 Patch の適用後は、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名の確認を回避できるようになります。

#### 手順 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名チェックを無効にするには、次の手順に従います。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [Global Setting] セクションで、「DisableTSCSignatureCheck」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

DisableTSCSignatureCheck=1

注意: ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名のチェックを有効にする場合は、「DisableTSCSignatureCheck」キーを削除して手順 4.に進みます。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DisableTSCSignatureCheck

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_3053 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 により保護されているコンピュータで Web レピュテーション機能が有効な場合、サードパーティ製 Java アプリケーションが応答を停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、保護されているコンピュータ上でサードパーティ製 Java アプリケーションが正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_3054 / JP: n/a

問題:

ファイアウォールログをアップロードしないように設定されているウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントが、再起動後、アップロードを自動的に開始することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3054.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. クライアントがログの長さ制限を超えるデータ保護ログをアップロードすると、ウイルスバスター Corp. データベースが破損する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. データベースによる長いデータ保護ログの読み取りが回避されるようになります。

EN: HotFix\_3055 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントのインストール後、クライアントファイルをアップデートする Autopcc.exe の実行中にエラーメッセージが表示されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、Autopcc.exe でクライアントファイルが正常にアップデートされるようになります。

EN: HotFix\_3062 / JP: n/a

## 問題:

Active Directory から組織単位 (OU) を削除した場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントが含まれていなくても、その OU がウイルスバスター Corp.ドメインの [カスタムクライアントグループ] リストに残る問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、Active Directory から削除した OU にウイルスバスター Corp.クライアントが含まれているかどうか確認され、含まれていない場合は [カスタムクライアントグループ] リストから削除されるようになります。

EN: HotFix\_3063 / JP: HotFix\_4840

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに他の設定を配信した後、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [権限とその他の設定]→[検索用のキャッシュ設定] 画面で日数の設定が自動的に「0」にリセットされることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3064 / JP: n/a

## 問題 1:

MSI パッケージでインストールしたウイルスバスター Corp.クライアントの古いバージョンをウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントにアップグレードする場合、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 ではアンインストールパスワードの保存場所が異なるため、Microsoft Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面で正しいパスワードが受け入れられず、この画面からクライアントをアンインストールできない問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントのアンインストールパスワードが正しい場所に保存されるようになります。これにより、Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面から正しいパスワードを使用してウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントをアンインストールできるようになります。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントでリアルタイム検索サービスを開始すると、Nrtscan.exe プロセスが予期せず停止する問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 3:

Control Manager 6.0 サーバからウイルスバスター Corp.のポリシーを配信すると、挙動監視設定の [承認済みプログラム] リストに、最初の「P」または「T」以降の文字が切り捨てられるなど、不完全なパス名が表示されることがある問題

## 修正 3:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.プログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3065 / JP: n/a

## 問題:

情報漏えい対策オプションの「UK: RD&E Hospital Number」のバリデータマッピングの問題により、情報漏えい対策ルールで一部の制限された情報をブロックできないことがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、「UK: RD&E Hospital Number」テンプレートで正しい情報漏えい対策オプションのバリデータが使用されるようになります。

EN: HotFix\_3066 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用している場合に、管理者がドメインを選択して検索除外設定を保存すると、[検索除外リスト (ディレクトリ)] および [検索除外リスト (ファイル)] の内容が自動的に削除される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、管理者が検索除外設定を保存しても、[検索除外リスト (ディレクトリ)] および [検索除外リスト (ファイル)] の内容は変更されなくなります。

EN: HotFix\_3067 / JP: n/a

## 問題:

Control Manager で、SQL モードのウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに関する情報を取得できないことがある問題

## 修正:



本 Patch の適用後は、SQL モードのウイルスバスター Corp.サーバから SQL サーバに接続できない場合、Control Manager で同期が回避されるようになります。

EN: HotFix\_3068 / JP: n/a

問題:

クライアントのグループ設定ルールが有効なウイルスバスター Corp.サーバに複数のウイルスバスター Corp.クライアントを登録すると、GenerateSAF プロセスにより新しいウイルスバスター Corp.クライアントをウイルスバスター Corp.サーバに登録できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3069 / JP: n/a

問題:

TmListen または NtrtScan プロセスが停止せず、コンポーネントのアップデートに失敗することがある問題

この問題は、AutoPCC プロセスとウイルスバスター Corp.クライアントの TmListen または NtrtScan プロセスがほぼ同時に起動される状況下で生じていました。

修正:

本 Patch の適用後は、TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定できるようになり、この問題が修正されます。

手順:

TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「¥PCCSRV¥Autopcc.cfg¥」フォルダにある「AUTOPCC.ini」ファイルを開きます。
3. [WaitTime] セクションに次のキーを追加して、その値に任意の時間を秒単位で設定します。

[WaitTime]

ServiceTimeout=XX

注意: キーの初期設定値は 75 秒です。

EN: HotFix\_3070 / JP: n/a

問題:

OfficeScan Common Client Solution Framework (CCSF) 不正プログラム対策ソリューションプラットフォームモジュールにより、ハンドルリークが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の CCSF 不正プログラム対策ソリューションプラットフォームモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3072 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の大規模感染メール通知に感染ファイルの名前とパスが正しく表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3074 / JP: n/a

問題:

IP テンプレートを使用して特定の IP アドレスを割り当てられたウイルスバスター Corp.クライアントからウイルスバスター Corp.サーバに、有効な MAC アドレスをレポートできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3076 / JP: n/a

問題:

HotFix または Patch の適用後、ウイルスバスター Corp.クライアントで対応するレジストリキーのビルド番号がアップデートされないか誤った値にアップデートされることがある問題

この問題に起因して、Windows の [コントロール パネル]→[プログラム]→[プログラムと機能] の [バージョン] タブに誤ったビルド番号が表示されることがあります。

## 修正:

本 Patch の適用後は、HotFix または Patch の適用後、ウイルスバスター Corp. 11.0 クライアントで対応するレジストリキーのビルド番号がただちに正しくアップデートされるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3076.1 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.ファイアウォールで保護されていないウイルスバスター Corp. クライアントに対して Control Manager の「隔離」および「復元」コマンドが正常に動作せず、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールにエラーメッセージが表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.から Control Manager に「隔離」および「復元」コマンドの正しいステータスコードが送信されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3077 / JP: n/a

## 問題:

複数のクライアントリクエストがキューにあり CGI アプリケーションが応答なくなると、ウイルスバスター Corp.サーバのマスターサービスがクライアントの新しいリクエストを受信しなくなる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、マスターサービスモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3079 / JP: n/a

## 問題:

ユーザが Web アプリケーションを使用して Microsoft Word ドキュメントを開くと、ブラウザ脆弱性対策に関連するエラーにより Microsoft Internet Explorer が予期せず停止する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3080 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールに時刻が正しい形式で表示されないことがある問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

**手順:**

タイムゾーンの形式を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに、次のキーを追加して適切な値を設定します。

[Global Setting]

ClientUIDisplayMode=x

各要素の説明は次のとおりです。

"x" = "1": 日時の形式を確認する機能を有効にします

= "0": 日時の形式を確認する機能を無効にします

4. ファイルを保存して閉じます。
5. ウィルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

EN: HotFix\_3081 / JP: n/a

**問題:**

ウィルスバスター Corp. iCRC 共通モジュールに関連するエラーにより、コンピュータの処理速度が低下したり応答が停止したりすることがある問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウィルスバスター Corp. iCRC 共通モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3081.1 / JP: n/a

**問題:**

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションが有効な場合に Visual Studio で  
ファイルパスのコピー機能が動作しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、「clipboard\_idle\_time」設定が提供され、Visual Studio と同時に  
クリップボードのデータにアクセスしないよう情報漏えい対策オプションが待機する時  
間 (秒単位) を設定できるようになります。

手順:

「clipboard\_idle\_time」を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある  
「dlp.ini」ファイルを開きます。
3. [Configure] セクションで、「clipboard\_idle\_time」キーを追加して、値を設定  
します。

例えば、値を「1」に設定した場合、クリップボードイベントの処理が 1 秒間待機され  
るようになります。

[Configure]

clipboard\_idle\_time=1

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. Web コンソールを開き、[クライアント]→[クライアント管理]→ドメインまたは  
クライアントを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順にクリックします。
6. [保存]をクリックし、設定をウイルスバスター Corp.クライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに設定が  
配信され、次のキーが「¥Windows¥System32¥dgagent¥」フォルダ内の「dsa.pro」  
ファイルに追加されます。

clipboard\_idle\_time=1

EN: HotFix\_3082 / JP: n/a

問題:

MSI パッケージでインストールしたウイルスバスター Corp. 11.0 クライアントをウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 にアップグレードする場合、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 ではアンインストールパスワードの保存場所が異なるため、Microsoft Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面で正しいパスワードが受け入れられず、この画面からアンインストールできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、正しいパスワードを使用して Windows の [プログラムと機能] 画面からウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 をアンインストールできるようになります。

EN: HotFix\_3083 / JP: n/a

問題:

特定の VPN クライアントプログラムを使用して IP アドレスを取得したウイルスバスター Corp.クライアントにウイルスバスター Corp.サーバからファイアウォールポリシーを適用できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3084 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントから受信したリクエストの MAC アドレスフィールドが空だった場合、ウイルスバスター Corp.サーバはその MAC アドレスを他すべての既存クライアントの MAC アドレスと一致させるが、その結果、ウイルスバスター Corp.サーバでこれらのアドレスが重複として処理され、すべての既存クライアントの MAC アドレスが削除される問題

修正:

本 Patch の適用後は、MAC アドレスフィールドが空のリクエストを受信した場合、ウイルスバスター Corp.サーバで MAC アドレスの重複の確認をスキップできるようになります。

EN: HotFix\_3085 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 へのアップグレード後、アップデートモジュールが正常に起動しないため、OfficeScan Master Service を起動できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールを正常に起動させるために証明書を確認する設定が可能になり、この問題が修正されます。

手順:

アップデートモジュールで証明書を確認できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥web¥service」フォルダにある「aucfg.ini」ファイルを開きます。
3. 次のキーを追加して、その値を「1」に設定します。

```
check_file_signature=1
```

注意: この機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_3087 / JP: n/a

問題:

ウィルスバスター Corp.クライアントでウィルスバスター Corp.サーバの IP アドレスを解決できない場合、ファイアウォールルールが機能しないために設定のアップデートを受信できず、隔離されたネットワーク上のクライアントで設定を復元またはアップデートできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ファイアウォールの初期化プロセスで DNS トラフィックの通過を許可するルールが追加されます。これにより、隔離されたネットワーク上のウィルスバスター Corp.クライアントで設定のアップデートを受信できるようになります。

EN: HotFix\_3089 / JP: n/a

問題:

挙動監視機能により、ウィルスバスター Corp.クライアントコンピュータで共有ネットワークドライブに保存されているファイルの実行がブロックされることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3090 / JP: n/a

EN: HotFix\_3602 / JP: n/a

問題:

C&C コールバックイベントを検出するとウイルスバスター Corp.サーバからただちにメール通知が送信されるが、このメール通知の「C&C リストのソース」列の情報が正しくないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3099 / JP: n/a

問題 1:

情報漏えい対策オプションステータスが、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールでは [中止されました]、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面では [実行中] と表示されることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面に表示される情報漏えい対策オプションステータスが、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの情報と一致するようになります。

~~~~~

問題 2:

TMEBC ドライバファイル (32 ビットプラットフォームでは TMEBC32.SYS、64 ビットプラットフォームでは TMEBC64.SYS) が C:\Windows\system32\DRIVERS ディレクトリにないため、対応するレジストリエントリが [サービス] 画面に表示されるものの、システム起動プロセスで TMEBC ドライバが起動しない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、TMEBC ドライバがインストールされていない場合、または TMEBC ドライバファイルが見つからない場合、ウイルスバスター Corp.クライアントに TMEBC ドライバをインストールすることで、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3100 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントを Control Manager のエンドポイント画面で隔離すると、クライアントが正常に隔離されている場合でも、次のエラーメッセージが表示される問題

「エンドポイントを隔離できません。そのエンドポイントにはウイルスバスター Corp.サーバとクライアントの両方がインストールされています。エンドポイントを隔離する



と、ウイルスバスター Corp.サーバの機能が中断されます。』

この問題は、ウイルスバスター Corp.サーバがクライアントから隔離ステータスを受信せず、Control Manager に誤ったステータスを送信するために発生します。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントからサーバに正しい分離ステータスがただちに送信されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3101 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントでアップデートタスクを実行すると、[挿入後、リムーバブルストレージデバイス内のすべてのファイルを検索する] 設定が初期設定値に戻る問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3111 / JP: HotFix\_3603

EN: HotFix\_3603 / JP: HotFix\_3603

問題 1:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションモジュールで CSV ファイル内の特定のキーワードを検出できない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションモジュールの問題により、ドキュメントの印刷時に一部のアプリケーションが予期せず停止することがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールの問題が修正され、保護対象コンピュータでドキュメントを問題なく印刷できるようになります。

EN: HotFix\_3113 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の「tmeectv.dll」モジュールに関連するエラーにより、ハンドルリークが発生することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントのファイルがアップデートされ、ハンドルリークの問題が回避されます。

EN: HotFix\_3600 / JP: HotFix\_3600

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 パッケージに古いバージョンの「OfcCMAgent.exe」ファイルが含まれている問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、「OfcCMAgent.exe」ファイルが正しいバージョンにアップデートされます。

EN: HotFix\_3606 / JP: n/a

## 問題:

他のスレッドで使用中のライブラリファイルをアンロードすると、OfcService.exe が予期せず停止することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、タイムアウトしたスレッドを強制的に停止するようウイルスバスター Corp.を設定できるようになり、この問題が修正されます。

## 手順:

タイムアウトしたスレッドを強制的に停止するようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

Enable\_Force\_Kill\_Master\_Thread=x

注意: この機能を無効にするには、値に「0」を設定してください。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

5. OfficeScan Master Service を再起動します。

EN: HotFix\_3607 / JP: n/a

問題:

TmListen サービスの CPU 使用率が高くなることある問題

修正:

本 Patch の適用後は、URL フィルタリングエンジンがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3608 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、実際には停止している iDLP サービスが実行中と表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションをインストールしたエンドポイントから Windows のサービスコントロールマネージャにステータスレポートを送信できるようになります。また、サービス起動時にタイムアウトが設定されるようになります。

EN: HotFix\_3611 / JP: n/a

問題:

ドメインコントローラを構成する Microsoft Windows Server 2012 R2 にインストールされているウイルスバスター Corp.クライアントがクライアント管理ツリーに「WindowsNT プラットフォームシリーズ」と表示される問題

この問題は、Window API でドメインコントローラサーバを示す場合に使用されるスタンダードアロンタイプを一部のウイルスバスター Corp.サーバプログラムで処理できないために発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.でドメインコントローラサーバのタイプを処理できるようになり、クライアント管理ツリーに正しい情報が表示されるようになります。

EN: HotFix\_3612 / JP: n/a

問題:

null の XML オブジェクトが検出されると、Trend Micro Control Manager エージェント (CM Agent) が予期せず停止する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3613 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの NtrtScan.exe プロセスが、情報漏えい対策オプションの TmDlpeGetCurrentDiscVersion 関数を呼び出すとクラッシュする問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、メソッドにアクセスする前にポインタが検証されるようになります。

EN: HotFix\_3615 / JP: n/a

## 問題:

TMCCSF IPC サーバが予期せず停止し、TmProxy から TMCCSF サービスに IPC コマンドを送信できなくなること起因して、Web レピュテーションサービスを有効にした直後、ユーザが Web サイトにアクセスできなくなることがある問題

この問題は、Web レピュテーションサービスを無効にするかウイルスバスター Corp.クライアントをアンロードすることで回避できました。

## 修正:

本 Patch の適用後は、TMCCSF サービスが IPC サーバの動作の停止を検出した場合にサーバを起動できるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3618 / JP: n/a

## 問題:

脆弱性検索ツールの予約検索タスクが 10 件を超えると、予約検索タスクをユーザが編集または削除できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.ファイルがアップデートされ、関連するその他の設定に影響を与えずに、脆弱性検索ツールの予約検索タスクを編集および削除できるようになります。

EN: HotFix\_3624 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールで、ファイアウォールポリシーに 248 件を超える

## 例外を保存できない問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3625 / JP: n/a

EN: HotFix\_3626 / JP: n/a

### 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの挙動監視モジュールにより、プロセスの一部が応答しなくなり、スリープモードからシステムが再開されない問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、挙動監視モジュールに AntiHangLoose 機能が追加され、この問題が修正されます。

### 手順:

挙動監視モジュールの AntiHangLoose 機能をウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. テキストエディタを使用して、ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

AntiHangLoose=1

4. 変更内容を保存して、「ofcscan.ini」ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥  
services¥tmactmon¥Parameters  
名前: AntiHangLoose  
種類: dword  
データ: 0x00000001 (1)

7. ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって次のレジストリキーが自動的に設定されていることを確認します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥  
services¥tmactmon¥Parameters  
名前: AntiHangLoose  
種類: dword  
データ: 0x00000001 (1)

8. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。またはウイルスバスター Corp.クライアントプログラムをリロードします。

EN: HotFix\_3629 / JP: HotFix\_3629

問題:

ウイルスバスター Corp.の高度な保護サービスと Microsoft Internet Explorer に互換性がないため、「.xdw」ファイルをブラウザでダウンロード、および閲覧できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、Internet Explorer 上で、ウイルスバスター Corp.の高度な保護サービスが正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_3634 / JP: n/a

問題:

[EnableEventLog] オプションが有効な場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されても、対応する NT イベントログが Microsoft Windows のイベントログファイルに表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、[EnableEventLog] オプションが有効な場合にウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されると、ウイルスバスター Corp.クライアントの NT イベントログ機能によって、対応する NT イベントログが Windows のイベントログファイルに追加されるようになります。

EN: HotFix\_3639 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバ Web コンソールのスパイウェア/グレーウェア承認済みリストでは大文字と小文字が区別されるため、ウイルスバスター Corp.で、リスト項目と大文字または小文字が異なるだけのスパイウェアおよびグレーウェア名が認識および許可されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、スパイウェア/グレーウェア承認済みリストで大文字と小文字が区別される場合でも、リスト項目と大文字または小文字が異なるだけの名前が認識および許可されるようになります。

EN: HotFix\_3640 / JP: HotFix\_3640

## 問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバから送信される標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報が記載されていない問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバから送信される標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報を追加するためのオプションが提供されます。

## 手順 1:

ウイルスバスター Corp.サーバからの標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報を追加するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[管理]→[通知]→[管理者通知] の順に選択します。
3. [メッセージ] フィールドに「検索の種類: %b」を追加します。
4. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
5. [INI\_OUTBREAK\_ALERT\_SECTION] セクションに「Outbreak\_Alert\_SMTP\_ShowScanType」キーを追加して、値を「1」に設定します。
6. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

7. OfficeScan Master Service を再起動します。

~~~~~

問題 2:

コマンドを使用して、リモートドライブで手動検索を実行できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3641 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで、SCSI¥PCI プレ  
フィックスを持つ SD カードリーダーをブロックできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで.prt ファイルを  
ブロックできない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、dtSearch 7.81.8271 がインポートされ、.prt ファイルの新しい形式  
がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_3642 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Microsoft Outlook 2010 から  
USB デバイスへのファイルのコピーに時間がかかる問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Dropbox への Google Chrome を  
使用した機密ファイルのアップロードをブロックできない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3645 / JP: n/a



## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバが Control Manager からポリシーを取得する際、OfficeScan Master Service が予期せず停止することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3647 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションと Dragon NaturallySpeaking ソフトウェアとの間に互換性がない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3649 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、共有フォルダからの機密ファイルのコピーをブロックできない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、SMB サーバモードからの機密ファイルがブロックされるようになります。

EN: HotFix\_3650 / JP: n/a

## 問題:

ドメイン名に一重引用符記号 (') が含まれていてウイルスバスター Corp.クライアントが ScanNow コンソールにリストされない場合、ウイルスバスター Corp.サーバで ScanNow タスクを実行できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、このような状況下でも ScanNow タスクを実行できるようになります。

EN: HotFix\_3651 / JP: n/a

## 問題:

SQL Server をウイルスバスター Corp.データベースに使用している場合、クライアント数が多いと非管理下のエンドポイントのクエリで正しい結果が返されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3651.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールがクロスサイトスクリプティング (XSS) の脆弱性の影響を受ける問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3653 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の大規模感染通知メールメッセージに不完全なファイルパスが含まれることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3659 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールを Microsoft Windows 7 プラットフォームで実行すると、ブルースクリーンが表示されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3673 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の挙動監視で、ローカルパターンファイルの承認済みプログラムリストにインスタントメッセージャーの Pandion を手動で追加できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、挙動監視のローカルパターンファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3674 / JP: n/a

問題:

感染元のイベントによって生成されたウイルス/不正プログラムログに、感染元に関する

## 情報が何も含まれない問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、感染元のイベントによって生成されたウイルス/不正プログラムログに、特定の感染元に関する情報が含まれるようになります。

EN: HotFix\_3679 / JP: n/a

### 問題 1:

Enhanced Mitigation Experience Toolkit (EMET) 5.5 が有効な場合に、Internet Explorer などの起動アプリケーションに起因してウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションでブルースクリーン (BSOD) が発生する問題

### 修正 1:

本 Patch の適用後は、EMET によって挿入されるプロセスを回避することで、ブルースクリーンの問題が修正されます。

~~~~~

### 問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Internet Explorer を使用した Dropbox Web サイトへの機密ファイルのアップロードがブロックされない問題

### 修正 2:

本 Patch の適用後は、Dropbox の新しいバージョンに基づいて、Dropbox Web サイトへのアップロードがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_3679.1 / JP: n/a

### 問題:

キャビネットファイルのサイズが 300MB を超える場合、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用してウイルスバスター Corp.クライアントを Microsoft Windows 64 ビット OS にインストールできない問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントを正常にインストールできるように、ClientPackager ツールで生成されるキャビネットファイルのしきい値をユーザが調整できるようになります。

### 手順:

キャビネットファイルのしきい値を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Admin¥Utility¥ClientPackager」フォルダにある「ClnExor.ini」 ファイルを開きます。

3. [MSI] セクションで、「MaxSingleCabFileSizeInMB」 キーを追加して、値に「500」など、既定のインストールパッケージのサイズよりも大きい数値を設定してください。

例:

[MSI]

MaxSingleCabFileSizeInMB=500

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_3681 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.の「cgiShowClientAdm.exe」および「cgiShowServerAdm.exe」プロセスにクロスサイトスクリプティング (XSS) に対する脆弱性がある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 プログラムがアップデートされ、プロセスパラメータの特殊文字をフィルタして XSS を防御できるようになります。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのクライアントツリーで、文字化けが含まれるドメイン名を正しく表示できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ソート用の特殊文字など、事前に定義した特殊なキーワードをフィルタできるようになります。これにより、クライアントの自動グループ設定機能を使用して、ウイルスバスター Corp.サーバでクライアントツリーにドメイン名を正しく表示できるようになります。

手順 2:

特殊なキーワードを設定してウイルスバスター Corp.サーバでフィルタできるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. OfficeScan Master Service を停止します。

3. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

4. 次のセクションとキーを追加して、特殊なキーワードを設定します。  
たとえば、次のように指定します。

[MISC]

AdNameFilterString=?ou ?OU

注意: 複数の特殊なキーワードを指定する場合は「Tab」キーで区切ってください。

5. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

6. OfficeScan Master Service を起動します。

EN: HotFix\_3682 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントプログラムのスタートアップで起動するリアルタイム検索サービスを遅延させる機能が有効な場合、Windows プラットフォームで稼働するコンピュータへのログオンに時間がかかることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_3683 / JP: HotFix\_3683

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントがサーバへのウイルスログの送信に失敗した場合、そのクライアントはログの送信に成功するかハードコードされた回数に達するまで送信を繰り返すが、この回数の値をユーザが手動で設定できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントがログの送信に失敗した場合にサーバへの送信を試行する最大数を、ユーザが設定できるようになります。

手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントがウイルスバスター Corp.サーバにウイルスログの送信を試行する最大回数を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに、「SendLogRetryTimes」キーを追加して適切な値を設定します。
4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_3689 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバが Control Manager サーバからポリシーを受信すると、特定のクライアントだけでなく、ポリシーの対象となるすべてのクライアントに通知を送信する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバから特定のクライアントにポリシー設定を配信できるようになります。

EN: HotFix\_3700 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントのウイルス/不正プログラムログに短い検出名が表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、長い検出名が表示されるようになります。

EN: HotFix\_3704 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバが Control Manager 6.0 サーバから複数のポリシーを受信すると、最初のポリシーのみが適用される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

#### ■修正されるウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) の各問題

EN: HotFix\_4151 / JP: n/a

問題:

Microsoft Windows 10 をサポートするウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) クライアントを Windows 10 コンピュータにインストールした後、そのコンピュータをシャットダウンしようとするとき再起動する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバによって管理されているすべてのウイルスバスター Corp.クライアントに、アップデートされたネットワークフィルタドライバのファイルが配信され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4164 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに他の設定を配信した後、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [権限とその他の設定]→[検索用のキャッシュ設定] 画面で日数の設定が自動的に「0」にリセットされることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4165 / JP: n/a

問題:

MSI パッケージでインストールしたウイルスバスター Corp.クライアントの古いバージョンをウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントにアップグレードする場合、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 ではアンインストールパスワードの保存場所が異なるため、Microsoft Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面で正しいパスワードが受け入れられず、この画面からクライアントをアンインストールできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントのアンインストールパスワードが正しい場所に保存されるようになります。これにより、Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面から正しいパスワードを使用してウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントをアンインストールできるようになります。

EN: HotFix\_4165.1 / JP: HotFix\_4733.1

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用している場合に、管理者がドメインを選択して検索除外設定を保存すると、[検索除外リスト (ディレクトリ)] および

[検索除外リスト (ファイル)] の内容が自動的に削除される問題

修正:

本 Patch の適用後は、管理者が検索除外設定を保存しても、[検索除外リスト (ディレクトリ)] および [検索除外リスト (ファイル)] の内容は変更されなくなります。

EN: HotFix\_4170 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバがウイルスバスター Corp.クライアントの設定をデータベースにアップデートする際、クライアントの GUID を検証せずに古い情報を削除するため、データベースに以前の GUID エントリがないウイルスバスター Corp.クライアントが初期設定に戻る問題

修正:

本 Patch の適用後は、GUID の確認メカニズムが追加され、クライアント情報をアップデートする際、データベースのクライアントテーブルに特定のクライアントの GUID が存在するかどうか検証されるようになります。クライアントテーブルに GUID がない場合はエラーメッセージが返され、クライアントの設定は上書きされません。

EN: HotFix\_4171 / JP: n/a

EN: HotFix\_4191 / JP: n/a

問題 1:

Control Manager 6.0 サーバからウイルスバスター Corp.のポリシーを配信すると、挙動監視設定の [承認済みプログラム] リストに、最初の「P」または「T」以降の文字が切り捨てられるなど、不完全なパス名が表示されることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.プログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.の大規模感染メール通知に感染ファイルの名前とパスが正しく表示されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 3:

ウイルスバスター Corp.クライアントのセルフプロテクション機能が有効な場合、ウイ



ルスバスター Corp.クライアントプログラムの情報漏えい対策オプションのモジュール  
で機密情報の送信を検出できない問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートさ  
れ、情報漏えい対策オプションのモジュールで機密情報の送信を検出できるようにな  
ります。

~~~~~

問題 4:

ウイルスバスター Corp.クライアントのダメージクリーンアップサービス (TSC.exe) が  
ファイルのデジタル署名を確認する際、クライアントコンピュータの Microsoft Windows  
証明書の有効期限が切れていると、ウイルスバスター Corp.クライアントのパフォー  
マンスに問題が発生することがある問題

修正 4:

本 Patch の適用後は、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名の確認を回避  
できるようになります。

手順 4: ウイルスバスター Corp.クライアントで、ダメージクリーンアップサービスに  
よるデジタル署名チェックを無効にするには、次の手順に従います。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダに  
ある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [Global Setting] セクションで、「DisableTSCSignatureCheck」キーを追加して値  
を「1」に設定します。

[Global Setting]

DisableTSCSignatureCheck=1

注意: ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名のチェックを有効にする  
場合は、「DisableTSCSignatureCheck」キーを削除して手順 4.に進みます。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グロー  
バルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DisableTSCSignatureCheck

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4175 / JP: HotFix\_4733.1

EN: HotFix\_4710 / JP: HotFix\_4733.1

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの管理コンソールから手動検索を実行する際、検索フォルダの選択ボックスに一部のドライブが表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のファイルが更新され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4176 / JP: HotFix\_4758

EN: HotFix\_4246 / JP: HotFix\_4758

EN: HotFix\_4758 / JP: HotFix\_4758

問題:

TmListen または NtrtScan プロセスが停止せず、コンポーネントのアップデートに失敗することがある問題

この問題は、AutoPCC プロセスとウイルスバスター Corp.クライアントの TmListen または NtrtScan プロセスがほぼ同時に起動される状況下で生じていました。

修正:

本 Patch の適用後は、TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定できるようになり、この問題が修正されます。

手順:

TmListen または NtrtScan プロセスの停止を試行する前に、AutoPCC プロセスがこれらのプロセスの起動を待機する時間を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

## 2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の

「¥PCCSRV¥Autopcc.cfg¥」フォルダにある「AUTOPCC.ini」ファイルを開きます。

## 3. [WaitTime] セクションに次のキーを追加して、その値に任意の時間を秒単位で設定します。

[WaitTime]

ServiceTimeout=XX

注意: キーの初期設定値は 75 秒です。

EN: HotFix\_4176.1 / JP: n/a

### 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) で C&C  
コールバック通知の「件名」に含まれるトークン変数を認識できず、対応する情報の代  
わりにトークン名が表示される問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4177 / JP: n/a

### 問題 1:

OfficeScan NT RealTime Scan サービスと挙動監視機能が同時に実行されている際に、  
システムが応答しなくなることがある問題

### 修正 1:

本 Patch の適用後は、上記の問題が修正されます。

~~~~~

### 問題 2:

ウイルスバスターCorp.クライアントで「upgrade.exe」が実行され続けることが  
ある問題

この問題は、ウイルスバスター Corp.サーバが、検索設定に変更がない場合にも、ウイ  
ルスバスターCorp.クライアントに検索設定変更の通知を繰り返し送るため生じていま  
した。

### 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスターCorp.サーバが、正しく通知を送るようになり  
ます。

EN: HotFix\_4178 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントでリアルタイム検索サービスを開始すると、Ntrtscan.exe プロセスが予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4179 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.ファイアウォールで保護されていないウイルスバスター Corp.クライアントに対して Control Manager サーバの「隔離」および「復元」コマンドが正常に動作せず、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールにエラーメッセージが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントから Control Manager サーバに「隔離」および「復元」コマンドの正しいステータスコードが送信されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4180 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントでリアルタイム検索サービスを開始すると、Ntrtscan.exe プロセスが予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4186 / JP: n/a

問題:

TCacheGenCli ツールが「REMOVE\_GUID」コマンドに応答しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4187 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントから受信したリクエストの MAC アドレスフィールドが空だった場合、ウイルスバスター Corp.サーバはその MAC アドレスを他のすべての既存クライアントの MAC アドレスと一致させるが、その結果、ウイルスバスター Corp.サーバでこれらのアドレスが重複として処理され、すべての既存クライアントの MAC アドレスが削除される問題

修正:

本 Patch の適用後は、MAC アドレスフィールドが空のリクエストを受信した場合、ウイルスバスター Corp.サーバで MAC アドレスの重複の確認をスキップできるようになります。

EN: HotFix\_4188 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用している場合、Control Manager サーバから複数のウイルスバスター Corp.クライアントにポリシー設定を配信すると、1 つの対象クライアントにしか設定が適用されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4190 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) へのアップグレード後、アップデートモジュールが正常に起動しないため、OfficeScan Master Service を起動できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールを正常に起動させるために証明書を確認する設定が可能になり、この問題が修正されます。

手順:

アップデートモジュールで証明書を確認できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥web¥service」フォルダにある「aucfg.ini」ファイルを開きます。
3. 次のキーを追加して、その値を「1」に設定します。

check\_file\_signature=1

注意: この機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_4191 / JP: n/a

問題 1:

HotFix または Patch の適用後、ウイルスバスター Corp.クライアントで対応するレジストリキーのビルド番号がアップデートされないか誤った値にアップデートされることがあり、その結果、Windows の [コントロール パネル]→[プログラム]→[プログラムと機能]→[バージョン] タブに誤ったビルド番号が表示される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正され、HotFix または Patch の適用後、ウイルスバスター Corp. 11.0 クライアントで対応するレジストリキーのビルド番号がただちに正しくアップデートされるようになります。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのダメージクリーンアップサービス (TSC.exe) がファイルのデジタル署名を確認する際、クライアントコンピュータの Microsoft Windows 証明書の有効期限が切れていると、ウイルスバスター Corp.クライアントのパフォーマンスに問題が発生することがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名の確認を回避できるようになります。

手順 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名チェックを無効にするには、次の手順に従います。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [Global Setting] セクションで、「DisableTSCSignatureCheck」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

DisableTSCSignatureCheck=1

注意: ダメージクリーンアップサービスによるデジタル署名のチェックを有効にする場合は、「DisableTSCSignatureCheck」キーを削除して手順 4.に進みます。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DisableTSCSignatureCheck

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4200 / JP: n/a

問題:

検索ログファイルが原因不明で破損すると、ウイルスバスター Corp.クライアントのアップグレード中に OfficeScan NT Listener サービスがクラッシュすることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで検索ログの無効なレコードを確認できるようになります。無効なレコードが検出された場合、ウイルスバスター Corp.クライアントはそのレコードをスキップし、次のレコードに移行します。

EN: HotFix\_4201 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策ルール「英国: RD&E 病院の患者番号」で小文字を含む番号を検出できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4202 / JP: HotFix\_4825

EN: HotFix\_4825 / JP: HotFix\_4825

問題:

ファイアウォールログをアップロードしないように設定されているウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントが、再起動後、アップロードを自動的に開始することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4203 / JP: HotFix\_4791

EN: HotFix\_4791 / JP: HotFix\_4791

問題 1:

情報漏えい対策オプション (DLP) サービスが起動していると、Oracle VirtualBox でゲストホストを起動できない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションを有効にしたエンドポイントで、上述の問題が回避されるようになります。

~~~~~

問題 2:

情報漏えい対策オプションで特定の SD カードリーダーを検出できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4204 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントが起動時にウイルスバスター Corp.サーバに接続できない場合、予約アップデートを実行できなくなる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4205 / JP: n/a

EN: HotFix\_4805 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の「tmeectv.dll」モジュールに関連するエラーにより、ハンドルリークが発生することがある問題



## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

## 問題 2:

Windows 7 以降のプラットフォームにウイルスバスター Corp.クライアントをインストールすると、ファイルサーバが応答しなくなることがある問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4207 / JP: HotFix\_5009

## 問題 1:

ファイルの入出力 (I/O) タスクが他のアプリケーションによって中断された場合、ウイルスバスター Corp.クライアントのリアルタイム検索が検索タスクを実行できずエラーメッセージも表示されない問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントがリアルタイム検索の状態をチェックし、結果をクライアントとサーバの両方に表示できるようになります。

## 手順 1:

リアルタイム検索の状態チェック機能を設定するには、次の手順に従ってください。

1. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
2. [Global Setting] セクションの下に、次の 2 つのキーを追加して、適切な値を設定します。

## [Global Setting]

EnableRTSHealthCheck=x

RTSHealthCheckFrequencyInMin=y

各要素の説明は次のとおりです。

"x" = "1": リアルタイム検索の状態チェック機能を有効にする

= "0": リアルタイム検索の状態チェック機能を無効にする

"y" = リアルタイム検索の状態チェックを行う間隔 (分単位。推奨値は 15)

3. ファイルを保存して閉じます。

4. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV¥Private」フォルダにある  
「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

5. [SERVER\_CONSOLE\_SECTION] セクションの下に、次のキーを追加して、適切な値を  
設定します。

```
[SERVER_CONSOLE_SECTION]  
ShowRealTimeScanHealth=z
```

各要素の説明は次のとおりです。

"z" = "1": サーバコンソールにリアルタイム検索の状態チェック機能の  
ステータスを表示する

= "0": サーバコンソールでリアルタイム検索の状態チェック機能の  
ステータスを非表示にする

6. ファイルを保存して閉じます。

7. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[グローバル  
クライアント設定] の順に選択します。

8. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのダッシュボードの検索画面でクライアント数  
のリンクをクリックすると、次のエラーメッセージが表示される問題

エラーが発生しました。ネットワークに接続されていることと、ウイルスバスター  
Corp.サービスが実行されていることを確認してください。エラーが再度発生した場合  
は、トラブルシューティングについてサポート担当者にお問い合わせください。

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズが拡張  
され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4208 / JP: n/a

問題:

特定の VPN クライアントプログラムを使用して IP アドレスを取得したウイルスバスター

Corp.クライアントにウイルスバスター Corp.サーバからファイアウォールポリシーを適用できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4210 / JP: HotFix\_4693

EN: HotFix\_4693 / JP: HotFix\_4693

問題:

ウイルスバスター Corp.の検索スレッドの処理方法の問題により、下記のような事象が発生することがありました。

- ウイルスバスター Corp.サーバ間でウイルスバスター Corp.クライアントを移動できない
- ウイルスバスター Corp.サーバが応答を停止する
- リアルタイム検索サービスが予期せず停止する

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、検索スレッドの処理方法の問題が修正されます。

EN: HotFix\_4210.1 / JP: HotFix\_4693

EN: HotFix\_4693.1 / JP: HotFix\_4693

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントから Microsoft Windows XP プラットフォームで稼働するリモートドライブに対して手動検索を正常に実行できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4211 / JP: n/a

問題:

Web アプリケーションを使用して Microsoft Word ドキュメントを開くと、ブラウザ脆弱性対策オプションに関連するエラーにより Microsoft Internet Explorer 8 が予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ブラウザ脆弱性対策オプションが Internet Explorer 8 で正常に機能するようになります。

EN: HotFix\_4211.1 / JP: n/a

問題 1:

RDP (リモートデスクトッププロトコル) または ICA (Independent Computing Architecture) を使用して Citrix ターミナルサーバに接続する環境で、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションにより Microsoft Outlook が応答を停止することがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

Control Manager でデータベースに SQL を利用している場合、ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに関する情報を取得できないことがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、データベースに SQL を利用しているウイルスバスター Corp.サーバから SQL サーバに接続できない場合、Control Manager で同期を回避できるようになります。

EN: HotFix\_4213 / JP: n/a

EN: HotFix\_4751.1 / JP: n/a

問題:

MSI パッケージでインストールしたウイルスバスター Corp.11.0 クライアントをバージョン 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) にアップグレードする際、正しいパスワードを受信できないために Windows の [コントロールパネル]→[プログラムと機能] 画面からクライアントをアンインストールできない問題

この問題は、ウイルスバスター Corp.11.0 がアンインストールパスワードを別の場所に保存しているために発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、Windows の [コントロール パネル]→[プログラムと機能] 画面から正しいパスワードを使用してウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) クライアントをアンインストールできるようになります。

EN: HotFix\_4213.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、実際には停止している iDLP サービスが実行中  
と表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションをインストールしたエンドポイントから  
Windows のサービスコントロールマネージャにステータスレポートを送信できるようにな  
ります。また、サービス起動時にタイムアウトが設定されるようになります。

EN: HotFix\_4215 / JP: HotFix\_4709

EN: HotFix\_4709 / JP: HotFix\_4709

問題:

[検索設定] 画面で設定を編集する際、[現在のリストを維持] オプションを選択す  
ると、検索除外リストをスクロールして項目を選択できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、検索除外リストのロックが解除され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4216 / JP: n/a

問題:

C&C コールバックイベントを検出するとウイルスバスター Corp.サーバからただちにメー  
ル通知が送信されるが、このメール通知の「C&C リストのソース」列の情報が正しくない  
ことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4217.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントでウイルスバスター Corp.サーバの IP アドレスを  
解決できない場合、ファイアウォールルール 10208 が機能しないために設定のアップデー  
トを受信できず、隔離されたネットワーク上のクライアントで設定を復元またはアップ  
デートできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ファイアウォールの初期化プロセスで DNS トラフィックの通過を許  
可するルールが追加されます。これにより、隔離されたネットワーク上のウイルスバス  
ター Corp.クライアントで設定のアップデートを受信できるようになります。

EN: HotFix\_4218 / JP: HotFix\_4698, HotFix\_4709

EN: HotFix\_4698 / JP: HotFix\_4698, HotFix\_4709

EN: HotFix\_4709.1 / JP: HotFix\_4698, HotFix\_4709

問題 1:

SQL 接続失敗時、ウイルスバスター Corp.サーバが SQL Server 利用不可アラートを送信しない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、SQL 接続失敗時、SQL Server 利用不可アラートが送信されるようになります。

~~~~~

問題 2:

[EnableEventLog] オプションが有効な場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されても、対応する NT イベントログが Microsoft Windows のイベントログファイルに表示されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、[EnableEventLog] オプションが有効な場合にウイルスバスター Corp.クライアントでシステムイベントが検出されると、ウイルスバスター Corp.クライアントの NT イベントログ機能によって、対応する NT イベントログが Windows のイベントログファイルに追加されるようになります。

EN: HotFix\_4220 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントを Control Manager のエンドポイント画面で隔離すると、クライアントが正常に隔離されている場合でも、次のエラーメッセージが表示される問題

「エンドポイントを隔離できません。そのエンドポイントにはウイルスバスター Corp.サーバとクライアントの両方がインストールされています。エンドポイントを隔離すると、ウイルスバスター Corp.サーバの機能が中断されます。」

この問題は、ウイルスバスター Corp.サーバがクライアントから隔離ステータスを受信せず、Control Manager に誤ったステータスを送信するために発生します。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントからサーバに正しい分離ステータスがただちに送信されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4224 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントのデバイスコントロール設定で USB および CD/DVD デ

バイスが「読み取り」に設定されているにもかかわらず、デバイス内にある特定のファイルの「DesiredAccess」フラグを変更する dllhost.exe の処理などのプロセスがブロックされる問題

修正:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、USB または CD/DVD 内にある特定のファイルの「DesiredAccess」フラグを変更する dllhost.exe のシステム処理が無視されるようになります。

EN: HotFix\_4225 / JP: n/a

問題:

Web レピュテーションパッチパターンファイルのバージョン情報がウイルスバスター Corp.クライアントのエンドポイントで正しく保存されず、パターンファイルが繰り返しダウンロードされ、ウイルスバスター Corp.サーバのネットワークトラフィックが大量に発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4227 / JP: HotFix\_4757

EN: HotFix\_4757 / JP: HotFix\_4757

問題:

Web コンソールの [グローバルクライアント設定] 画面の [検索設定] セクションで、[大容量圧縮ファイルの検索設定] にある文字列が次のように表示される問題

「圧縮ファイルのサイズが [ ] MB を上回る場合は、個々のファイルは検索しない」

修正:

本 Patch の適用後は、上記の文字列が次のように表示されるようになります。

「解凍後のサイズが [ ] MB を超える場合は検索しない」

EN: HotFix\_4227.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で、大文字を含むエントリが非監視対象の除外エントリとして扱われない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4229 / JP: HotFix\_4725, HotFix\_4781

問題:

ウイルスバスター Corp.挙動監視サービスモジュールでブルースクリーン (BSOD) が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、挙動監視サービスモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4231 / JP: HotFix\_4692, HotFix\_4733.1

EN: HotFix\_4692 / JP: HotFix\_4692

EN: HotFix\_4733.1 / JP: HotFix\_4692, HotFix\_4733.1

問題 1:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面にある [前回のウイルス検索日時 (手動)] および [前回のウイルス検索日時 (ScanNow)] の情報が手動検索タスクや ScanNow タスクの完了後に更新されない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のファイルが更新され、各ウイルス検索タスクの完了後、[前回のウイルス検索日時 (手動)] および [前回のウイルス検索日時 (ScanNow)] の情報がただちに更新されるようになります。

~~~~~

問題 2:

MSI パッケージからインストールしたウイルスバスター Corp. 10.6 クライアントを「アップデート」機能を使用してウイルスバスター Corp. 11.0 にアップグレードする際に、レジストリキー「DisplayVersion」の値がすぐに更新されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、レジストリキー「DisplayVersion」の値が更新され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4235 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで、SCSI\*PCI プレフィックスを持つ SD カードリーダーをブロックできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~



## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで.prt ファイルを  
ブロックできない問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、dtSearch 7.81.8271 がインポートされ、.prt ファイルの新しい形式  
がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4237 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのクライアントツリーで、日本語が含まれる  
ログオンユーザ名が正しく表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4237.1 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面において、ピリオド (.) をユーザ名に含むユーザの作成ができない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4238 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策ログに予期しない一致項目が表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4239 / JP: HotFix\_4755

EN: HotFix\_4755 / JP: HotFix\_4755

## 問題:

新たに挿入された USB デバイスがウイルスバスター Corp.クライアントでブロックされると、リアルタイム検索サービスが予期せず停止することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、上述のような状況下でリアルタイム検索サービスが正常に機能する  
ようになります。

EN: HotFix\_4240 / JP: n/a

問題:

「TmListen.exe」サービスの CPU 使用率が高くなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4241 / JP: HotFix\_4752

EN: HotFix\_4752 / JP: HotFix\_4752

問題:

アップデートエージェントでウイルスバスター Corp.クライアントを旧バージョンからバージョン 11 にアップグレードできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4242 / JP: HotFix\_4749

EN: HotFix\_4749 / JP: HotFix\_4749

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの挙動監視モジュールにより一部のプロセスが予期せず終了することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視サービスモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4243 / JP: n/a

問題:

Active Directory から組織単位 (OU) を削除した場合に、ウイルスバスター Corp.クライアントが含まれていなくても、その OU がウイルスバスター Corp.ドメインの [カスタムクライアントグループ] リストに残る問題

修正:

本 Patch の適用後は、Active Directory から削除した OU にウイルスバスター Corp.クライアントが含まれているかどうか確認され、含まれていない場合は [カスタムクライアントグループ] リストから削除されるようになります。

EN: HotFix\_4244 / JP: HotFix\_4755

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバの設定変更権限を持つウイルスバスター Corp.クライアントコンソールで変更を行った際、クライアントからサーバに提供される GUID が不完全なために変更内容がサーバに適用されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、上述のような状況下で完全な GUID が提供されるようになります。

EN: HotFix\_4245 / JP: n/a

EN: HotFix\_4756 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバの一時フォルダに多数の一時ファイルがある場合、ウイルスバスター Corp.クライアントからサーバに隔離ファイルをアップロードできない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、一時ファイルが削除され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4247 / JP: HotFix\_4759, HotFix\_4768

EN: HotFix\_4759 / JP: HotFix\_4759, HotFix\_4768

EN: HotFix\_4256 / JP: HotFix\_4768

## 問題:

コマンドを使用して、リモートドライブで手動検索を実行できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4252 / JP: HotFix\_4764

EN: HotFix\_4304 / JP: HotFix\_4764

EN: HotFix\_4764 / JP: HotFix\_4764

## 問題 1:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Microsoft Outlook 2010 から USB デバイスへのファイルのコピーに時間がかかる問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Dropbox への Google Chrome を

使用した機密ファイルのアップロードをブロックできない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 3:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで機密情報を含む Microsoft Excel ワークブック (\*.xlxs) などのファイルタイプをブロックできない問題

この問題は、情報漏えい対策機能でこれらのファイルの内容が正しく抽出されないことに起因して生じていました。

修正 3:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4253 / JP: HotFix\_4766

EN: HotFix\_4766 / JP: HotFix\_4766

問題:

ヘッダ長がハードコードされた制限を超えている場合、POP3 メールメッセージを検索できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、POP3 メールメッセージのヘッダ長の制限を設定できるようになります。

手順:

POP3 メールメッセージのヘッダ長の制限を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「HdrPerEnt」キーを追加して、適切な値をヘッダフィールド数で指定します。たとえば、ヘッダフィールド数を 100 に設定するには、次のように指定します。

[Global Setting]

HdrPerEnt=100

注意: このキーの初期設定値は「64」で任意の値を指定できますが、1,024 未満に設定することをお勧めします。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Osprey¥Scan¥Common¥MailManager¥config  
名前: HdrPerEnt  
種類: dword  
データ: 0x00000064 (100)

7. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。

EN: HotFix\_4255 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策ログの文字列の長さが上限を超えると、OfficeScan Master Service が予期せず停止し、情報漏えい対策ログが表示されなくなる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.ファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4256 / JP: HotFix\_4768

問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバから送信される標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報が記載されていない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバから送信される標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報を追加するためのオプションが提供されます。

## 手順 1:

ウイルスバスター Corp.サーバからの標準通知およびアウトブレイク通知に検索の種類についての情報を追加するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[管理]→[通知]→[管理者通知] の順に選択します。
3. [メッセージ] フィールドに「検索の種類: %b」を追加します。
4. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
5. [INI\_OUTBREAK\_ALERT\_SECTION] セクションに「Outbreak\_Alert\_SMTP\_ShowScanType」キーを追加して、値を「1」に設定します。
6. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
7. OfficeScan Master Service を再起動します。

~~~~~

## 問題 2:

Web レピュテーションサービスのクエリタイムアウト値を指定するための下記の設定が、Windows (64 ビット) 環境にインストールされたウイルスバスター Corp.クライアントに正しく配信されない問題

ウイルスバスター Corp.サーバにある「ofcscan.ini」ファイルの [Global Setting] セクションに、次のキーを追加して適切な値を設定します。

[Global Setting]

RegCount=1

Reg1.Description=Web レピュテーションサービスのクエリタイムアウト:REG\_DWORD,HKLM,  
SOFTWARE¥TrendMicro¥Osprey¥Scan¥Common

Reg1.Key=!CRYPT!84030FB2DF67D2AF6E912DF0527D84E8D566D98

2932C6EC427ABDFE01658FF2AE03AA3998045B305170E5

C39D028C04437DD883A1485D279549B53AD300797E5415

4F1B480A!41BD912ABF49BD26323972B1B9E545027D0C9

DD5C9AC6E8806ED52E38A6801782C513783D02

Reg1.Value=

ウイルスバスター Corp.クライアントは本設定を次のレジストリに保存します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Osprey¥Scan¥Common¥  
URLFilter¥config¥LookupTimeout

名前: flag

種類: DWORD

データ: クエリタイムアウト値 (秒単位)

修正 2:

本 Patch の適用後は、Web レピュテーションサービスのクエリタイムアウト値を指定するための設定が、すべてのウイルスバスター Corp.クライアントに正しく配信されるようになります。

EN: HotFix\_4260 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの Web レピュテーション設定がウイルスバスター Corp.サーバからアップデートされるたびに、「Tminstall.log」ファイルに多数のログが追加される問題

修正:

本 Patch の適用後は、次の 2 つのイベントのログのみを「Tminstall.log」ファイルに追加するように、ウイルスバスター Corp.クライアントを設定できるようになります。

- TmIEPlugInBHO プラグインの初回インストール
- ウイルスバスター Corp.クライアントのアンインストール

この機能を有効にすると、「Tminstall.log」ファイルのサイズを制限できます。

手順:

前述の 2 つのイベントに関するログのみ「Tminstall.log」ファイルに追加するようにウイルスバスター Corp.クライアントを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「EnableTmInstallLog=0」を追加します。

[Global Setting]

EnableTmInstallLog=0

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥misc.¥  
名前: EnableTmInstallLog  
種類: REG\_DWORD  
データ: 0x00000000 (0)

EN: HotFix\_4262 / JP: n/a

問題 1:

Web メールに添付されたサイズの大きな不正ファイルが検出されると、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールによって多数のログが生成される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、同じファイルにより実行されたイベントを情報漏えい対策オプションモジュールがスキップする間隔を設定できるようになり、該当するイベントのログが生成されなくなります。

手順 1:

時間間隔を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「dlp.ini」ファイルを開きます。
3. [Configure] セクションに、「http\_file\_skip\_time」キーを追加して時間間隔を秒単位で設定します。

たとえば、時間間隔を 1 秒に設定するには、次のように指定します。



[Configure]

http\_file\_skip\_time=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[クライアント管理]→ドメインまたはクライアントを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順にクリックします。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに設定が配信され、次のキーが「¥Windows¥System32¥dagent¥」フォルダ内の「dsa.pro」ファイルに追加されます。

http\_file\_skip\_time=1

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで、Yahoo!メールで送信された機密ファイルがブロックされないことがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4269 / JP: HotFix\_4785.1

EN: HotFix\_4785.1 / JP: HotFix\_4785.1

EN: HotFix\_4789 / JP: HotFix\_4785.1

問題:

トレンドマイクロのアップデートモジュールが、下記のパスにあるフォルダから不要なアップデートフォルダを削除しないことがある問題

¥Web¥Service¥AU\_Data¥AU\_Storage

修正:

本 Patch の適用後は、トレンドマイクロのアップデートモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

注意: 不要なフォルダの削除は、ウイルスバスター Corp.の次の正常なアップ

デートの際に実行されます。本 Patch の適用後、ウイルスバスター Corp.  
サーバの次のアップデートを待って、上述のフォルダを確認してくだ  
さい。

EN: HotFix\_4270 / JP: HotFix\_4782

EN: HotFix\_4782 / JP: HotFix\_4782

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの承認済み USB ストレージデバイスの [デバイス  
コントロール設定] 画面で、USB のシリアル番号に番号記号 (#) を含む承認済みリスト  
を作成できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4274 / JP: n/a

問題 1:

IP アドレスを Control Manager の不審オブジェクトリストから検索除外設定に移動する  
と、Control Manager から配信される不審オブジェクトリストのアップデートがウイルス  
バスター Corp.クライアントに適用されず、ウイルスバスター Corp.クライアントの  
エンドポイントで C&C の誤検出が発生する問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントの予約検索が予期せず停止する問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデート  
され、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 3:

SQL Server をウイルスバスター Corp.データベースとして使用している場合、クライ  
アント数が多いと管理対象外のエンドポイントのクエリで正しい結果が返されない問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4274 / JP: HotFix\_4784

EN: HotFix\_4279 / JP: HotFix\_4784

EN: HotFix\_4784 / JP: HotFix\_4784

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで POP3 メール検索が有効な場合に、件名、本文、および送信者が空白のメールを受信することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4274.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールがクロスサイトスクリプティング (XSS) の脆弱性の影響を受ける問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4275 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、共有フォルダからの機密ファイルのコピーをブロックできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、SMB サーバモードからの機密ファイルがブロックされるようになります。

EN: HotFix\_4276 / JP: n/a

問題:

情報漏えい対策オプションの「UK: RD&E Hospital Number」のバリデータマッピングの問題により、情報漏えい対策ルールで一部の制限された情報をブロックできないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、「UK: RD&E Hospital Number」テンプレートで正しい情報漏えい対策オプションのバリデータが使用されるようになります。

EN: HotFix\_4277 / JP: n/a

問題 1:

SHA256 証明書とサードパーティの SSL ライブラリとの相互運用性の問題に起因して、Trend Micro Common Client Solution Framework サービスが応答を停止することが

## ある問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、関連モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

情報漏えい対策オプションステータスが、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールでは [中止されました]、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面では [実行中] と表示されることがある問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面に表示される情報漏えい対策オプションステータスが、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの情報と一致するようになります。

~~~~~

## 問題 3:

コンピュータの起動時に起動時クリーンアップドライバファイル (32 ビットプラットフォームでは TMEBC32.SYS、64 ビットプラットフォームでは TMEBC64.SYS) が C:\Windows\system32\DRIVERS フォルダにない場合、対応するレジストリエントリが [サービス] 画面に表示されるにもかかわらず、起動時クリーンアップドライバが起動しない問題

## 修正 3:

本 Patch の適用後は、起動時クリーンアップドライバがインストールされていない場合、または起動時クリーンアップドライバファイルが見つからない場合、ウイルスバスター Corp.クライアントに起動時クリーンアップドライバが自動的にインストールされるようになります。

EN: HotFix\_4278 / JP: n/a

EN: HotFix\_4788 / JP: n/a

## 問題 1:

OfficeScan NT Listener サービスが下記のパスにあるフォルダに頻繁にアクセスすることにより起因して、ローカルディスクで多数の書き込み操作が発生する問題

¥Temp¥LogServer

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、OfficeScan NT Listener サービスの「¥Temp¥LogServer」フォルダへのアクセス頻度が調整され、書き込み操作の回数が管理可能な範囲に維持されます。

~~~~~

#### 問題 2:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 へのアップグレード後、アップデートモジュールが正常に起動しないことに起因して、OfficeScan Master Service を起動できないことがある問題

#### 修正 2:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールを正常に起動させるために証明書の確認が可能になり、この問題が修正されます。

#### 手順 2:

アップデートモジュールで証明書を確認できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥web¥service」フォルダにある「aucfg.ini」ファイルを開きます。
3. 次のキーを追加して、その値を「1」に設定します。

```
check_file_signature=1
```

注意: この機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。

~~~~~

#### 問題 3:

検索の実行中、ウイルスバスター Corp.クライアントが Smart Protection Network のフィードバックに使用される「TSCCensus.exe」プロセスを予期せず開始することがあり、これが Microsoft Windows プラットフォームで発生すると、コマンドプロンプトが開いて「C:¥WINDOWS¥ TSCCensus.exe」が実行される問題

#### 修正 3:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで検索を実行中に「TSCCensus.exe」が実行されないようになります。

#### 手順 3:

検索の実行中に「TSCCensus.exe」が実行されないようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに、「EnableTSCCensus」キーを追加して値を「0」に設定します。

[Global Setting]

EnableTSCCensus=0

注意: 検索の実行中に「TSCCensus.exe」を実行できるようにするには、値を「1」に設定します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、メインメニューで [クライアント] → [グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc.¥

名前: EnableTSCCensus

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000000 (0)

EN: HotFix\_4278.1 / JP: HotFix\_4788

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバがファイアウォールログのセキュリティレベルを記録しないようにするための下記の設定が、Windows (64 ビット) 環境にインストールされたウイルスバスター Corp.クライアントに正しく配信されない問題

「ofcscan.ini」ファイルの[Global Setting] セクションに、「SkipFWLevelLog」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Section]

SkipFWLevelLog=1

注意: 本機能を無効にし、ウイルスバスター Corp.サーバがファイアウォールログのセキュリティレベルを記録するようにするには、値を「0」(初期設定) に設定します。

ウイルスバスター Corp.クライアントは本設定を次のレジストリに保存します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCoCurrentVersion¥Misc

名前: SkipFWLevelLog

種類: DWORD

データ: 0x00000001 (1)

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバがファイアウォールログのセキュリティレベルを記録しないようにするための設定が、すべてのウイルスバスター Corp.クライアントに正しく配信されるようになります。

EN: HotFix\_4280 / JP: HotFix\_4787

EN: HotFix\_4787 / JP: HotFix\_4787

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの挙動監視ドライバ (Tmcomm.sys) と一部のサードパーティ製システムドライバの相互運用性の問題によりブルースクリーン (BSOD) が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、挙動監視ドライバがアップデートされ、相互運用性の問題およびブルースクリーンの問題が修正されます。

手順:

この修正を配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールし、新しい挙動監視ドライバがクライアントに配信されるまで待ちます。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

3. [Global Setting] セクションに「TmCommBypassVolDevNormalizeReparse=1」キーを追加します。

[Global Setting]

TmCommBypassVolDevNormalizeReparse=1

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥

Services¥tmcomm¥Parameters¥

名前: BypassVolDevNormalizeReparse

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

7. ウイルスバスター Corp.クライアントの挙動監視サービスを再起動するか、クライアントコンピュータを再起動します。

EN: HotFix\_4282 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの挙動監視モジュールに関する問題により、OS が応答を停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、挙動監視モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4283 / JP: HotFix\_4797

EN: HotFix\_4295 / JP: HotFix\_4797

EN: HotFix\_4797 / JP: HotFix\_4797

問題 1:

Control Manager でウイルスバスター Corp.クライアントの検索除外リストに変更が適用されないことがある問題



## 修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

Microsoft Windows 7 を実行中のコンピュータ上のウイルスバスター Corp. クライアントで、Web サイトへのアクセスを適切にブロックできないことがある問題

この問題は、Web レピュテーションサービスが有効で不審接続監視サービスが無効な場合に生じていました。

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4286.1 / JP: HotFix\_4794

EN: HotFix\_4794 / JP: HotFix\_4794

## 問題:

Microsoft Internet Explorer 8 を使用して、ウイルスバスター Corp. Web コンソールで情報漏えい対策ルール、情報漏えい対策データ識別子、または情報漏えい対策ポリシーを日本語で作成すると、設定を保存した後、入力した日本語が表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、Internet Explorer 8 で、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの日本語が正しく表示されるようになります。

注意: 日本語が正しく表示されていない、情報漏えい対策テンプレート、データ識別子、ポリシーがすでに存在している場合は、本 Patch の適用後にそれらを再作成する必要があります。

EN: HotFix\_4287 / JP: HotFix\_4797

EN: HotFix\_4295 / JP: HotFix\_4797

EN: HotFix\_4797 / JP: HotFix\_4797

## 問題:

ウイルスバスター Corp.データベースへのイベントログの書き込み中にデータベースサーバが予期せず停止することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.データベースサーバへのイベントログの書き込みが問題なく実行されるようになります。

EN: HotFix\_4292 / JP: HotFix\_4833

問題 1:

「非ストレージ USB デバイス」に対するデバイスコントロール機能が有効な場合に、ウィルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで SCSI ディスクもブロックされる問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、「非ストレージ USB デバイス」に対するデバイスコントロール機能が有効な場合に、ウィルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で「USBLAN アダプタ」がブロックされないようになります。

~~~~~

問題 2:

ウィルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールでサーバメッセージ ブロック (SMB) の転送中にサイズの大きな一時ファイルが生成され、大量のディスク容量が使用される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、情報漏えい対策オプションモジュールで SMB による転送中に一時ファイルが生成されなくなります。

EN: HotFix\_4295 / JP: HotFix\_4797

EN: HotFix\_4797 / JP: HotFix\_4797

問題:

ウィルスバスター Corp. Web コンソールで情報漏えい対策ポリシーを設定し、クライアントに配信した後、その情報漏えい対策ポリシーがウィルスバスター Corp.クライアントコンピュータに正常に適用されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウィルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4296 / JP: n/a

問題:

Trend Micro Local Web Classification Server のデータベースが開いている間に破損すると、WRS でそのデータベースを復元できず、以降のアップデートが失敗する問題

修正:

本 Patch の適用後は、WRS データベースが開いている間に発生する可能性のあるエラーが管理され、エラー発生時に WRS でデータベースを再構築できるようになります。

EN: HotFix\_4300 / JP: n/a

問題 1:

サーバ認証機能が無効である場合、ウイルスバスター Corp.クライアントがアップデートエージェントからクライアントプログラムをアップグレードできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.サーバが Control Manager からポリシーを取得する際、OfficeScan Master Service が予期せず停止することがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4301 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL Server をデータベースに使用している場合、クライアントのドメイン情報に null 値があると、「DbServer.exe」プロセスでデータベース例外エラーが発生し、プロセスが予期せず停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバプログラムの SQL プロシージャがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4302.u / JP: n/a

問題:

管理者権限のないユーザが、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用して、64 ビット版の Windows 10 にウイルスバスター Corp.クライアントをインストールできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4304 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールを Microsoft Windows 7 プラットフォームで実行すると、ブルースクリーンが表示されることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4305 / JP: n/a

EN: HotFix\_4906 / JP: n/a

## 問題:

キャビネットファイルのサイズが 300MB を超える場合、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用してウイルスバスター Corp.クライアントを Microsoft Windows 32/64 ビット OS にインストールできない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントを正常にインストールできるように、ClientPackager ツールで生成されるキャビネットファイルのサイズのしきい値をユーザが調整できるようになります。

## 手順:

キャビネットファイルのしきい値を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Admin¥Utility¥ClientPackager」フォルダにある「ClnExor.ini」ファイルを開きます。
3. [MSI] セクションで、「MaxSingleCabFileSizeInMB」キーを追加して、値に「350」など、既定のインストールパッケージのサイズよりも大きい数値を設定してください。

## 例:

[MSI]

MaxSingleCabFileSizeInMB=350

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_4307 / JP: n/a

## 問題 1:

保護対象コンピュータでユーザがドキュメントまたは Web ページを印刷すると、Google Chrome 48.0.2564.10 の QUIC ネットワークプロトコルをウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールがブロックできないため、Google Chrome 48.0.2564.10 が予期せず停止する問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールで Google Chrome 48.0.2564.10 の QUIC をブロックできるようになり、ユーザが Web ページやドキュメントを問題なく印刷できるようになります。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールが、SD カードをブロックできないことがある問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、(正しく設定されている場合) ウィルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールは、SD カードをブロックできるようになります。

EN: HotFix\_4308 / JP: n/a

## 問題:

ユーザが信頼済みプログラムリストにプログラムを追加して [保存] ボタンを複数回クリックすると、信頼済みプログラムリストのエントリが重複する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4310 / JP: HotFix\_4810

EN: HotFix\_4810 / JP: HotFix\_4810

## 問題:

グループポリシーを使用してドライブを非表示にしても、そのドライブがウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの手動検索画面のフォルダツリーに表示されたままになる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、適切なドライブのみフォルダツリーに表示されるようになります。

EN: HotFix\_4719 / JP: n/a

## 問題:

C&C コールバックイベントを検出するとウイルスバスター Corp.サーバからただちにメール通知が送信されるが、このメール通知の「C&C リストのソース」列の情報が正しくないことがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4727 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで SQL データベースを使用する場合、管理者がドメインを選択して検索除外設定を保存すると、検索除外リスト (ディレクトリ) と検索除外リスト (ファイル) の内容が自動的に削除される問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4733 / JP: HotFix\_4733

問題:

SQL Server 移行ツールを使用してデータベースの移行ができない問題

この問題は、64 ビットの Windows OS 上で SQL Server 移行ツールを使用してデータベースの移行をする際に、SQL Server 2008 R2 SP2 Express のインストールに失敗するために起こっていました。

修正:

本 Patch の適用後は、SQL Server 2008 R2 SP2 Express のインストールが成功し、データベースが SQL Server へ移行できるようになります。

EN: HotFix\_4748 / JP: HotFix\_4771

EN: HotFix\_4771 / JP: HotFix\_4771

問題 1:

Microsoft Windows のイベントビューアのログで、ウイルスバスター Corp.の SQL サーバでデッドロックエラーが発生したと記録されることがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の SQL サーバでデッドロックエラーが発生しないようになります。

~~~~~

問題 2:

コンピュータが 4G LTE ネットワークなどのモバイルネットワークを介して接続されている場合、ウイルスバスター Corp.クライアントからウイルスバスター Corp.サーバに IP アドレスを送信できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、上述の問題が修正されます。

EN: HotFix\_4753.1 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面において、ピリオド (.) をユーザ名に含むユーザの作成ができない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4762 / JP: n/a

## 問題:

挙動監視設定の [承認済みプログラム] リストを配信すると、パス名の最初の「P」または「T」以降の文字が切り捨てられるなど、不完全なパス名が表示されることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.プログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4768 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.のスパイウェア/グレーウェア承認済みリストに登録されている特定のファイルまたはアプリケーションが、ウイルスバスター Corp.でスパイウェアまたはグレーウェアとして処理されてしまうことがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.のサーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4769 / JP: HotFix\_4751

## 問題:

「DomainSetting.ini」ファイルにマルチバイト文字が含まれていると、  
「dsu\_convert.exe」ツールが予期せず停止してエラーメッセージが表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、「dsu\_convert.exe」ツールでマルチバイト文字がサポートされるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4771 / JP: HotFix\_4771

## 問題:

ウイルスバスター Corp.のタスクの管理中に OfficeScan Master Service  
「OfcService.exe」が予期せず停止する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4780 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションにより PDF ファイルがブロックされる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、テンプレートがアップデートされてエンティティの 4 つの正規表現が修正され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4781 / JP: HotFix\_4915

EN: HotFix\_4879 / JP: HotFix\_4915

EN: HotFix\_4880 / JP: HotFix\_4915

## 問題:

ウイルスバスター Corp.の挙動監視によって有効なアプリケーションがブロックされる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視のローカルパターンファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4792.1 / JP: HotFix\_4792.1

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで、ウイルスバスター Corp.クライアントから MAC アドレスフィールドが空のリクエストを受信すると、サーバにより、すべての既存クライアントの MAC アドレスと空の MAC アドレスが比較され、その結果、これらの MAC アドレスが重複とみなされ、すべての既存クライアントが削除されてしまう問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、空の MAC アドレスで送信されたリクエストを、ウイルスバスター Corp.サーバで受信した際に、MAC アドレスの重複チェックがスキップされるようになります。

ALL: HotFix\_4801 / JP: n/a

ALL: HotFix\_4803 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントが、パターンファイルのアップデート中に改変さ



れたデータを受信し、そのデータが不正プログラムに関連する可能性がある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントに配信されるすべてのパターンファイルが、クライアントフォルダに組み込まれる前に検証されるようになります。

ALL: HotFix\_4803 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 へのアップグレード後、アップデートモジュールが正常に起動しないため、OfficeScan Master Service を起動できないことがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールを正常に起動させるために証明書を確認する設定が可能になり、この問題が修正されます。

手順 1:

アップデートモジュールで証明書を確認できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥web¥service」フォルダにある「aucfg.ini」ファイルを開きます。
3. 次のキーを追加して、その値を「1」に設定します。

```
check_file_signature=1
```

注意: この機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのクライアントツリーで、漢字が含まれるログオンユーザ名を正しく表示できない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 3:

OfficeScan Master Service から無効なログコマンドを受信しているときに、ウイルスバスター Corp. Control Manager エージェントのプロセスが予期せず停止することがある問題

## 修正 3:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、OfficeScan Master Service からウイルスバスター Corp. Control Manager エージェントに無効なコマンドが送信されなくなります。

EN: HotFix\_4822 / JP: n/a

## 問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールで、リアルタイム検索の検索実行設定に対する変更を保存できない問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスターCorp.クライアントコンソールで、リアルタイム検索の検索実行設定を正常に編集し、変更を保存できるようになります。

~~~~~

## 問題 2:

キャビネットファイルのサイズが 300MB を超える場合、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用してウイルスバスター Corp.クライアントを Microsoft Windows 32/64 ビット OS にインストールできない問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントを正常にインストールできるように、ClientPackager ツールで生成されるキャビネットファイルのしきい値をユーザが調整できるようになります。

EN: HotFix\_4824 / JP: HotFix\_4824

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバに追加の設定がされている場合、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント]→[クライアント管理]→[タスク]→[クライアントのアンインストール] 画面に、ウイルスバスター Corp.クライアントをアンロードするためのボタンが表示されるが、このボタンの表記が [アップロードの開始] になっている問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、このボタンの表記が [アンロードの開始] に修正されます。

EN: HotFix\_4826 / JP: HotFix\_4826

問題 1:

CD ドライブや USB デバイスにアクセスしていないにもかかわらず、保護対象コンピュータで CD ドライブの「アクセス拒否」通知を複数回受信することがある問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、挙動監視モジュールがアップデートされ、誤検出が発生することはなくなります。

~~~~~

問題 2:

ユーザが Web アプリケーションを使用して Microsoft Word ドキュメントを開くと、ブラウザ脆弱性対策に関連するエラーにより Microsoft Internet Explorer が予期せず停止する問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 3:

ウィルスバスター Corp.クライアントコンピュータで挙動監視機能を有効にしていると、ネットワーク共有にある実行可能ファイルを実行できない問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、挙動監視モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 4:

ウィルスバスター Corp.クライアントコンピュータで挙動監視機能を有効にしていると、一部のプログラムが正常に機能しないことがある問題

修正 4:

本 Patch の適用後は、挙動監視モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4828 / JP: n/a

問題:

UNC パスで指定されたリモートファイルサーバに対してランサムウェアセットがブロックされない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4830 / JP: HotFix\_4830

問題:

32 ビットの Microsoft Windows プラットフォームで稼働する 32 ビットのウイルスバスター Corp.クライアントで、リモートドライブに対して手動検索を実行した後一部のファイルハンドルが残る問題

この問題は、特に EMC ストレージデバイスで発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで、手動検索に同じ API セットが使用されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4833 / JP: HotFix\_4833

問題 1:

Enhanced Mitigation Experience Toolkit (EMET) 5.5 が有効な場合に、Internet Explorer などの起動アプリケーションに起因してウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションでブルースクリーン (BSOD) が発生する問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、EMET によって挿入されるプロセスを回避することで、ブルースクリーンの問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Internet Explorer を使用した Dropbox Web サイトへの機密ファイルのアップロードがブロックされない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、Dropbox の新しいバージョンに基づいて、Dropbox Web サイトへのアップロードがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4834.u / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバをバージョン 10.6 Service Pack 3 Patch 1.1 からバージョン 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) にアップグレードすると、Client Packager ツールで作成した MSI インストーラを使用して、ウイルスバスター Corp.クライアントをバージョン 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) にアップグレードできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4835 / JP: HotFix\_4835

問題:

2 月 29 日に次のコマンドを使用して証明書を生成すると内部エラーが発生する問題

CertificateManager.exe -c

この問題は、2 月 29 日に生成すると証明書の終了日時が自動的に 3 年後に設定され、証明書作成 API によってエラーが返されるために発生します。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバで、うるう年の証明書の終了日が正しく計算されるようになります。

EN: HotFix\_4836 / JP: n/a

問題:

Web コンソール上の [クライアントの自動グループ設定] の、Active Directory をソースにしたグループ設定の定義において、Active Directory ソースで子ノードがあるノードを選択したときに、その子ノードに対しての設定が保存されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、Active Directory ソースのすべてのノードの設定が正しく保存されるようになります。

EN: HotFix\_4836.1 / JP: n/a

問題:

キャビネットファイルのサイズが 300MB を超える場合、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用してウイルスバスター Corp.クライアントを Microsoft Windows 64 ビット OS にインストールできない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントを正常にインストールできるように、ClientPackager ツールで生成されるキャビネットファイルのしきい値をユーザが調整できるようになります。

EN: HotFix\_4837 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのクライアントリストで、並べ替えを実行した後、一部のウイルスバスター Corp.クライアントがリストに表示されなくなる問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、データベースサーバの論理エラーが修正され、クライアントの並べ替えを問題なく実行できるようになります。

EN: HotFix\_4838 / JP: n/a

EN: HotFix\_4849 / JP: n/a

**問題:**

キャビネットファイルのサイズが 300MB を超える場合、ClientPackager ツールで作成した MSI パッケージを使用してウイルスバスター Corp.クライアントを Microsoft Windows 64 ビット OS にインストールできない問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントを正常にインストールできるように、ClientPackager ツールで生成されるキャビネットファイルのサイズのしきい値をユーザが調整できるようになります。

**手順:**

キャビネットファイルのしきい値を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Admin¥Utility¥ClientPackager」フォルダにある「ClnExor.ini」ファイルを開きます。
3. [MSI] セクションで、「MaxSingleCabFileSizeInMB」キーを追加して、値に「350」など、既定のインストールパッケージのサイズよりも大きい数値を設定してください。

**例:**

[MSI]

MaxSingleCabFileSizeInMB=350

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_4840 / JP: HotFix\_4840

**問題:**

Web コンソールからウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションモジュールのデバイスコントロール設定を無効にしたにもかかわらず、クライアントコンソールで、[デバイスコントロールを有効にする] にチェックが入ったままになる問

## 題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この設定が無効な場合に、クライアントコンソールで情報漏えい対策オプションモジュールのデバイスコントロール設定画面が表示されないようになります。

EN: HotFix\_4841 / JP: HotFix\_4841

## 問題:

Scan Now 設定において [ウイルス検索を有効にする] オプションが無効であるにもかかわらず、[アップデート後、Scan Now を実行する (スタンドアロンモードのクライアントを除く)] オプションが有効な場合は、アップデート後に Scan Now が実行されることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、[アップデート後、Scan Now を実行する (スタンドアロンモードのクライアントを除く)] オプションが有効であっても、[ウイルス検索を有効にする] オプションが無効であれば Scan Now は実行されなくなります。

EN: HotFix\_4843 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバのデータベースで、クライアントの検索結果が予期したとおりに並べ替えられなかった問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのデータベースがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4854 / JP: n/a

## 問題:

クライアントの MSI インストールパッケージの作成時、クライアントパッケージに必要なすべての Visual C++ランタイムライブラリが正しく含まれない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、クライアントパッケージツールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4855 / JP: HotFix\_4855

## 問題:

ウイルスバスター Corp.サーバに大量のメモリ検査パターンファイルが維持されている

場合、Client Packager ツールでサイズの大きい MSI インストールパッケージが生成される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、Client Packager ツールで通常のサイズ範囲内の MSI パッケージが作成されるようになります。

EN: HotFix\_4856 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントからサーバにログをアップロードする際、大量の CGI 呼び出しによって Web サーバがビジー状態になり、Web コンソールが応答しないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのプログラムがアップデートされ、CGI 呼び出しの処理が向上し、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4857.1 / JP: n/a

問題:

Mozilla Firefox Web ブラウザで、機密情報を含むファイルを添付した新規メールメッセージを、Yahoo!メール経由で送信した場合、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションモジュールでブロックされない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションモジュールがアップデートされ、機密情報を含むファイルのメールへの添付がブロックされるようになります。

EN: HotFix\_4858 / JP: HotFix\_4858

問題:

TLS (Transport Layer Security) 1.2 を使用する Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバにウイルスバスター Corp.を登録しようとすると、登録に失敗し、Control Manager コンソールにエラーが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.で TLS 1.2 がサポートされるようになり、このプロトコルを使用して Control Manager サーバに登録できるようになります。

EN: HotFix\_4865 / JP: n/a



**問題:**

統合 Smart Protection Server (iSPS) がウイルスバスター Corp 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) サーバにインストールされていないと、初期設定のアップデートサーバの URL が AU.ini ファイルで設定されないため、クライアントの MSI インストールパッケージの作成時に、クライアントパッケージャツールで crcz.ptn ファイルを正常にアップデートできない問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) クライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4882 / JP: n/a

**問題:**

ウイルスバスター Corp.の挙動監視ランサムウェア対策機能で、除外リストに追加したソフトウェアがひきつづき、不正プログラムとして検出される問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、挙動監視の除外リスト処理プロセスが強化され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4885 / JP: n/a

**問題:**

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントプログラムの「Delay the RealTime Scan service from starting at startup」機能が有効な場合、Windows ブラウツォームで稼働するコンピュータへのログオンに時間がかかることがある問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4889 / JP: HotFix\_4902

**問題:**

ウイルスバスター Corp.クライアントが、意図しないファイルにアクセスされる攻撃を受ける可能性がある問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの確認メカニズムが強化され、意図しないファイルにアクセスされる攻撃から、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムが保護されるようになります。

EN: HotFix\_4890 / JP: n/a

問題:

挙動監視除外リストに重複するエントリが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、[挙動監視設定] 画面の [保存] ボタンがクリック直後に無効になるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4896.1 / JP: n/a

問題:

Veeam Endpoint Backup プログラムからのトラフィックがウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションのモジュールを誤って実行する問題

修正:

本 Patch の適用後は、Veeam Endpoint Backup および関連するすべての実行可能ファイルから送信されるトラフィックを API フックおよびネットワーク承認済みリストに追加して、ウイルスバスター Corp.クライアントの情報漏えい対策オプションモジュールでスキップできるようになります。

EN: HotFix\_4901 / JP: n/a

問題:

Google ドライブのネットワークプロトコルが切り替えられ、機密ファイルのやりとりなど、Google ドライブに関する違反を情報漏えい対策オプションのモジュール (SDK 6.0) エージェントで検出できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4902.1 / JP: n/a

問題:

英語版 Windows プラットフォームに英語版以外のウイルスバスター Corp.クライアントをインストールすると、アンインストールが正常に動作しないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4909 / JP: n/a

問題 1:

セルフプロテクション機能に起因して、ウイルスバスター Corp.クライアントのダンプ

## ファイルが削除されない問題

### 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントが再起動するとすぐに、ウイルスバスター Corp.クライアントの不要なダンプファイルが正常に削除されるようになります。

~~~~~

### 問題 2:

ウイルスバスター Corp.のアップデートエージェントからウイルスバスター Corp.クライアントに不審接続監視設定が配信されない問題

### 修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4912 / JP: n/a

### 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントの「OfficeScan Common Client Solution Framework」サービスのイメージパスに、二重引用符で囲まれていないスペースが含まれる問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、二重引用符が追加されます。

EN: HotFix\_4920 / JP: HotFix\_4920, HotFix\_4954

EN: HotFix\_4954 / JP: HotFix\_4920

### 問題:

Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) に表示される検出時の処理結果の情報が、ウイルスバスター Corp.のログ情報と一致しない問題

### 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバにより正しい処理結果が Control Manager へ送信されるようになり、Control Manager に表示される検出時の処理結果の情報とウイルスバスター Corp.のログ情報が一致するようになります。

EN: HotFix\_4921 / JP: n/a

### 問題 1:

保護されたコンピュータで情報漏えい対策機能を有効にすると、VMware ThinApp を起動できない問題

### 修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策機能と VMware ThinApp 間の相互運用性の問題が修正され、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

情報漏えい対策オプションモジュールで、.CATDrawing、.CATPart、.CATProduct ファイルなど、CAT ファイル内の「CATIA」ファイルのコンテンツを誤検出することがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4922 / JP: HotFix\_4922

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) クライアントを Web インストールする場合、ActiveX コンポーネントの「WinNTchk.dll」がアップデートされず、Web インストールに失敗する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバによって Web インストール時に「WinNTChk.cab」ファイルのバージョン情報が追加されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4926 / JP: HotFix\_4945

EN: HotFix\_4945 / JP: HotFix\_4945

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで「ofcserver.ini」ファイル进行处理する際にハンドルリークが発生し、ファイルが破損することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバで.ini ファイルが正しく処理されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4930 / JP: HotFix\_4930

問題 1:

Smart Protection ソースのカスタムリストで、IP 範囲が最大 50 件までしか追加できない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、Smart Protection ソースのカスタムリストに追加できる IP 範囲の最大数を設定できるようになります。

## 手順 1:

IP 範囲の最大数を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [SMART\_PROTECTION\_SETTING] セクションを追加し、そのセクションに「IPRangeListMaxSize」キーを追加して、設定したい最大数を指定します。
4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp. 11.0 を Service Pack 1 にアップグレードすると、デジタル署名キャッシュが正常に動作しなくなる問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4937 / JP: n/a

## 問題 1:

SHA256 証明書と基になるサードパーティ製の SSL ライブラリとの相互運用性に問題がある場合、OfficeScan Common Client Solution Framework サービスが応答しなくなることがある問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、関連モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムのインストール中に AutoPCC プロセスがハングすることがある問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、次の回避策によりこの問題が修正されます。

## 手順 2:

この回避策を有効にして AutoPCC を起動するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Autopcc.cfg」フォルダにある「AUTOPCC.ini」ファイルを開きます。

3. [Install] セクションに、次のキーを追加して適切な値を設定します。

[Install]

UseSysCall=x

各要素の説明は次のとおりです。

"x" = "1": この回避策を有効にします

= "0": この回避策を無効にします

4. ファイルを保存して閉じます。

EN: HotFix\_4939 / JP: n/a

問題:

複数のログオンセッションがある Windows Server プラットフォームで、ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションモジュールにより CPU 使用率が高くなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ログオンセッション情報のクエリについて、指定した時間(秒単位) 待機するように情報漏えい対策オプションモジュールを設定できるようになります。これにより、情報漏えい対策オプションによる頻繁なログオンセッション情報のクエリが行われなくなり、CPU 使用率が高くなることはなくなります。ユーザは、複数のログオンセッションを提供する Windows Server プラットフォームで稼働するウイルスバスター Corp.クライアントに、「monitor\_agent\_session\_time」キーを追加して設定する必要があります。

手順:

ログオンセッション情報のクエリ実行間隔を設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.クライアントをアンロードします。

3. 設定対象コンピュータの「%systemROOT%¥System32¥dsagent¥」フォルダにある「dsa.pro」ファイルを開きます。

4. 「monitor\_agent\_session\_time」キーを追加して、設定する実行間隔の値を秒で設定します。

例えば、値を「600」に設定した場合、ログオンセッション情報のクエリが 600 秒間待機されるようになります。

```
monitor_agent_session_time = 600
```

5. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。

EN: HotFix\_4940 / JP: n/a

問題:

セルフプロテクション機能に起因して、ウイルスバスター Corp.クライアントのダンプファイルが削除されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントが再起動すると、ウイルスバスター Corp.クライアントの不要なダンプファイルがただちに削除されるようになります。

EN: HotFix\_4940.1 / JP: n/a

問題:

挙動監視の除外リストに重複するエントリが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、[挙動監視設定] 画面で一度保存した後は [保存] ボタンがクリックできないようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4942 / JP: n/a

問題:

Microsoft Windows のドメインユーザアカウントを使用してウイルスバスター Corp.の CodeBase データベースを SQL データベースに移行すると、SQL スキーマのアップデート時に「conhost.exe」のアプリケーションエラーが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、SQL スキーマのアップデート時、Windows アプリケーションプログラム インタフェース (API) の代わりに別のメソッドが使用されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4943 / JP: n/a

問題:

ウイルス検索エンジンとリアルタイム検索サービスの競合により、ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータの起動が遅くなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで、リアルタイム検索サービスが正常に起動してからウイルス検索エンジンが起動されるようになります。

EN: HotFix\_4946 / JP: n/a

問題:

インターネットに接続できない隔離されたネットワーク環境では、OfficeScan NT RealTime Scan サービスが原因で、ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータでの.TIF ファイルのコピーまたは移動に時間がかかることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムが強化され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4947 / JP: HotFix\_4947

問題:

Trend Micro Control Manager サーバがウイルスバスター Corp.クライアント情報の同期要求を送信したとき、OfficeScan Master Service により CPU 使用率が高くなる問題

これは、次のレジストリキーの値が以下のように設定されている場合に発生していました。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

TrendMicro Control Manager Agent¥OSCE

名前: ClientInfoEnabled

データ: 0x00000000 (0)

修正:

本 Patch の適用後は、上述のレジストリキー「ClientInfoEnabled」が設定されるときに発生する同期要求の処理のループを防止するために、同期要求のイベントオブジェクトがリセットされるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4948 / JP: n/a

問題:

ネットワーク接続数が多いと、情報漏えい対策オプションモジュールによるホスト名か



らの IP アドレスの取得により長い時間がかかることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、FQDN がグローバル承認済みリストにあり、その FQDN を使用してユーザが現在リモートサーバに接続している場合、情報漏えい対策オプションモジュールで IP アドレスの取得をスキップできるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4950 / JP: n/a

問題:

既存のファイルシステムにフォルダとしてマップされているドライブ (マウントポイント) に対してウイルスバスター Corp.の除外リストが機能しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントが承認済みデバイスの完全なリストを受信できるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4954 / JP: HotFix\_4920

EN: HotFix\_4954.1 / JP: HotFix\_4954.1

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントが不正プログラムを検出した際に表示されるポップアップに、ウイルスを正しく処理できなかった場合でも、「次の脅威またはセキュリティポリシー違反が解決されました。」というメッセージが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、「次の脅威またはセキュリティポリシー違反が検出されました。」というメッセージが表示されるようになります。

EN: HotFix\_4956 / JP: n/a

問題:

存在しないウイルスバスター Corp.クライアントにウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策ポリシーが割り当てられている場合、そのポリシーを削除できないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4958 / JP: n/a

問題:

[クライアント管理]→[設定]→[権限とその他の設定]→[その他の設定] 画面の [システムトレイあるいは Windows スタートメニューからクライアントコンソールへのアクセスを

許可しない] オプションが有効な場合、ウイルスバスター Corp.クライアントで手動検索のショートカットメニューが機能しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4960 / JP: HotFix\_4960

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバ Web コンソール側の [製品ライセンス] 画面で [エンドポイントのファイアウォール] を無効にしているにもかかわらず、[クライアント管理]→[設定]→[権限とその他の設定] 画面でファイアウォールの設定オプションが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、[製品ライセンス] 画面で [エンドポイントのファイアウォール] を無効にしている場合はファイアウォールの設定オプションが自動的に非表示になり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4961 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに設定変更通知が 2 回送信される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、1 回の設定変更につき 1 回のみ送信されるようになります。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのウイルス/不正プログラムログに短い検出名が表示される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、長い検出名が表示されるようになります。

EN: HotFix\_4961.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面で、詳細検索タスクが 1 分以上かかって検索結果を表示しないままタイムアウトになることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、タイムアウト値が 10 分に設定され、詳細検索の結果が正常に表示さ

れるようになります。

EN: HotFix\_4962 / JP: n/a

問題:

エンコードとデコードの呼び出しメカニズムが一致しないため、ウイルスバスター Corp.が Active Directory サーバと同期できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4965 / JP: HotFix\_4983

問題:

システムの起動時、ウイルスバスター Corp.クライアントから「ウイルス対策の状態」が Windows セキュリティセンター (WSC) に送信されるが、再起動後、WSC にウイルスバスター Corp.の一部のコンポーネントが最新でないと表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムが WSC に状態を送信するまでの時間が短縮され、この問題が修正されます。

手順:

この修正を配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。、新しいプログラムがクライアントに配信されるまで待ちます。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「FirstTimerSystemInterva」キーを追加して、値を「5」に設定します。  
  
[Global Setting]  
FirstTimerSystemInterval=5
4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: FirstTimerSystemInterval

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000005 (5)

7. クライアントコンピュータを再起動します。

EN: HotFix\_4974 / JP: HotFix\_4983

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの [前回のアップデート] に表示される日時が、スマートスキャンエージェントパターン (スマートスキャンの場合) またはウイルスパターンファイル (従来型スキャンの場合) の更新日と混同されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの [前回のアップデート] 情報として、[コンポーネントバージョン] 画面で表示される [スマートスキャンエージェントパターン] の更新日と同じ情報が表示されるようになります。

検索方法を [スマートスキャン] から [従来型スキャン] に変更している場合は、ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの [前回のアップデート] 情報として、[コンポーネントバージョン] 画面で表示される [ウイルスパターンファイル] の更新日と同じ情報が表示されるようになります。

EN: HotFix\_4976 / JP: HotFix\_4976

問題:

Active Directory のパスワードに一部の特殊文字を使用できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4977 / JP: n/a

問題:

## TMWFP ドライバと tmeevw サービスの相互運用性の問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4980 / JP: n/a

## 問題:

Trend Micro Local Web Classification Server ファイルのコピーが成功しているにもかかわらず、ウイルスバスター Corp.サーバからリターンコード「9009」が返される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4983 / JP: HotFix\_5009

EN: HotFix\_5009 / JP: 5009

## 問題:

ネットワークドライブ上のファイルに対して [不正な暗号化や変更から文書を保護] が機能しない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4986 / JP: n/a

## 問題:

データベースにまだエントリがないウイルスバスター Corp.クライアントがデータベースに対してクエリを実行すると、予期しないエラーが発生する問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバがアップデートされ、クライアントエントリの準備ができるまで、データベースに対するクエリが実行されないようになります。

EN: HotFix\_4992 / JP: HotFix\_4992

## 問題:

特殊な USB デバイスのデバイス情報が通常のフォーマットと異なる場合、デバイスリストツール (ListDeviceInfo.exe) にそのデバイス情報が表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、デバイスリストツール (ListDeviceInfo.exe) がアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_4993 / JP: n/a

問題:

Active Directory の構造に基づいてウイルスバスター Corp.クライアントの自動グループ化を実行した場合、[クライアント管理] 画面で正しくないドメイン構造が表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、Active Directory の構造に基づいた自動グループ化の実行後に、[クライアント管理] 画面に Active Directory の正しいドメイン構造が表示されるようになります。

EN: HotFix\_4995 / JP: n/a

問題:

算術オーバーフローエラーが発生し、次の Microsoft Windows アプリケーションのイベントログが記録される問題「expression をデータ型 int に変換中に、算術オーバーフローエラーが発生しました。」

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバデータベースのプロセス (dbserver.exe) がアップデートされ、パラメータの順序が入れ替えられることにより、算術オーバーフローイベントが発生しなくなります。

EN: HotFix\_4996 / JP: HotFix\_4996

問題:

コマンドラインインタフェースでクライアントパッケージツールを実行してクライアントインストールパッケージを作成する場合、新規にインストールするすべてのクライアントが属するドメインを指定できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、クライアントパッケージツールがアップデートされ、上述の場合に新規にインストールするクライアントのドメインを「/domain」パラメータで指定できるようになります。

EN: HotFix\_4999 / JP: n/a

問題:

JSON データに関する問題により、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [情報漏えい対策設定] 画面の内容が表示されず、情報漏えい対策設定をクライアントに配信できないことがある問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、FlushJson 関数が変更され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5002 / JP: n/a

**問題:**

サーバプラットフォーム (Windows Server 2003、Windows Server 2008、および Windows Server 2012) で、次の各サービスが初期設定で無効に設定される問題

- 不正変更防止サービス
- 不審接続監視サービス
- 高度な保護サービス

上記の各サービスは強力な保護機能を提供しますが、これらのサービスの監視メカニズムがシステムリソースの負荷となる場合があります。特に、Windows Server プラットフォームでは、システムリソースに重い負荷がかかることがあります。そのためこれらのサービスは、初期設定では無効に設定されます。

**修正:**

本 Patch の適用後は、Windows Server プラットフォームに新規にインストールするウイルスバスター Corp.クライアントで、上記のサービスを初期設定で有効に設定できるようになります。

**手順:**

Windows Server プラットフォームに新規にインストールするウイルスバスター Corp.クライアントで上記のサービスを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに、次のキーを追加して値を「1」に設定します。

```
[INI_SERVER_SECTION]
CheckAegisOnServer=1
CheckNCIEOnServer=1
CheckCCSFOnServer=1
```

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

6. [ServiceSwitch] セクションで、次のキーを探して値を「1」に設定します。

```
[ServiceSwitch]
EnableAEGISOnServer=1
EnableNCIEOnServer=1
EnableCCSFOnServer=1
```

7. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_5003 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の挙動監視機能により正当なプログラムがブロックされる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視のローカルパターンファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5008 / JP: HotFix\_5008

問題 1:

CD/DVD への書き込みで [USB フラッシュドライブと同じように使用する] を選択している場合、ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプション (DLP) で Windows エクスプローラ (Explorer.exe) の CD/DVD への書き込みをブロックできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

Windows エクスプローラ (Explorer.exe) の CD/DVD プレーヤの機能を使用して、200 件を超えるファイルを CD/DVD に書き込んだ場合、情報漏えい対策オプションで情報漏えい対策ログが最大 200 件までしか記録されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、キューのサイズが拡張され、最大 100,000 件のログが記録されるようになります。

EN: HotFix\_5009 / JP: 5009



**問題:**

情報漏えい対策ログのデータベースファイルが破損すると、ウイルスバスター Corp. サーバに情報漏えい対策ログが 5 分間隔で重複してアップロードされる問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

**手順:**

ウイルスバスター Corp.クライアントから情報漏えい対策ログがウイルスバスター Corp.サーバに重複してアップロードされないようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「ReindexDLPViolationLog」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

ReindexDLPViolationLog=1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: ReindexDLPViolationLog

種類: dword

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_5014 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバが Control Manager 6.0 サーバから複数のポリシーを受信すると、最初のポリシーのみが適用される問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5015 / JP: HotFix\_5020

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント]→[クライアント管理]→[設定]→[検索設定]→[リアルタイム検索設定] 画面の [メモリから検出された不正プログラムの変種を隔離] オプションおよびブラウザ脆弱性対策機能の両方が有効な場合、リアルタイム検索を実行中にウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータが応答を停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5016 / JP: HotFix\_5062

問題:

必要な権限のないゲストユーザでも、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの設定を変更できることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、「TrendAuthDef.xml」ファイルに RBA ルールが追加され、CGI を使用してこのファイルからより多くの情報が取得できるようになります。これにより、必要な権限のないユーザはウイルスバスター Corp. Web コンソールの設定を変更できなくなります。

EN: HotFix\_5018 / JP: HotFix\_5018

問題:

統合 Smart Protection Server をインストールしていないにも関わらず、Web コンソールの [管理]→[Smart Protection]→[Smart Protection ソース] 画面の標準リストに統合 Smart Protection Server が表示される問題

この問題は Critical Patch (ビルド 4665) を適用している環境で発生します。

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5020 / JP: HotFix\_5020, HotFix\_5020.1

EN: HotFix\_5020.1 / JP: n/a

問題 1:

予約検索の延期時間を最大 12 時間に設定しているにもかかわらず、タスクトレイのウイルスバスター Corp.クライアントアイコンを右クリックして [予約検索の詳細設定] を選択した際に、表示される通知ウィンドウ上で 11 時間までしか設定できない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで予約検索の延期時間を 12 時間に設定できるようになります。

~~~~~

問題 2:

起動時クリーンナップドライバのレジストリエントリがサービスに存在するにもかかわらず、起動時クリーンナップドライバファイルが Windows¥system32¥DRIVERS ディレクトリに存在しない場合に、システム起動時に起動時クリーンナップドライバが開始しない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、起動時クリーンナップドライバがインストールされていない場合、または起動時クリーンナップドライバファイルが見つからない場合、ウイルスバスター Corp.クライアントに起動時クリーンナップドライバをインストールすることで、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5024 / JP: n/a

問題:

VSEncode ツールを使用してウイルスファイルを復号化する際にエラーが発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5028 / JP: HotFix\_5028

問題:

クライアントパッケージで、インストールパスを指定して作成したセットアップパッケージが、Windows 10 Anniversary Update (32 ビット版) を適用済みのコンピュータ

で、初期設定のパスにインストールされてしまう問題

修正:

本 Patch の適用後は、インストールパスの指定が正しく機能するようになります。

EN: HotFix\_5029 / JP: n/a

EN: HotFix\_5031 / JP: n/a

問題:

Internet Explorer 11 でウイルスバスター Corp.ブラウザプラグインが有効な場合に CPU 使用率が高くなる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ブラウザ偽装対策モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5030 / JP: HotFix\_5030

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面で、次の検索の「検索除外リスト」情報をエクスポートすると、生成される CSV ファイルにウイルスバスター Corp.クライアントのドメイン設定情報が含まれない問題

- 手動検索
- リアルタイム検索
- 予約検索
- ScanNow

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、各ウイルスバスター Corp.クライアントのドメイン設定情報が正しくエクスポートされるようになります。

EN: HotFix\_5032 / JP: HotFix\_5032

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータの電源がオフになり予約検索が中断された場合に、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] 画面の [予約検索設定] セクションにある [中断された予約検索の再開] オプションが機能しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートさ

れ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5033 / JP: HotFix\_5033

問題:

ファイアウォールポリシーに 249 の倍数になる数の除外設定が存在する場合、Web コンソールでファイアウォールの除外リストが正しく表示されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、サーバプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5037 / JP: HotFix\_5037

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントでリアルタイム検索のステータス確認機能が無効になっている場合でも、サーバにステータスが一定の間隔で送信され、ネットワークトラフィックが増加する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_5038 / JP: HotFix\_5038

問題 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、OfficeScan NT Listener サービスが不審接続監視サービスのネットワークコンテンツ検査エンジン機能の管理中に応答を停止する問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムがアップデートされ、TmListen サービスによるネットワークコンテンツ検査エンジン機能の管理方法が強化されます。

~~~~~

問題 2:

メモリリークが発生し、「Ofcservice.exe」が予期せず停止することがある問題

この問題は、「OfcNotifyQueue.dll」ファイルに関連して発生するメモリ割り当ての問題に起因していました。

修正 2:

本 Patch の適用後は、メモリ割り当ての問題が発生しないようになり、この問題が修正されます。

JP: HotFix\_5070

問題:

ランサムウェア対策機能でファイルの感染率が参照されず、プロセスが終了してしまう問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントで、ランサムウェアを識別するためのプロセスチェーンが確認されるようになります。すべての上位プロセスについて Smart Protection Network にクエリを実行し、対象プロセスを終了するかどうかを決定します。

#### ■修正されるウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 6077)の各問題

EN: HotFix\_6067 / JP: n/a

問題:

以前のビルドの挙動監視で 32 ビットプラットフォームの Meerkat 機能が正常に動作しないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、新しいビルドの挙動監視モジュールが提供され、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6080 / JP: n/a

問題:

Critical Patch (ビルド 6077) を適用したウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の「tmeectv.dll」モジュールに関連する問題によって、ハンドルリークが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、Critical Patch (ビルド 6077) を適用したウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 クライアントのファイルがアップデートされ、ハンドルリークの問題が発生しなくなります。

EN: HotFix\_6082 / JP: HotFix\_6155

EN: HotFix\_6155 / JP: HotFix\_6155

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバで「ofcserver.ini」ファイル进行处理する際にハンドルリークが発生し、ファイルが破損することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバで.ini ファイルが正しく処理されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6084 / JP: n/a

問題:

Control Manager サーバに登録して不審オブジェクトリストを取得できず、「-1」エラーが返される問題

修正:

本 Patch の適用後は、Local Web Classification Server (LWCS) を有効にするだけでなく、インストールして有効にすることによって、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6084.1 / JP: HotFix\_6216, HotFix\_6252

問題:

ユーザモードフック (UMH) ドライバにより、予期しないエラーが発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、UMH ドライバがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6084.2 / JP: n/a

問題 1:

[ネットワークドライブを検索] 設定が無効な場合でも、リアルタイム検索でネットワークドライブが検索される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ウイルスバスター Corp.クライアントのウイルス/不正プログラムログに短い検出名が表示される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのウイルス/不正プログラムログに長い検出名が表示されるようになります。

EN: HotFix\_6085 / JP: HotFix\_6085

問題:

Microsoft Windows 10 Redstone プラットフォームで情報漏えい対策オプションサービスを有効にすると、ブルースクリーン (BSOD) が発生する問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6085.1 / JP: HotFix\_6085.1

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールで [デバイスコントロール設定] 画面の設定を保存できない問題

この問題は、[クライアント管理] 画面でルートドメインアイコンを選択して [デバイスコントロール設定] 画面の設定を編集した場合に発生します。

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6088 / JP: n/a

問題:

Microsoft Windows のドメインユーザアカウントを使用してウイルスバスター Corp.データベースを CodeBase から SQL データベースに移行すると、SQL スキーマのアップデート時に「conhost.exe」アプリケーションエラーが発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、SQL スキーマのアップデート時、Windows アプリケーションプログラムインタフェース (API) の代わりに別のメソッドが使用されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6091 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.アップデートエージェントからウイルスバスター Corp.クライアントに不審接続監視設定が配信されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6094 / JP: n/a

問題:

Critical Patch (ビルド 6077) の適用後、Microsoft Office 2007 のドキュメントを Microsoft SharePoint 2010 から開けない問題

修正:



本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の DRE モジュールが強化されます。DRE モジュールではリモートドライブファイルがバックアップされないため、挙動監視モジュールから DRE モジュールへのリモートドライブファイルイベントの送信をスキップする必要があります。

EN: HotFix\_6098 / JP: n/a

#### 問題:

クライアントのインストール前に、ウイルスバスター Corp.クライアントを、クライアントコンピュータで事前定義していたマルチレイヤードメインに割り当てられない問題

#### 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバおよびクライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

#### 手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントを、クライアントのインストール前にクライアントコンピュータで事前定義していたマルチレイヤードメインに割り当てるには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. クライアントコンピュータで Windows レジストリエディタを開きます。
3. 目的のドメインについて次のレジストリ情報を追加します。

32 ビット版のウイルスバスター Corp.クライアントの場合:

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion]  
"Domain"="ドメイン名"  
"Server"="サーバ名"  
"ServerPort"=dword:xxxxxxx
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion¥Internet  
Settings]  
"ServerPort"=dword:xxxxxxx  
"Server"="サーバ名"  
"UseProxy"=dword:00000000
```

64 ビット版のウイルスバスター Corp.クライアントの場合:

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion]
```

"Domain"="ドメイン名"

"Server"="サーバ名"

"ServerPort"=dword:xxxxxxx

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorpOnce¥CurrentVersion¥Internet  
Settings]
```

"ServerPort"=dword:xxxxxxx

"Server"="サーバ名"

"UseProxy"=dword:00000000

#### 4. ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールします。

EN: HotFix\_6101 / JP: n/a

問題:

既存のファイルシステムにフォルダとしてマップされているドライブ (マウントポイント) に対して、ウイルスバスター Corp.検索除外リストが機能しない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントが承認済みデバイスの完全なリストを取得できるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6103 / JP: n/a

問題:

ドイツ語版のウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 コンソールの [グローバルクライアント設定] 画面に翻訳上の誤りがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6106 / JP: n/a

問題:

Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) に表示される検出時の処理結果の情報が、ウイルスバスター Corp.のログ情報と一致しない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバにより正しい処理結果が Control Manager へ送信されるようになり、Control Manager に表示される検出時の処理結果の情報とウイルスバスター Corp.のログ情報が一致するようになります。

EN: HotFix\_6110 / JP: HotFix\_6110

## 問題:

特殊な USB デバイスのデバイス情報が通常のフォーマットと異なる場合、デバイスリストツール (ListDeviceInfo.exe) にそのデバイス情報が表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、デバイスリストツール (ListDeviceInfo.exe) がアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6111 / JP: n/a

## 問題:

メモリリークが発生し、「Ofcservice.exe」が予期せず停止することがある問題

この問題は、「OfcNotifyQueue.dll」ファイルに関連して発生するメモリ割り当ての問題に起因していました。

## 修正:

本 Patch の適用後は、メモリ割り当ての問題が発生しないようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6111.1 / JP: HotFix\_6111, HotFix\_6244

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントが不正プログラムを検出した際に表示されるポップアップに、ウイルスを正しく処理できなかった場合でも、「次の脅威またはセキュリティポリシー違反が解決されました。」というメッセージが表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、「次の脅威またはセキュリティポリシー違反が検出されました。」というメッセージが表示されるようになります。

EN: HotFix\_6112 / JP: n/a

## 問題 1:

挙動監視サービスが予期せず停止すると、自動的にすべてのプラグインに停止するよう通知されるが、ユーザモードイベントフックプラグインに通知が送信されないことがあり、結果として CPU 使用率が高くなる問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、挙動監視サービスで未処理の例外が検出された場合はイベントの送信を停止し、ユーザモードイベントフックプラグイン自体を初期化しないようこのプラグインに通知が送信されるようになります。これにより、挙動監視サービスが予期せず停止した場合の CPU 使用率の問題が修正されます。

~~~~~

## 問題 2:

DRE から UNC パス上のファイルにアクセスしようとすると、権限の問題が発生し、既存の UNC パス接続が切断される問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6114 / JP: n/a

## 問題:

ウィルスバスター Corp. Web コンソールの [情報漏えい対策設定] 画面および [デバイスコントロール設定] 画面にアクセスできない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、サーバプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6118 / JP: n/a

## 問題 1:

64 ビットのプラットフォーム上で、Microsoft Windows 32 ビットアプリケーションを使用してドキュメントを印刷しようとすると、対応する情報漏えい対策ログで CD/DVD チャネルが参照される問題

## 修正 1:

本 Patch の適用後は、対応する情報漏えい対策ログで正しいチャネルが参照されるようになります。

~~~~~

## 問題 2:

ユーザが読み取りアクセス権限のみを持つ USB ストレージデバイスのアプリケーションを実行できる問題

## 修正 2:

本 Patch の適用後は、適切な権限を持つユーザのみが USB ストレージデバイスのアプリケーションを実行できるようになります。

EN: HotFix\_6120 / JP: n/a

問題 1:

ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに設定変更通知が 2 回送信される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、1 回の設定変更につき 1 回のみ通知が送信されるようになります。

~~~~~

問題 2:

Active Directory の構造に基づき、[クライアントの並べ替え] オプションを使用してウイルスバスター Corp.クライアントをグループ化すると、[クライアント管理] 画面で予期しないドメイン構造が作成される問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバがアップデートされ、この問題が修正されます。

手順 2:

[クライアント管理] 画面で Active Directory のドメイン構造に基づいてウイルスバスター Corp.クライアントを正しくグループ化できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダの「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [INI\_AD\_INTEGRATION\_SECTION] セクションに、次のキーを追加して値を「1」に設定します。

```
[INI_AD_INTEGRATION_SECTION]
```

```
IndividualDC=1
```

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. OfficeScan Server Master Service を再起動します。

EN: HotFix\_6121 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントをウイルスバスター Corp.サーバ間で移動する際

に接続エラーが発生すると、ウイルスバスター Corp.クライアントが元のサーバから登録解除されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、接続エラーが発生しても、ウイルスバスター Corp.クライアントを元のウイルスバスター Corp.サーバから正常に登録解除できるようになります。

手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントを元のウイルスバスター Corp.サーバから正常に登録解除できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダの「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. 次のセクションとキーを追加します。

```
[MOVE_CLIENT_SECTION]
```

```
EnableDeleteAfterMove= 1
```

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. OfficeScan Master Service を再起動します。

EN: HotFix\_6122 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の挙動監視機能により正当なプログラムがブロックされる問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視のローカルパターンファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6126 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで圧縮ファイル内のウイルスおよび不正プログラムを検索する場合に、検出されたウイルスおよび不正プログラムの合計数が対応する検索ログに表示されるが、この合計数が正確でない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6126.1 / JP: n/a

## 問題:

TLS (Transport Layer Security) 1.2 を使用する Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバにウイルスバスター Corp.を登録しようとすると、登録に失敗し、Control Manager コンソールにエラーが表示される問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.で TLS 1.2 がサポートされるようになり、このプロトコルを使用して Control Manager サーバに登録できるようになります。

EN: HotFix\_6127 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面で、詳細検索タスクが結果を表示しないまま 1 分以上かかってタイムアウトすることがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、タイムアウト値が 10 分に延長され、詳細検索の結果が正常に表示されるようになります。

EN: HotFix\_6130 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の挙動監視機能により正当なプログラムがブロックされる問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.の挙動監視のローカルパターンファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6131 / JP: HotFix\_6131

## 問題:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 サーバのプログラムおよびウイルスバスター Corp.クライアントのスマートスキャンモジュールで使用されている OpenSSL のバージョンが脆弱性の影響を受ける問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、サーバモジュールとスマートスキャンモジュールで使用されている

OpenSSL のバージョンがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6133 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.サーバでデータベースクエリを管理する際、クエリ処理によって「HTTPDB」フォルダに多数の Que\*.tmp ファイルが作成されることがあり、クエリ処理の完了後もこれらのファイルがただちに削除されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのファイルがアップデートされ、データベースクエリ処理のエラー管理メカニズムが強化されて、Que\*.tmp ファイルの数が制限され、クエリ処理の完了後これらのファイルがただちに削除されるようになります。

EN: HotFix\_6135 / JP: n/a

問題:

ファイアウォールポリシーに多くの除外設定が存在する場合、ウイルスバスターCorp.クライアントでブルースクリーン (BSoD) が発生することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ファイアウォールモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6136 / JP: HotFix\_6136

問題 1:

CD/DVD への書き込みで [USB フラッシュドライブと同じように使用する] を選択している場合、ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプション (DLP) で Windows エクスプローラ (Explorer.exe) の CD/DVD への書き込みをブロックできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

Windows エクスプローラ (Explorer.exe) の CD/DVD プレーヤの機能を使用して、200 件を超えるファイルを CD/DVD に書き込んだ場合、情報漏えい対策オプションで情報漏えい対策ログが最大 200 件までしか記録されない問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、キューのサイズが拡張され、最大 100,000 件のログが記録されるようになります。



EN: HotFix\_6138 / JP: n/a

問題:

非管理下のエンドポイントの診断を行うと、製品ツリーに「オンライン」と表示されているコンピュータの結果が「未解決の Active Directory 診断」となる問題

この問題は、Active Directory ドメインサーバからクエリされた AD\_GUID のベクターが、データベースからクエリされたベクターと大文字小文字が異なっていることにより区別されるため、発生していました。

修正:

本 Patch の適用後は、比較メカニズムで大文字と小文字が区別されないようになり、エンドポイントを正確に診断できるようになります。

EN: HotFix\_6140 / JP: n/a

問題:

挙動監視除外リストに重複するエントリが表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、この画面の [保存] ボタンがクリック直後に無効になるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6140.1 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントをリモートでコンピュータにインストールした後、ウイルスバスター Corp.サーバはそのインストールに対して新しいネットワークドライブをマップするが、これらのネットワークドライバが削除されずにサーバに残ることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、クライアントのリモートインストール処理がアップデートされ、クライアントのインストール後、マップされたネットワークドライブが自動的に削除されるようになります。

EN: HotFix\_6141 / JP: n/a

問題 1:

情報漏えい対策オプションモジュールで、Outlook Web App 2003 および 2010 の機密情報を含む添付ファイルがブロックされない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

SCOM とやりとりするトラフィックの検索に関するエラーにより、「dgtmpmon」フォルダのディスク使用量が高くなる問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6147 / JP: HotFix\_6252

問題:

コマンドラインインタフェースでクライアントパッケージツールを実行してウイルスバスター Corp.クライアントのセットアップパッケージまたはアップデートパッケージを作成する場合、新規にインストールするすべてのクライアントが属するドメインを指定できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、クライアントパッケージツールがアップデートされ、新規にインストールするクライアントのドメインを「/domain」パラメータで指定できるようになります。

EN: HotFix\_6148 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.ではデータベースサービスのスイッチフラグを WRS フラグとして処理するため、ウイルスバスター Corp.のセキュリティコンプライアンスレポートに WRS がコンプライアンス違反であると表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、サーバプログラムがアップデートされ、WRS フラグが「ofcscan.ini」ファイルから読み取られるようになります。

EN: HotFix\_6149 / JP: n/a

問題:

新しいランサムウェア検出ログのラベルが「Ransom.」で始まることに起因して、ランサムウェアウィジェットに表示されるランサムウェアの件数に、すべてのランサムウェアファイルの検出が含まれない問題

修正:

本 Patch の適用後は、「Ransom.」で始まるランサムウェア検出ログがランサムウェアの件数に含まれるようになります。

EN: HotFix\_6151 / JP: n/a

問題:

次の各サービスは強力な保護機能を提供しますが、これらのサービスの監視メカニズムがシステムリソースの負荷となる場合がある問題。特に Windows サーバプラットフォームでは、システムリソースに重い負荷がかかることがあります。

- 不正変更防止サービス
- 不審接続監視サービス
- 高度な保護サービス

そのため、これらのサービスは Windows Server 2003、2008、および 2012 では初期設定で無効となっています。

修正:

本 Patch の適用後は、Windows Server プラットフォームに新規インストールするウイルスバスター Corp.クライアントで、上記のサービスを初期設定で有効にできるようになります。

手順:

Windows Server プラットフォームに新規にインストールするウイルスバスター Corp.クライアントで上記のサービスを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに、次のキーを追加して値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

CheckAegisOnServer=1

CheckNCIEOnServer=1

CheckCCSFOnServer=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

6. [ServiceSwitch] セクションで、次のキーを探して値を「1」に設定します。

```
[ServiceSwitch]
EnableAEGISOnServer=1
EnableNCIEOnServer=1
EnableCCSFOnServer=1
```

7. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_6152 / JP: n/a

問題:

レジストリエントリが破損している場合、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの情報漏えい対策オプションモジュールが正常にアップグレードされないことがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、情報漏えい対策オプションモジュールを正常にアップデートできるようになります。

EN: HotFix\_6157 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.の高度な保護サービスと不正変更防止サービスに互換性がないため、OfficeScan Common Client Solution Framework (TMCCSF.exe) サービスが予期せず停止することがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の OfficeScan Common Client Solution Framework モジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6158 / JP: n/a

問題:

高度な保護サービスが有効な場合に、TmCCSF.exe プロセスにより CPU 使用率が高くなることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6167 / JP: n/a

問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントで、ウイルス検索エンジンドライバを起動できないために「Ntrtscan.exe」プロセスが繰り返し停止する問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、「Ntrtscan.exe」が正常に起動するようになります。

EN: HotFix\_6170 / JP: n/a

問題:

エンコード/デコードの呼び出しメカニズムの不一致により、ウイルスバスター Corp.サーバが Active Directory ドメインと同期できない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6178 / JP: n/a

問題 1:

Windows 10 Red Stone プラットフォームで、ping の結果が正常であるにもかかわらず異常なメッセージがいくつか表示される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

UNC パスで表示されているファイルをウイルスバスター Corp.クライアントで正常に検索できないことがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、クライアントファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6182 / JP: n/a

問題:

ファイアウォールログをアップロードしないように設定されているウイルスバスター Corp. 11 Service Pack 1 クライアントが、再起動後、アップロードを自動的に開始することがある問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6184 / JP: HotFix\_6184

## 問題:

ファイアウォールポリシーに 249 の倍数になる数の除外設定が存在する場合、Web コンソールでファイアウォールの除外リストが正しく表示されない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.サーバのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6185 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.クライアントによって保護されているコンピュータで Windows Update が有効でないか、または隔離されたネットワーク環境に配置されている場合、接続が有効であるにもかかわらずウイルスバスター Corp.サーバからパターンファイルをアップデートできないことがある問題

この問題は、アップデートモジュールの署名確認に失敗し、ウイルスバスター Corp.クライアントがパターンファイルのダウンロードとマージを完了できないために発生していました。

## 修正:

本 Patch の適用後は、アップデートモジュールがアップデートされ、この問題が修正されます。

## 手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントでウイルスバスター Corp.サーバからパターンファイルをアップデートできるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに、「CheckDigitalSignatureForUpgrade」キーを追加して値を「0」に設定します。

## [Global Setting]

CheckDigitalSignatureForUpgrade=0

注意: 本機能を無効にするには、値を「1」に設定します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスターCorp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: CheckDigitalSignatureForUpgrade

種類: DWORD

データ: 0x00000000 (0)

EN: HotFix\_6187 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションに起因して、Google Chrome 53.0.2785.116 がハングする問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、Chrome を QUIC モードで実行するとハングする問題が修正されます。

EN: HotFix\_6190 / JP: n/a

## 問題:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策ポリシー設定のリムーバブルストレージの除外に USB 接続フロッピーを追加できない問題

## 修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6193 / JP: n/a

## 問題 1:

Microsoft Windows 10 Redstone プラットフォームで、ping の結果が正常であるにもかかわらず

わらず異常なメッセージがいくつか表示される問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

UNC パスで指定されているファイルをウイルスバスター Corp.クライアントで正常に検索できないことがある問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、クライアントファイルがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6196 / JP: n/a

問題 1:

UEFI とセキュアブートの両方が有効な場合、Microsoft Windows 10 で一部のドライバをロードできない問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、ドライバがアップデートされてデジタル署名「Microsoft Windows Hardware Compatibility Publisher」と表示されるようになり、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

挙動監視モジュールが一定の時間内に応答を受信しない場合に、Avaya Scopia のログイン画面が応答を停止する問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、Avaya Scopia に対する挙動監視モジュールのセルフプロテクション機能を無効にできるようになります。これにより、非互換性の問題を防止し、保護対象コンピュータで Avaya Scopia が正常に機能するようになります。

手順 2:

問題が発生しているコンピュータで挙動監視モジュールのセルフプロテクション機能を無効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.クライアントサービスを停止します。



3. レジストリエディタを開きます。

4. 次のキーを追加して、その値を「0x00000001」に設定します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥

Services¥tmactmon¥Parameters

名前: SkipDuplicateSameAccess

種類: dword

データ: 0x00000001 (1) : セルフプロテクション機能を無効にします。

0x00000000 (0) : セルフプロテクション機能を有効にします。

5. ウイルスバスター Corp.クライアントサービスを開始します。

~~~~~

問題 3:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 (ビルド 6134) へのアップグレード後、

[クライアント管理]→[クライアントツリーの管理]→[クライアント/ドメインの削除]

画面でドメインを削除すると、ウイルスバスター Corp. Web コンソールが応答を停止する問題

修正 3:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6209 / JP: n/a

問題:

[ステータスをオンラインで確認] ボタンをクリックした後、ウイルスバスター Corp.の

[製品ライセンス] 画面に誤ったライセンス情報が表示されることがある問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6212 / JP: n/a

問題 1:

UMH ドライバにより予期しないエラーが発生する問題

修正 1:

本 Patch の適用後は、UMH ドライバがアップデートされ、この問題が修正されます。

~~~~~

問題 2:

ユーザモードフッキング (UMH) ドライバにより、Microsoft Windows 10 Redstone プ

ラットフォームで予期しないエラーが発生する問題

修正 2:

本 Patch の適用後は、UMH ドライバがアップデートされ、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6213 / JP: n/a

問題:

Control Manager に登録されているウイルスバスター Corp. クライアントのコンピュータ名を変更した場合に、Control Manager 上のコンピュータ名が変更されない問題

修正:

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp. クライアントのコンピュータ名を変更した場合にも自動的に Control Manager 上のコンピュータ名が変更されるようになり、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6213.1 / JP: n/a

問題:

「PolicyExportTool.exe」ユーティリティを使用して Control Manager からウイルスバスター Corp.ポリシーを配信すると、エクスポートしたポリシーに comOSCECCCA コンポーネントの誤った種類が表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6214 / JP: HotFix\_6214

問題:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [スパイウェア/グレーウェアログ] 画面にある [日時] フィールドに、ウイルスバスター Corp.クライアントで不正プログラムが検出された日時ではなく、サーバがセキュリティリスクログを受信した日時が表示される問題

修正:

本 Patch の適用後は、この問題が修正されます。

EN: HotFix\_6216 / JP: Critical Patch 6206, HotFix\_6216

問題:

拳動監視モジュールが一定の時間内に Avaya Scopia から応答を受信しない場合に、Avaya Scopia のログイン画面が応答を停止する問題

**修正:**

本 Patch の適用後は、Avaya Scopia に対する挙動監視モジュールのセルフプロテクション機能を無効にできるようになります。これにより、非互換性の問題を防止し、保護対象コンピュータで Avaya Scopia が正常に機能するようになります。

**手順:**

問題が発生しているコンピュータで挙動監視モジュールのセルフプロテクション機能を無効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

SkipDuplicateSameAccess=1

4. 変更を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。
7. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥  
Services¥tmactmon¥Parameters

名前: SkipDuplicateSameAccess

種類: dword

データ: 0x00000001 (1) : セルフプロテクション機能を無効にします。  
0x00000000 (0) : セルフプロテクション機能を有効にします。

## ■■■新機能 セクション■■■

### ■ウイルスバスター Corp. 11.0の新機能

HotFix\_1775.u、 HotFix\_1778.u、 HotFix\_1780.u、 HotFix\_1787.u、 HotFix\_1795.u、  
HotFix\_1801.u、 HotFix\_1802.u、 HotFix\_1811.u、 HotFix\_1825.u、 HotFix\_1831.u、  
HotFix\_1834.u、 HotFix\_1848.u、 HotFix\_1849.u、 HotFix\_1858.u、 HotFix\_1864.u、  
HotFix\_1869.u、 HotFix\_1875.u、 HotFix\_1895.u、 HotFix\_1901.u、 HotFix\_1921.u、  
HotFix\_1928.u、 HotFix\_1932.u、 HotFix\_2033.u、 HotFix\_2034.u

機能:

サードパーティ製のウイルス対策製品のアンインストール

=====

ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、次のサードパーティ製の  
ウイルス対策製品が自動的にアンインストールされるようになります。

- ウイルスバスター Corp.の英語版にインストールされた以下の製品の英語版

- BKAU Endpoint 11 バージョン 3690
- ESET Endpoint Antivirus 5.0.2229.1
- Kaspersky Endpoint Security 10 for Windows 10.2.1.23
- Kaspersky Endpoint Security 10 for Windows 10.2.2.10535
- Kaspersky Endpoint Security 8 for Windows 8.1.0.646
- Kaspersky Endpoint Security Center Network Agent 10.1.249
- McAfee Agent 4.5.0.1499
- McAfee Agent 4.5.0.1810
- McAfee Agent 4.5.0.1852
- McAfee Agent 4.8.0.887 (32 ビット/64 ビット)
- McAfee VirusScan Enterprise 8.7.00003
- McAfee VirusScan Enterprise 8.8.0.1247 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos Anti-Virus 10.0.5
- Sophos Anti-Virus 10.3.7 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos Anti-Virus NT 10.3.13
- Sophos Auto Update 3.1.1.8 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos Auto Update 4.1.0.273 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos Client Firewall 2.9.0
- Sophos Patch Agent 1.0.303.0 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos Remote Management System 3.2.0 (64 ビット)
- Sophos Remote Management System 3.4.0
- Sophos Remote Management System 3.4.1 (64 ビット)
- Sophos Technical Support 10.0.5 (64 ビット)

- Symantec AntiVirus 12.1.5337.5000 x32
  - Symantec AntiVirus 12.1.5337.5000 x64
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.2015.2015 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6168.6000 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.617.4971 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.3001.165
- ウイルスバスター Corp.の日本語版にインストールされた以下の製品の日本語版
- ePO Agent 1000
  - ePO Agent 2000
  - ePO Agent 3000
  - FFR yarai
  - Microsoft Forefront Client Security Antimalware Service : 1.5.1937.14
  - Microsoft Forefront Client Security Assessment Service : 1.0.1703.0
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.1000.157 (32 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4013.4013 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 (64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 (32 ビット)
- ウイルスバスター Corp.のフランス語版にインストールされた以下の製品の英語版
- Symantec Endpoint Protection 12.1.1000.157

EN: HotFix\_1783 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 40.0.2214.94 (32 ビット) および 40.0.2214.94 (64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1789.1 / JP: HotFix\_1789.1

機能:

「SvrSvcSetup.exe」ツールを使用して新しい証明書を生成する際のコマンドが、「svrsvcsetup.exe -GenIISCert」に変更されます。

EN: HotFix\_1828 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策のポリシー設定で、メールクライアントの監視対象および非監視対象のメールアドレスの除外サイズが 40960 に拡大されます。

EN: HotFix\_1836 / JP: n/a

機能:

Microsoft Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を実行しているクライアントに対しても、Web コンソールの [クライアント管理] 画面でルートドメインアイコン、または特定のドメインやクライアントを選択し、Web レピュテーションポリシーを設定できるようになります。

手順:

Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をウイルスバスター Corp.サーバコンピュータにインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

注意: Windows Server 2008 以降のコンピュータにウイルスバスター Corp.サーバがインストールされていて、ユーザアカウント制御が有効な場合は、「ofcserver.ini」ファイルを「c:¥temp¥」などのウイルスバスター Corp.サーバの別の場所にコピーして開きます。

3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに

「SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

注意: 手順 2 でファイルを別の場所にコピーした場合は、「¥PCCSRV¥Private¥」にある古いファイルを、編集した「ofcserver.ini」ファイルで上書きします。

5. Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定します。

a. [クライアント]→[クライアント管理] の順に選択します。

b. クライアントツリーで、ルートドメインアイコンをクリックしてすべてのクライアントを選択するか、特定のドメインを選択するか、または Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を実行している特定の

クライアントを選択します。

c. [設定]→[Web レピュテーション設定] の順にクリックします。

d. [Web レピュテーション設定] 画面で、[外部クライアント] タブをクリックして外部クライアントのポリシーを設定するか、[内部クライアント] タブをクリックして内部クライアントのポリシーを設定します。

e. 次のオプションを選択します。

[次の OS で Web レピュテーションポリシーを有効にする]

Windows Server 2003

Windows Server 2008

Windows Server 2012

f. クライアントツリーでドメインまたはクライアントを選択した場合は [保存] をクリックし、ルートドメインアイコンをクリックした場合は次のいずれかのオプションを選択します。

[すべてのクライアントに適用]

すべての既存のクライアントと、既存または今後追加されるドメインに加えられ新しいクライアントに設定を適用します。今後追加されるドメインとは、設定を指定した時点でまだ作成されていないドメインのことです。

[今後追加されるドメインにのみ適用]

今後追加されるドメインに加えられるクライアントにのみ設定を適用します。

このオプションでは、既存のドメインに加えられる新しいクライアントには設定を適用しません。

EN: HotFix\_1844 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. 11.0 の情報漏えい対策オプションモジュールで、次のブラウザがサポートされるようになります。

- 64 ビットの Mozilla Firefox 40.0a1 (2015-04-19) のベータ版の Web ブラウザ
- 32 ビットおよび 64 ビットの Google Chrome 42.0.2311.90 までの Web ブラウザ

EN: HotFix\_1845 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントのプログラムとウイルス検索エンジンがアップデートされ、ウイルスバスター Corp.クライアントでファイルのセルフプロテクション機能が強化されます。

EN: HotFix\_1847 / JP: n/a

機能:

「クレジットカード番号」検証ツールでダイナースクラブのクレジットカード番号がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1853 / JP: n/a

機能:

「アメリカ人名」検証ツールで大文字と小文字が区別されなくなります。

EN: HotFix\_1874 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 43.0.2357.81 (32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1906 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [管理]→[アカウント管理]→[ユーザアカウント] 画面の [1 ページあたりの行数] の設定を変更すると、変更内容が保存されるようになります。これにより、他の画面から [ユーザアカウント] 画面を再表示した場合でも、ユーザアカウントが変更後の行数で表示されるようになります。

EN: HotFix\_1914 / JP: HotFix\_1914

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの「ロック解除」ボタンを非表示にできます。

手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの「ロック解除」ボタンを非表示にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。



3. [Global Setting] セクションに「ShowUnlockButton」キーを追加して、値を「0」に設定します。

[Global Setting]

ShowUnlockButton=0

注意: 「ロック解除」ボタンを表示にするには、値を「1」に設定します。これが初期設定です。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc  
名前: ShowUnlockButton  
種類: REG\_DWORD  
データ: 0x00000000 (0)

[Global Setting]

ShowUnlockButton=0

注意: 「ロック解除」ボタンを表示にするには、値を「1」に設定します。これが初期設定です。

EN: HotFix\_1915 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 でバージョン 43 の Firefox Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1921 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズを設定できるようになります。これにより、ウイルスバスター Corp. Web コンソールで、クライアント管理ツリー

の特定のドメインに多数のウイルスバスター Corp.クライアントがある場合に、左右にスクロールすると反応が遅くなるというような一部の問題が修正されます。

EN: HotFix\_1924 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 44.0.2403.52 のベータ版 (32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1929 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Patch 1 の情報漏えい対策オプションモジュールで、メールメッセージの転送範囲をメール受信者のドメイン情報を使用して確認できるようになります。

さらに、WAN トラフィックのみを確認するようにポリシーが設定されている場合は、情報漏えい対策オプションモジュールで gmail.com または Trend Micro Taiwan のいずれかを内部ドメインとして処理するように設定して、確認をスキップすることもできます。

EN: HotFix\_1934 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策通知のポップアップの表示の際に、ログイン中のユーザに対する通知が確認されるようになり、必要な場合のみ通知ポップアップが表示されるようになります。

手順:

必要な情報漏えい対策通知の際に、ログインしているユーザに必要なポップアップのみを表示させる機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションで、「EnableDlpPopupByUser」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableDlpPopupByUser=1

注意: 初期設定では、無効に設定されています。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PccillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite  
名前: EnableDlpPopupByUser  
種類: REG\_DWORD  
データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_1952 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 44.0.2403.61 のベータ版 (32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_1979 / JP: HotFix\_1916

機能:

Trend Micro Control Manager サーバからウイルスバスター Corp.サーバにデバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストをダウンロードし、ウイルスバスター Corp.クライアントに配信できるようになります。

注意: 承認済み USB デバイスリストには、最大 18,000 件のデバイスを指定できます。

手順:

デバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストを配信するようにウイルスバスター Corp.サーバを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception」キーを追加

して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception = 1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。これが初期設定です。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、メインメニューで [クライアント] → [グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite¥

名前: EnableDlpGlobalDevException

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_1985 / JP: n/a

機能:

SvrSvcSetup.exe ツールを使用して、Microsoft Internet Information Services (IIS) にインストールされたウイルスバスター Corp. Web サイトに対し、2048 ビットの公開鍵で SSL 証明書を生成できるようになります。

手順:

2048 ビットの公開鍵で SSL 証明書を生成し、IIS の SSL 証明書を手動で更新するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. 管理者としてログオンし、コマンドプロンプトを開いて「PCCSRV」ディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを実行します。

SvrSvcSetup.exe -GenIISCert

4. 新しい SSL 証明書が生成され、IIS の SSL 証明書ストアに自動的に追加されます。
5. IIS マネージャー (inetmgr.exe) を開きます。
6. ウイルスバスター Corp. Web サイトを右クリックして、[バインドの編集...] をクリックします。
7. [サイト バインド] 画面が表示されたら、[種類] で「https」を選択し、[編集...] をクリックします。
8. 新しく作成された SSL 証明書を選択して、[OK] をクリックします。

注意: 2048 ビットの公開鍵を表示するには、[参照...] オプションをクリックします。

9. [閉じる] をクリックします。

EN: HotFix\_2017 / JP: n/a

機能:

現在、ウイルスバスター Corp.サーバで情報漏えい対策オプションの HotFix を適用すると、このアップデートを適用するよう管理下のすべてのウイルスバスター Corp.クライアントに通知されますが、本 Patch の適用後は、特定のウイルスバスター Corp.クライアントを指定して、ウイルスバスター Corp.サーバからの情報漏えい対策オプションのアップデートを自動的に適用しないように設定できます。

手順:

指定したウイルスバスター Corp.クライアントで、情報漏えい対策オプションのアップデートが自動的に適用されないように設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバからウイルスバスター Corp.クライアントに、新しい情報漏えい対策オプションのモジュールビルドを配信します。
  - a. ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [アップデート]→[クライアント]→[手動アップデート] 画面で [アップデートを開始] をクリックします。
  - b. モジュールが配信されたら、ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、

[クライアント]→[クライアント管理]→ルートドメインを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択し、[情報漏えい対策ポリシー設定] 画面で [すべてのクライアントに適用] をクリックします。情報漏えい対策オプションモジュールをアップデートするよう各クライアントにメッセージが表示されます。

3. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

4. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]  
DLPLNoUpgrade=1

注意: この機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

5. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

6. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、メインメニューで [クライアント] →[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

7. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite¥

名前: NoUpgrade = 1

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

8. Web コンソールの [クライアント]→[クライアント管理]→[設定]→[権限とその他の設定]→[その他の設定] タブで、[ウイルスバスター Corp.クライアントにコンポーネントのアップデートを許可するが、クライアントプログラムのバージョンアップとHotFix の配信を禁止] を選択し、指定したウイルスバスター Corp.クライアントを指定します。

注意: ウイルスバスター Corp.クライアントで本機能を無効にするには、ウイルスバスター Corp.クライアントの「ofcscan.ini」ファイルで「DLPLNoUpgrade」キーを削除するか「DLPLNoUpgrade=0」を設定し、変更内容を保存します。

すべてのウイルスバスター Corp.クライアントで本機能を無効にするには、  
ウイルスバスター Corp.サーバの「ofcscan.ini」ファイルで  
「DLPNoUpgrade」キーの値に「0」を設定し、上記の手順 5 から 7 を繰り返しま  
す。

EN: HotFix\_2020 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 46.0.2490.80  
(32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになり  
ます。

EN: HotFix\_2024 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. 11.0 の情報漏えい対策オプションモジュールで、次のブラウザ  
がサポートされるようになります。

- 32 ビットおよび 64 ビットの Mozilla Firefox 43.0.3 Web ブラウザ
- 32 ビットおよび 64 ビットの Google Chrome 47.0.2526.106 までの Web ブラウザ

#### ■ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 の新機能

HotFix\_3011.u、HotFix\_3066.u、HotFix\_3610.u

機能:

サードパーティ製のウイルス対策製品のアンインストール

=====

ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、次のサードパーティ製の  
ウイルス対策製品が自動的にアンインストールされるようになります。

- ウイルスバスター Corp.の英語版にインストールされた以下の製品の英語版
- ESET Remote Administrator Agent 6.1.365.0 (32 ビット/64 ビット)
- ESET Remote Administrator Agent 6.1.444.0 (32 ビット/64 ビット)
- Kaspersky Endpoint Security 10 for Windows 10.2.2.10535
- Symantec Endpoint Protection 12.1.3001.165
- Symantec Endpoint Protection 12.1.3001.165 (64 ビット)
- Symantec Endpoint Protection 12.1.5337.5000 (64 ビット)

EN: HotFix\_3027 / JP: n/a

機能:

Microsoft Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を

実行しているクライアントに対しても、Web コンソールの [クライアント管理] 画面でルートドメインアイコン、または特定のドメインやクライアントを選択し、Web レピュテーションポリシーを設定できるようになります。

手順:

Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をウイルスバスター Corp.サーバコンピュータにインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

注意: Windows Server 2008 以降のコンピュータにウイルスバスター Corp.サーバがインストールされていて、ユーザアカウント制御が有効な場合は、「ofcserver.ini」ファイルを「c:¥temp¥」などのウイルスバスター Corp.サーバの別の場所にコピーして開きます。

3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに「SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

注意: 手順 2 でファイルを別の場所にコピーした場合は、「¥PCCSRV¥Private¥」にある古いファイルを、編集した「ofcserver.ini」ファイルで上書きします。

5. Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定します。
  - a. [クライアント]→[クライアント管理] の順に選択します。
  - b. クライアントツリーで、ルートドメインアイコンをクリックしてすべてのクライアントを選択するか、特定のドメインを選択するか、または Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を実行している特定のクライアントを選択します。
  - c. [設定]→[Web レピュテーション設定] の順にクリックします。



d. [Web レピュテーション設定] 画面で、[外部クライアント] タブをクリックして外部クライアントのポリシーを設定するか、[内部クライアント] タブをクリックして内部クライアントのポリシーを設定します。

e. 次のオプションを選択します。

[次の OS で Web レピュテーションポリシーを有効にする]

Windows Server 2003

Windows Server 2008

Windows Server 2012

f. クライアントツリーでドメインまたはクライアントを選択した場合は [保存] をクリックし、ルートドメインアイコンをクリックした場合は次のいずれかのオプションを選択します。

[すべてのクライアントに適用]

すべての既存のクライアントと、既存または今後追加されるドメインに加えられる新しいクライアントに設定を適用します。今後追加されるドメインとは、設定を指定した時点でまだ作成されていないドメインのことです。

[今後追加されるドメインにのみ適用]

今後追加されるドメインに加えられるクライアントにのみ設定を適用します。このオプションでは、既存のドメインに加えられる新しいクライアントには設定を適用しません。

EN: HotFix\_3029 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズを設定できるようになります。これにより、ウイルスバスター Corp. Web コンソールで、クライアント管理ツリーの特定のドメインに多数のウイルスバスター Corp.クライアントがある場合に、左右にスクロールすると反応が遅くなるというような一部の問題が修正されます。

手順:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

## 2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある

「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

## 3. [SERVER\_CONSOLE\_SECTION] セクションに「GridRowsBufferPrePageRowsTimes」キー

を追加して、適切なバッファサイズの値を行数で設定します。初期設定値は 2 です。

```
[SERVER_CONSOLE_SECTION]
```

```
GridRowsBufferPrePageRowsTimes=2
```

## 4. ブラウザを再ロードまたは再起動します。

EN: HotFix\_3046 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [管理]→[アカウント管理]→[ユーザアカウント] 画面の [1 ページあたりの行数] の設定を変更すると、変更内容が保存されるようになります。これにより、他の画面から [ユーザアカウント] 画面を再表示した場合でも、ユーザアカウントが変更後の行数で表示されるようになります。

EN: HotFix\_3071 / JP: n/a

EN: HotFix\_3596 / JP: n/a

機能:

本機能は、ランサムウェア攻撃に対処するためにリリースされたものです。

HTTP またはメールアプリケーション経由でダウンロードされたプログラムを新しく検出すると、ウイルスバスター Corp.はそのプログラムを一時的にブロックし、処理 ([今回のみブロック] または [今回のみ許可]) を選択するようユーザに求めます。ユーザが指定時間内に処理を選択しない場合、そのプログラムは自動的にブロックされます。

ウイルスバスター Corp.の以前のバージョンでは、新しく検出したプログラムの監視は初期設定で無効になっています。この機能は [グローバルクライアント設定] 画面で指定できます。

EN: HotFix\_3078 / JP: n/a

EN: HotFix\_3088 / JP: n/a

機能:

Trend Micro Control Manager サーバからウイルスバスター Corp.サーバにデバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストをダウンロードし、ウイルスバスター Corp.クライアントに配信できるようになります。

注意: 承認済み USB デバイスリストには、最大 18,000 件のデバイスを指定できます。

手順:

デバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストを配信するようにウイルスバスター Corp.サーバを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception = 1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。これが初期設定です。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、メインメニューで [クライアント] → [グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite¥

名前: EnableDlpGlobalDevException

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_3107 / JP: n/a

機能 1:

情報漏えい対策オプションで、情報漏えい対策オプションサービスが起動している場合、Oracle VirtualBox でのゲストホストの起動の問題が回避されるようになります。

~~~~~

機能 2:

情報漏えい対策オプションで、Dropbox の、Dropbox バックエンドへのアプリケーション  
ログのアップロードがブロックされなくなります。

~~~~~

機能 3:

情報漏えい対策オプションで、特定の SD カードリーダーを検出できるようになります。

EN: HotFix\_3611 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策通知のポップアップの表示の際に、ログイン中のユーザに対する通知か  
確認されるようになり、必要な場合のみ通知ポップアップが表示されるようになりま  
す。

手順:

必要な情報漏えい対策通知の際に、ログインしているユーザに必要なポップアップのみ  
を表示させる機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダに  
ある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableDlpPopupByUser = 1

注意: 初期設定では、無効に設定されています。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバル  
クライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが  
自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥  
PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite

名前: EnableDlpPopupByUser

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_3621 / JP: n/a

機能:

Network Monitoring モジュールの承認済み URL リストを作成してグローバルに配信できるようになります。

手順:

Network Monitoring モジュールの承認済み URL リストを作成してグローバルに配信できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションで、次のキーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

SEG\_WhiteListUrlNum=(承認済み URL リストの URL の数)

SEG\_WhiteListUrl0=(承認済み URL を指定します)

SEG\_WhiteListUrl1=(承認済み URL を指定します)

注意: 承認済み URL リストを無効にするには、ファイルから上記のキーをすべて削除します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウィルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして承認済み URL リストをクライアントに配信します。

ウィルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥TrendMicro¥

Osprey¥WhiteList¥SEG\_WhiteListUrl0¥

名前: Url

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_3645 / JP: n/a

機能:

アップデートエージェントからの通知を待たずに設定のアップデートを取得して適用するよう、ウイルスバスター Corp.サーバからクライアントに通知できるようになります。

手順:

このオプションを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

Send\_Notify\_Individual\_Pass\_UA=1

注意: 「1」に設定すると、アップデートエージェントからの通知を待たずにアップデートするよう、ウイルスバスター Corp.サーバから個々のクライアントに自動的に通知が送信されます。

「0」に設定すると、クライアントはアップデートエージェントからの通知を待機します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. OfficeScan Master Service を再起動します。

EN: HotFix\_3655 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールのコンポーネントのバージョン画面に、現在のウイルスパターンファイルまたはスマートスキャンエージェントパターンファイルのリリース日を、検索モードに応じて表示できるようになります。

手順:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableShowLastReleaseDate=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: EnableShowLastReleaseDate

種類: DWORD

データ: 0x00000000 (0) : パターンファイルのアップデート情報は表示されません。

0x00000001 (1) : 前回のパターンファイルアップデートの日付の情報が表示されます。

EN: HotFix\_3679 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプション 6.0 で Google Chrome 49.0.2623.87 がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_3683 / JP: n/a

機能:

本 Patch には「Trend Micro NSC Firefox Extension」と「Trend Micro Osprey Firefox Extension」の新しいバージョンが含まれています。これらのバージョンは新しいセキュリティガイドラインに準拠しています。

EN: HotFix\_3690 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションモジュールで情報漏えい対策ログにファイルサイズ情報を表示できるようになります。

EN: HotFix\_3697 / JP: n/a

機能:

Control Manager サーバに接続するためのログインパスワードを「POST」メソッドで送信できるようになります。

EN: HotFix\_3704 / JP: n/a

機能:

Control Manager 6.0 サーバがポリシーを配信するたびに、ウイルスバスター Corp.サーバですべてのポリシーを受信するのではなく、アップデートされたポリシーのみを受信できるようになります。これにより、特に Control Manager 6.0 サーバが定期的にポリシー施行を実行している場合に、ウイルスバスター Corp.のパフォーマンスへの影響が軽減されます。

注意: この機能を使用するには、Trend Micro Control Manager 6.0 HotFix (英語版ビルド 3359/日本語版ビルド 3361) をインストールする必要があります。Control Manager の HotFix については、トレンドマイクロのテクニカルサポートにお問い合わせください。

#### ■ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) の新機能

HotFix\_4209.u、HotFix\_4214.u、HotFix\_4248.u、HotFix\_4820.u、HotFix\_4821.u、HotFix\_4827.u、HotFix\_4839.u、HotFix\_4854.u、HotFix\_4855.u、HotFix\_4865.u、HotFix\_4875.u、HotFix\_4896.u、HotFix\_4913.u、HotFix\_4919.u、HotFix\_4937.u、HotFix\_4943.u、HotFix\_4945.u、HotFix\_4951.u、HotFix\_4954.u、HotFix\_4958.u

機能:

サードパーティ製のウイルス対策製品のアンインストール

=====

ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、次のサードパーティ製のウイルス対策製品が自動的にアンインストールされるようになります。

- ウイルスバスター Corp.の英語版にインストールされた以下の製品の英語版
- AVG 2013 (64 ビット)
- AVG 2016 (64 ビット)
- F-Secure Client Security Premium 11.61 build 104 (32 ビット/64 ビット)



- Kaspersky Endpoint Security 10 for Windows 10.2.4.674
  - McAfee Agent 4.8
  - McAfee Agent 4.8.0.1500
  - McAfee Agent 4.8.0.1938 (32 ビット/64 ビット)
  - McAfee Agent 5.0.2.188
  - Symantec Endpoint Protection 11.0.6005.562 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.1101.401 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.2015.2015 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4112.4156 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.671.4971 (32 ビット)
  - McAfee ePO Agent 3000
  - Panda Endpoint Agent 7.20.00.0000 (32 ビット)
  - Panda Endpoint Protection 7.82.00.0000 (32 ビット)
  - Sophos Anti-Virus 10.3.1 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Anti-Virus 10.3.15 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Anti-Virus 10.3.15.69
  - Sophos Anti-Virus 10.6.3.537 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Anti-Virus NT 10.2.6 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos AutoUpdate 2.9.0.344 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos AutoUpdate 4.3.10.27 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos AutoUpdate 5.2.0.276 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Network Threat Protection 1.2.2.50 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Remote Management System 3.4.1 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Remote Management System 4.0.6 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos System Protection 1.3.0 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4013.4013 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.5337.5000 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6608.6300 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6318.6100 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6860.6400 (64 ビット)
- ウイルスバスター Corp.の日本語版にインストールされた以下の製品の日本語版
- Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.5337.5000
- ウイルスバスター Corp.の繁体字中国語版にインストールされた以下の製品の繁体字中国語版

- Kaspersky Endpoint Security 10.2.1.23 (32 ビット/64 ビット)
- Kaspersky Network Agent 10.1.249 (32 ビット/64 ビット)

EN: HotFix\_4168 / JP: HotFix\_4714

EN: HotFix\_4714 / JP: HotFix\_4714

機能:

Microsoft Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を実行しているクライアントに対しても、Web コンソールの [クライアント管理] 画面でルートドメインアイコン、または特定のドメインやクライアントを選択し、Web レピュテーションポリシーを設定できるようになります。

手順:

Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をウイルスバスター Corp.サーバコンピュータにインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。

注意: Windows Server 2008 以降のコンピュータにウイルスバスター Corp.サーバがインストールされていて、ユーザアカウント制御が有効な場合は、「ofcserver.ini」ファイルを「c:¥temp¥」などのウイルスバスター Corp.サーバの別の場所にコピーして開きます。

3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに「SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

SupportToConfigureWRServerPlatformForMultiClient=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

注意: 手順 2 でファイルを別の場所にコピーした場合は、「¥PCCSRV¥Private¥」にある古いファイルを、編集した「ofcserver.ini」ファイルで上書きします。

5. Web コンソールで Web レピュテーションポリシーを設定します。

- a. [クライアント]→[クライアント管理] の順に選択します。

- b. クライアントツリーで、ルートドメインアイコンをクリックしてすべてのクライアントを選択するか、特定のドメインを選択するか、または Windows Server 2003、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を実行している特定のクライアントを選択します。
- c. [設定]→[Web レピュテーション設定] の順にクリックします。
- d. [Web レピュテーション設定] 画面で、[外部クライアント] タブをクリックして外部クライアントのポリシーを設定するか、[内部クライアント] タブをクリックして内部クライアントのポリシーを設定します。
- e. 次のオプションを選択します。

[次の OS で Web レピュテーションポリシーを有効にする]

Windows Server 2003

Windows Server 2008

Windows Server 2012

- f. クライアントツリーでドメインまたはクライアントを選択した場合は [保存] をクリックし、ルートドメインアイコンをクリックした場合は次のいずれかのオプションを選択します。

[すべてのクライアントに適用]

すべての既存のクライアントと、既存または今後追加されるドメインに加えられる新しいクライアントに設定を適用します。今後追加されるドメインとは、設定を指定した時点でまだ作成されていないドメインのことです。

[今後追加されるドメインにのみ適用]

今後追加されるドメインに加えられるクライアントにのみ設定を適用します。このオプションでは、既存のドメインに加えられる新しいクライアントには設定を適用しません。

EN: HotFix\_4172 / JP: n/a

EN: HotFix\_4779 / JP: n/a

機能:

本機能は、ランサムウェア攻撃に対処するためにリリースされたものです。HTTP またはメールアプリケーション経由でダウンロードされたプログラムを新しく検出すると、ウイルスバスター Corp.はそのプログラムを一時的にブロックし、処理 ([今回のみプロ

ック] または [今回のみ許可]) を選択するようユーザに求めます。ユーザが指定時間内に処理を選択しない場合、そのプログラムは自動的にブロックされます。ウイルスバスター Corp.の以前のバージョンでは、新しく検出したプログラムの監視は初期設定で無効になっています。この機能は [グローバルクライアント設定] 画面で指定できます。

EN: HotFix\_4182 / JP: HotFix\_4771

機能:

Trend Micro Control Manager サーバからウイルスバスター Corp.サーバにデバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストをダウンロードし、ウイルスバスター Corp.クライアントに配信できるようになります。

注意:承認済み USB デバイスリストには、最大 18,000 件のデバイスを指定できます。

手順:

デバイスコントロール設定の承認済み USB デバイスリストを配信するようにウイルスバスター Corp.サーバを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception」キーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

Enable\_Global\_DLP\_Dev\_Exception = 1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。これが初期設定です。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、メインメニューで [クライアント] →[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite¥

名前: EnableDlpGlobalDevException

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4192 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの「ロック解除」ボタンを非表示にできます。

手順:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールの「ロック解除」ボタンを非表示にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「ShowUnlockButton」キーを追加して、値を「0」に設定します。

[Global Setting]

ShowUnlockButton=0

注意: 「ロック解除」ボタンを表示にするには、値を「1」に設定します。これが初期設定です。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥

CurrentVersion\Misc

名前: ShowUnlockButton

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000000 (0)

[Global Setting]

ShowUnlockButton=0

注意: 「ロック解除」ボタンを表示するには、値を「1」に設定します。これが初期設定です。

EN: HotFix\_4201 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションサービスで、一般的な URL エンコードされた形式の POST がサポートされるようになります。

手順:

情報漏えい対策オプションサービスで、URL エンコードされた形式の POST のサポートを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「dlp.ini」ファイルを開きます。
3. [Configure] セクションに次のキーを追加して、値を「true」に設定します。

[Configure]

CFG\_FORM\_SCAN=true

注意: 本機能を無効にするには、値を「false」に設定します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ドメインまたはクライアントを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

EN: HotFix\_4207 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズを設定できるようになります。これにより、ウイルスバスター Corp. Web コンソールで、クライアント管理ツリーの特定のドメインに多数のウイルスバスター Corp.クライアントがある場合に、左右にスクロールすると反応が遅くなるというような一部の問題が修正されます。

手順:

ウイルスバスター Corp. Web コンソールのキャッシュサイズを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「¥PCCSRV¥Private¥」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [SERVER\_CONSOLE\_SECTION] セクションに「GridRowsBufferPrePageRowsTimes」キーを追加して、適切なバッファサイズの値を行数で設定します。初期設定値は 2 です。

```
[SERVER_CONSOLE_SECTION]
```

```
GridRowsBufferPrePageRowsTimes=2
```

4. ブラウザを再ロードまたは再起動します。

EN: HotFix\_4219 / JP: HotFix\_4712

EN: HotFix\_4712 / JP: HotFix\_4712

機能:

情報漏えい対策通知のポップアップの表示の際に、ログイン中のユーザに対する通知が確認されるようになり、必要な場合のみ通知ポップアップが表示されるようになります。

手順:

必要な情報漏えい対策通知の際に、ログインしているユーザに必要なポップアップのみを表示させる機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

3. [Global Setting] セクションで、「EnableDlpPopupByUser」キーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableDlpPopupByUser=1

注意: 初期設定では、無効に設定されています。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKLM¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PccillinNTCorp¥CurrentVersion¥DlpLite

名前: EnableDlpPopupByUser

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4222 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 46.0.2490.22 (32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4228 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、バージョン 46.0.2490.80 (32 ビット/64 ビット) までの Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4231 / JP: n/a

EN: HotFix\_4733.1 / JP: n/a

機能:

Network Monitoring モジュールの承認済み URL リストを作成してグローバルに配信できるようになります。



手順:

Network Monitoring モジュールの承認済み URL リストを作成してグローバルに配信できるようにするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウィルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションで、次のキーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

SEG\_WhiteListUrlNum=(承認済み URL リストの URL の数)

SEG\_WhiteListUrl0=(承認済み URL を指定します)

SEG\_WhiteListUrl1=(承認済み URL を指定します)

注意: 承認済み URL リストを無効にするには、ファイルから上記のキーをすべて削除します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウィルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして承認済み URL リストをクライアントに配信します。

ウィルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥TrendMicro¥

Osprey¥WhiteList¥SEG\_WhiteListUrl0¥

名前: Url

種類: REG\_SZ

データ: URL 情報

EN: HotFix\_4249 / JP: HotFix\_4761

EN: HotFix\_4761 / JP: HotFix\_4761

機能:

ウイルスバスター Corp.サーバからファイアウォールの除外ルールがクライアントへ配信されますが、GssTrustServer に設定可能な IP アドレスの数は初期設定では最大で 5 つまでです。本 Patch の適用後は、GssTrustServer に IP アドレスを 40 個まで設定できるようになります。

手順:

ウイルスバスター Corp.サーバからファイアウォールの除外ルールをウイルスバスター Corp.クライアントへ配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. インストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションの下に以下のキーを追加し、それぞれに適切な値を設定します。

[Global Setting]

EnableNVTrustList=1

GssTrustServer=(最大 40 個までの IP アドレスを指定します。

各 IP アドレスは、セミコロン「;」で区切ります。)

MaxGssException=80

5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥PFW

名前: EnableNVTrustList

種類: DWORD

データ: 0x00000000 (0) = ウイルスバスター Corp.ファイアーウォールの除外リストが無効に設定されます。

0x00000001 (1) = ウイルスバスター Corp.ファイアーウォールの除外

リストが有効に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥PFW

名前: GssTrustServer

種類: String

データ: (指定された最大 40 個までの IP アドレスで、各 IP アドレスは、セミコロン「;」で区切られています。)

ウイルスバスター Corp.クライアントの OS プラットフォームによって、以下のレジストリキーのいずれかが変更されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥

services¥tmcfw¥Parameters

名前: MaxGssException

種類: DWORD

データ: 0x00000050 (80)

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥

services¥tmwfp¥Parameters

名前: MaxGssException

種類: DWORD

データ: 0x00000050 (80)

## 7. コンピュータを再起動します。

EN: HotFix\_4262 / JP: n/a

機能 1:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションモジュールで、ベータ版の Google Chrome 48.0.2564.48 がサポートされるようになります。

~~~~~

機能 2:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションモジュールで、SHA-1 と SHA-256 の二重署名がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4272 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.でネットワークアクセス保護のサポートを有効にするオプションが追加されます。次の設定に準拠しないウイルスバスター Corp.クライアントのネットワークアクセスを制限するように、ウイルスバスター Corp.のセキュリティ検証

ツールを設定できます。

- ウイルスパターンファイルが最新である (スマートスキャンエージェント パターンファイルを含む)

注意:

- 本機能には次のサービスが必要です。
  - Active Directory ドメイン
  - ドメインコントローラ
  - DNS サーバ
  - DHCP サーバ
  - NAP サーバ
  - ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 4665) サーバ

ユーザの環境によっては、これらのサービスは同じサーバコンピュータにインストールされていない場合があります。

- 環境を設定するには、次の場所にある「ステップ バイ ステップ ガイド: DHCP NAP 強制をテスト ラボで実証する」を参照してください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=2409>

- Active Directory、ドメインコントローラ、および DNS サーバをインストールするには、「DC1 をドメイン コントローラーおよび DNS サーバーとして構成する」を参照してください。
- DHCP および NAP サーバをインストールするには、「NPS サーバー ロールと DHCP サーバー ロールをインストールする」を参照してください。
- ウイルスバスター Corp. クライアントの設定が最小ポリシー要件を満たしていない場合に、クライアントのウイルスパターンファイルのバージョン、リアルタイム検索のステータス、およびファイアウォールのステータスをウイルスバスター Corp. サーバと自動的に同期させるには、NPS サーバで自動修復設定を有効にできます。

詳細については、次の場所にある「Configuring a network policy for noncompliant client computers」を参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd182017.aspx>

手順:

ウイルスバスター Corp.でネットワークアクセス保護のサポートを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch を、ネットワークアクセス保護サービスとウイルスバスター Corp.サーバの両方がインストールされているコンピュータにインストールします。

2. ネットワークアクセス保護サーバで [スタート]→[プログラムとファイルの検索] の順にクリックし、「services.msc」と入力します。[スタートアップの種類] が [自動] に設定されていること確認し、実行されていない場合はサービスを開始します。

3. クライアントの強制を有効にします。

- Microsoft Windows Vista またはその他の Windows の最新バージョンを実行しているクライアントでは、次の手順を実行します。

a. [スタート]→[プログラムとファイルの検索] の順にクリックし、「napclcfg.msc」と入力します。

b. [強制クライアント] の下で、DHCP など「検疫強制クライアント」のいずれか 1 つを有効にします。

- Windows XP Service Pack 3 を実行しているクライアントでは、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力します。

```
netsh nap client set enforcement  
ID=XXXXXX ADMIN="ENABLE"
```

ここで「XXXXXX」は次のいずれかになります。

- 79617 = DHCP 検疫強制クライアント
- 79618 = リモート アクセス検疫強制クライアント
- 79619 = IPSec 証明書利用者
- 79621 = TS ゲートウェイ検疫強制クライアント
- 79623 = EAP 検疫強制クライアント

4. ウイルスバスター Corp.のシステム正常性検証ツールを設定します。

- Windows Server 2008 プラットフォームの場合:

- a. [管理ツール]→[ネットワーク ポリシー サーバー] の順に選択します。
- b. 「Trend Micro OfficeScan System Health Validator」を右クリックし、  
[プロパティ] を選択します。
- c. [設定] タブで [構成] をクリックします。
- d. 設定を行い、[OK] をクリックします。

- Windows Server 2008 R2 プラットフォームの場合:

- a [管理ツール]→[ネットワーク ポリシー サーバー] の順に選択します。
- b. 「Trend Micro OfficeScan System Health Validator」の下にある [設定]  
オプションをクリックします。
- c. [既定の構成] を再設定するか新しい設定を作成して、[OK] をクリックしま  
す。

注意: このオプションを設定すると、次のようになります。

- Windows Server 2008 および Windows Server 2008 R2 プラットフォームで  
ネットワークポリシーサーバがサポートされるようになります。

- Windows XP Service Pack 3 以降の Windows バージョンでネットワークアク  
セス保護がサポートされるようになります。

5. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダに  
ある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

6. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableNAPSupport=1

7. 変更を保存して、ファイルを閉じます。

8. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

9. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc  
名前: EnableNAPSupport=1  
種類: DWORD  
データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4273 / JP: HotFix\_4781

機能:

ランサムウェアを検出するため Microsoft Windows x86 ZwMapViewOfSection 関数をフックする挙動監視機能が追加されます。

EN: HotFix\_4281 / JP: HotFix\_4786

EN: HotFix\_4786 / JP: HotFix\_4786

機能:

「日本: マイナンバー (個人) 個人番号」の識別子が、12 桁の数字列「000000000000」を検出しないようにします。

EN: HotFix\_4288 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.サーバでウイルス検索エンジン機能を有効にして、その設定をウイルスバスター Corp.クライアントに自動的に配信するオプションが提供されます。

手順:

ウイルスバスター Corp.サーバでウイルス検索エンジン機能を有効にして、その設定をウイルスバスター Corp.クライアントに自動的に配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableDgdmk=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥

services¥TmPreFilter¥Parameters

名前: EnableDgdmk

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4299 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントコンソールのコンポーネントのバージョン画面に、現在のウイルスパターンファイルまたはスマートスキャンエージェントパターンファイルのリリース日を、検索モードに応じて表示できるようになります。

手順:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

EnableShowLastReleaseDate=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。



5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: EnableShowLastReleaseDate

種類: DWORD

データ: 0x00000000 (0) : パターンファイルのアップデート情報は表示されません。

0x00000001 (1) : 前回のパターンファイルアップデートの日付の情報が表示されます。

EN: HotFix\_4300 / JP: n/a

EN: HotFix\_4872 / JP: n/a

機能:

アップデートエージェントからの通知を待たずに設定のアップデートを取得して適用するよう、ウイルスバスター Corp.サーバからクライアントに通知できるようになります。

手順:

このオプションを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [INI\_SERVER\_SECTION] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[INI\_SERVER\_SECTION]

Send\_Notify\_Individual\_Pass\_UA=1

注意: 「1」に設定すると、アップデートエージェントからの通知を待たずにアップデートするよう、ウイルスバスター Corp.サーバから個々のクライアントに自動的に通知が送信されます。

「0」に設定すると、クライアントはアップデートエージェントからの通知を待機します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. OfficeScan Master Service を再起動します。

EN: HotFix\_4306 / JP: n/a

機能:

Network Monitoring モジュールの「MaxHeaderCount」設定をウイルスバスター Corp. サーバからすべてのウイルスバスター Corp.クライアントにグローバル配信できるようになります。

このキーを「0」に設定すると、ウイルスバスター Corp.クライアントコンピュータで Web サイトを正常にロードできるようになります。

手順:

「MaxHeaderCount」を設定して、ウイルスバスター Corp.クライアントにグローバルに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「0」に設定します。

[Global Setting]

MaxHeaderCount =0

注意: この設定では、Network Monitoring モジュールで一度に処理できる応答ヘッダの最大数を指定します。「0」に設定すると、上限が無効になります。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Osprey  
¥ProtocolHandler¥http¥config

名前: MaxHeaderCount

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000000 (0)

EN: HotFix\_4833 / JP: HotFix\_4833

機能:

情報漏えい対策オプション 6.0 で Google Chrome 49.0.2623.87 がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4873 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションのモジュール (SDK 6.0) で、バージョン 49.0.2623.110 の Google Chrome Web ブラウザがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4884 / JP: HotFix\_4884

機能:

挙動監視のランサムウェア対策機能によって検出および隔離された不正な挙動をするファイルが、ウイルスバスター Corp. サーバの隔離ディレクトリに保存されるようになります。また、ウイルスバスター Corp. クライアントの隔離フォルダに作成されるバックアップファイル名にオリジナルファイルの名前が残るようになります。

EN: HotFix\_4896 / JP: HotFix\_4896

機能:

ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 のファイアウォールプロファイルの設定に、次のユーザ権限設定が追加されます。

- ユーザにセキュリティレベルの変更を許可する
- ユーザにポリシー除外リストの編集を許可する

EN: HotFix\_4901 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプション 6.0 で Google Chrome 50.0.2661.94 がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_4902 / JP: HotFix\_4902

機能:

HotFix ファイルをダウンロードし検索エンジンを再ロードする間、ウイルスバスター Corp. クライアントプログラムファイルのデジタル署名の確認をスキップするように

ウイルスバスター Corp.クライアントを設定できるようになります。

手順:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
- 3.[Global Setting] セクションに、下記のようにキーを追加して値を設定します。

[Global Setting]

DOVF=1

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。
7. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。  
ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DOVF

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4925 / JP: HotFix\_4925

機能:

情報漏えい対策オプションの「listDeviceInfo」の実行オプションに-p が追加され、上位のデバイス情報を表示できるようになります。

EN: HotFix\_4928 / JP: HotFix\_4928

機能:

本 Patch には「Trend Micro NSC Firefox Extension」と「Trend Micro Osprey Firefox Extension」の新しいバージョンが含まれています。これらのバージョンは新しいセキュ

リティガイドラインに準拠しています。

EN: HotFix\_4934 / JP: HotFix\_4934

機能:

ウイルスバスター Corp.サーバを設定して、ウイルスバスター Corp.クライアントの再起動中に、ファイルレピュテーションのサーバとの通信を停止するよう通知できるようになります。

手順:

このオプションを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに下記のようにキーを追加して値を「1」に設定します。

[Global Setting]

DisableCensusQueryAtStartup=1

注意: キーを「1」に設定すると、ウイルスバスター Corp.クライアントは起動時に Census サーバへのクエリを自動的に停止します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。
7. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。  
ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc.

名前: DisableCensusQueryAtStartup

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4939 / JP: n/a

EN: HotFix\_4948 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションの URL 取得機能のパフォーマンスが向上し、Google Chrome でユーザがファイルをドラッグアンドドロップしてアップロードする際に正常に実行されるようになります。

EN: HotFix\_4942 / JP: n/a

機能:

SQL を移行する際のフォルダ書き込み権限の確認が強化されます。エンドユーザはウイルスバスター Corp.サーバフォルダに対するフルコントロール権限を Windows ドメインユーザに付与し、ローカル管理者または Active Directory ビルトイン管理者によって、このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス許可を含める必要があります。

EN: HotFix\_4960.1 / JP: HotFix\_4960.1

機能:

ウイルスバスター Corp.サーバでデータベースにクライアントの UID が存在するかどうか確認し、見つからない場合は再度登録するようクライアントコンピュータに通知できるようになります。

手順:

この機能を有効にして設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をウイルスバスター Corp.サーバコンピュータにインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「ProtectionReportFrequency」キーと「AutoOnStart」キーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

ProtectionReportFrequency=(ウイルスバスター Corp.サーバでデータベースにクライアントの UID が存在するかどうかコンプライアンスレポートを介して確認する分単位の頻度。  
最小値は 2 分です。)

AutoOnStart=1、クライアントの UID が存在しない場合に、サーバに登録し直すよう、ウイルスバスター Corp.サーバからクライアントに OnStart コマンドを実行できます。

=0、コマンドの実行は無効になります。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc

名前: ProtectionReportFrequency  
種類: REG\_DWORD  
データ: 0x00000002 (2)

名前: AutoOnStart  
種類: REG\_DWORD  
データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4965.1 / JP: n/a

機能 1:

情報漏えい対策オプションで、IBM Lotus Domino Web Access の HTTP 解析機能が強化され、より詳細な情報を違反イベントに記録できるようになります。

~~~~~

機能 2 情報漏えい対策オプションで、IBM Lotus Domino Web Access の Web メールの除外が実装されるようになります。

注意: この機能を使用するには、設定を有効にする必要があります。

手順:

情報漏えい対策オプションで、IBM Lotus Domino Web Access の Web メールの除外を実装するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV¥Private」フォルダにある「dlp.ini」ファイルを開きます。

3. [Configure] セクションに次のキーを追加して、値を「true」に設定します。

[Configure]

apply\_email\_wblist\_to\_webmail = true

注意: 本機能を無効にするには、値を「false」に設定します。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ドメインまたはクライアントを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

EN: HotFix\_4978 / JP: HotFix\_4978, HotFix\_5053

機能:

ウイルスバスター Corp.の情報漏えい対策オプションで、Web コンソールの [情報漏えい対策ポリシー設定] 画面の [圧縮ファイル検索] セクションで設定できる値の上限が拡張されました。

EN: HotFix\_4983 / JP: n/a

EN: HotFix\_5009 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.サーバでウイルスバスター Corp.クライアントのフォルダの権限を変更し、設定をすべてのクライアントに自動的に配信できるようになります。

手順:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。



[Global Setting]

PrivilegeContolSetting=1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc

名前: PrivilegeContolSetting

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_4983.1 / JP: n/a

EN: HotFix\_5009.1 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、サードパーティ製のウイルス対策製品がインストールされているかどうか確認できるようになります。

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、サードパーティ製のウイルス対策製品を自動的にアンインストールするかどうか設定できるようになります。

注意: 対象のウイルス対策製品を追加するには、「tmpostuninst.ptn」ファイルを編集する必要があります。

手順:

例えば、McAfee Agent バージョン 5.0.2.132 をアンインストールしないよう設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダの「¥PCCSRV¥Admin」フォルダにある「tmpostuninst.ptn」 ファイルを開きます。

3. サードパーティ製のウイルス対策製品のセクションで、「Support」キーの値を「0」に設定します。

[McAfee Agent 5.0.2.132]

Support=0

値: 0 = サードパーティ製のウイルス対策製品を削除しない

1 = サードパーティ製のウイルス対策製品を削除する

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

EN: HotFix\_5007.1 / JP: n/a

機能:

「dtoop.exe」を使用する代わりに変換用の動的ライブラリをロードするように情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 を設定できるようになります。

手順:

情報漏えい対策の「converter\_call\_method」を設定し、ウイルスバスター Corp.クライアントに配信するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV¥Private」フォルダにある「dlp.ini」ファイルを開きます。

3. [Configure] セクションに次のキーを追加して、値を「funcall」に設定します。

[Configure]

converter\_call\_method = funcall

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

5. ウイルスバスター Corp.サーバの Web コンソールで、[クライアント]→[クライアント管理]→ドメインまたはクライアントを選択→[設定]→[情報漏えい対策設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のキーが  
「Windows¥System32¥dgagent」フォルダ内の「dsa.pro」ファイルに追加されます。

```
converter_call_method = funcall
```

7. すべてのウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。

EN: HotFix\_5014 / JP: n/a

機能:

Control Manager 6.0 サーバがポリシーを配信するたびに、ウイルスバスター Corp.サーバですべてのポリシーを受信するのではなく、アップデートされたポリシーのみを受信できるようになります。これにより、特に Control Manager 6.0 サーバが定期的にポリシー施行を実行している場合に、ウイルスバスター Corp.のパフォーマンスへの影響が軽減されます。

#### ■ウイルスバスター Corp. 11.0 Service Pack 1 Critical Patch (ビルド 6077) の新機能

機能:

サードパーティ製ウイルス対策製品のアンインストール - ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、次のサードパーティ製のウイルス対策製品が自動的にアンインストールされるようになります。

HotFix\_6087.u、HotFix\_6090.u、HotFix\_6097.u、HotFix\_6104.u、HotFix\_6108.u、  
HotFix\_6132.u、HotFix\_6142.u、HotFix\_6152.u、HotFix\_6153.u、HotFix\_6165.u、  
HotFix\_6169.u、HotFix\_6172.u、HotFix\_6209.u

- 次のサードパーティ製ウイルス対策製品の英語版は、ウイルスバスター Corp.の英語版に置き換えられます。

- Avira Server Security 13.0.0.3736 (32 ビット/64 ビット)
- ESET NOD32 Antivirus 3.0.669.0 (32 ビット/64 ビット)
- ESET NOD32 Antivirus 4.2.40.27 CHT (32 ビット/64 ビット)
- ESET NOD32 Antivirus 9.0.377.1 (32 ビット/64 ビット)
- Kaspersky 10.0.3361
- Panda Free Antivirus 7.84.00.0000 (32 ビット/64 ビット)
- Panda Free Antivirus 8.20.00.0000 (32 ビット/64 ビット)
- Sophos 10.3
- Sophos 10.5
- Sophos 10.6
- Sophos Anti-Virus 10.6.3.537 (32 ビット/64 ビット)

- Sophos AutoUpdate 5.2.0.276 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Client Firewall 2.9.5 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Network Threat Protection 1.2.2.50 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Patch Agent 1.0.308.0 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos Remote Management System 4.0.6 (32 ビット/64 ビット)
  - Sophos System Protection 1.3.0 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.3001.165 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.5337.5000 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6168.6000 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6860.6400 (32 ビット/64 ビット)
  - Symantec Endpoint Protection 12.1.6867.6400 (64 ビット)
  - System Center Endpoint Protection 4.5.216.0 (32 ビット/64 ビット)
- 次のサードパーティ製ウイルス対策製品の日本語版は、ウイルスバスター Corp.の日本語版に置き換えられます。
- McAfee Agent 4.8.0.641 (32 ビット/64 ビット)
  - McAfee VirusScan Enterprise 8.8.02004 (32 ビット/64 ビット)
- 次のサードパーティ製ウイルス対策製品のフランス語版は、ウイルスバスター Corp.のフランス語版に置き換えられます。
- Symantec Endpoint Protection 12.1.4100.4126 x86 FR

EN: Critical Patch 6125 / JP: n/a

機能:

Windows 10 Anniversary Update (Windows 10 Red Stone 1) で動作する新しいコアモジュールがウイルスバスター Corp.に追加されます。

EN: HotFix\_6077 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、QUIC 対応の Chrome 51.0.2704.84m がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_6088 / JP: n/a

機能:

SQL を移行する際のフォルダ書き込み権限の確認が強化されます。エンドユーザはウイルスバスター Corp.サーバフォルダに対するフルコントロール権限を Windows ドメインユーザに付与し、ローカル管理者または Active Directory ビルトイン管理者によって、この

オブジェクトの親からの継承可能なアクセス許可を含める必要があります。

EN: HotFix\_6093 / JP: n/a

機能:

情報漏えい対策オプションエンドポイント SDK 6.0 で、QUIC 対応の Chrome 51.0.2704.106m がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_6105 / JP: n/a

EN: HotFix\_6120 / JP: n/a

機能:

[クライアント管理] ツリーに [オフライン時間] 列を追加して、同じ情報を、ウイルスバスター Corp. Web コンソールの [クライアント管理] 画面でエクスポートする CSV ファイルに追加できるようになります。この列には、ウイルスバスター Corp.クライアントがウイルスバスター Corp.サーバに最後に接続できなかった際の日時が表示されます。

注意: 本 Patch の適用後は、[クライアント管理] ツリーの列の順序が初期設定にリセットされます。

手順:

[クライアント管理] ツリーに [オフライン時間] 列を追加するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバの「PCCSRV¥Private」フォルダにある「ofcserver.ini」ファイルを開きます。
3. [SERVER\_CONSOLE\_SECTION] セクションの下に、次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

```
[SERVER_CONSOLE_SECTION]
```

```
ShowNotConnectedTime = 1
```

注意: [クライアント管理] ツリーの [オフライン時間] 列を非表示にするには、値を「0」に設定します。

4. Web ブラウザを再ロードまたは再起動します。

EN: HotFix\_6109 / JP: n/a

機能:

Web ブロックサービスモジュールがアップグレードされ、URL 検索の結果がない場合、IP 検索がサポートされるようになります。

EN: HotFix\_6128 / JP: HotFix\_6135

機能:

本 Patch には「Trend Micro NSC Firefox Extension」と「Trend Micro Osprey Firefox Extension」の新しいバージョンが含まれています。これらのバージョンは新しいセキュリティガイドラインに準拠しています。

EN: HotFix\_6129 / JP: HotFix\_6129

EN: HotFix\_6181 / JP: HotFix\_6129

機能 1:

ウイルスバスター Corp.サーバを設定して、コンプライアンスレポートの生成により、データベースにクライアントの UID が存在するか確認し、見つからない場合は再度登録するようクライアントコンピュータに通知できるようになります。

手順:

この機能を有効にして設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに「ProtectionReportFrequency」キーと「AutoOnStart」キーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

ProtectionReportFrequency=(ウイルスバスター Corp.サーバでデータベースにクライアントの UID が存在するかどうかコンプライアンスレポートを介して確認する分単位の頻度。最小値は 2 分です。)

AutoOnStart=1、クライアントの UID が存在しない場合に、サーバに登録し直すよう、ウイルスバスター Corp.サーバからクライアントに OnStart コマンドを実行できます。  
=0、コマンドの実行は無効になります。

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に

選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc.

名前: ProtectionReportFrequency

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000002 (2)

名前: AutoOnStart

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

~~~~~

機能 2:

HotFix ファイルをダウンロードし検索エンジンを再ロードする間、ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムファイルのデジタル署名の確認をスキップするようにウイルスバスター Corp.クライアントを設定できるようになります。

手順:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

DOVF=1

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

7. ウイルスバスター Corp.クライアントを再起動します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥PC-cillinNTCorp¥  
CurrentVersion¥Misc.

名前: DOVF

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_6167 / JP: HotFix\_6167

EN: HotFix\_6168 / JP: n/a

機能 1:

ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、サードパーティ製のウイルス対策製品がインストールされているかどうか確認できるようになります。

本 Patch の適用後は、ウイルスバスター Corp.クライアントのインストール時に、次のサードパーティ製のウイルス対策製品を自動的にアンインストールするかどうか設定できるようになります。

- McAfee Agent 5.0.2.132

注意: 対象のウイルス対策製品を追加するには、「tmpostuninst.ptn」ファイルを編集する必要があります。

手順 1:

McAfee Agent バージョン 5.0.2.132 をアンインストールしないよう設定するには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダの「¥PCCSRV¥Admin」フォルダにある「tmpostuninst.ptn」ファイルを開きます。

3. サードパーティ製のウイルス対策製品のセクションで、「Support」キーの値を「0」に設定します。



[McAfee Agent 5.0.2.132]

Support=0

値: 0 = サードパーティ製のウイルス対策製品を削除しない

1 = サードパーティ製のウイルス対策製品を削除する

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

~~~~~

機能 2:

ウイルスバスター Corp.サーバでウイルスバスター Corp.クライアントのフォルダの権限を変更し、設定をすべてのクライアントに自動的に配信できるようになります。

手順 2:

この機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. 本 Patch をインストールします。

2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。

3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、値を「1」に設定します。

[Global Setting]

PrivilegeContolSetting=1

注意: 本機能を無効にするには、値を「0」に設定します。

4. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。

6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥

PC-cillinNTCorp¥CurrentVersion¥Misc

名前: PrivilegeContolSetting

種類: REG\_DWORD

データ: 0x00000001 (1)

EN: HotFix\_6167.1 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.情報漏えい対策オプションで、情報漏えい対策ログ内の複数のフォレンジックスデータセッションがサポートされるようになります。

EN: HotFix\_6177 / JP: HotFix\_6177

機能:

ネットワークフィルタ機能の非同期モードを有効または無効に設定できるようになります。

手順:

1. 本 Patch をインストールします。
2. ウイルスバスター Corp.サーバのインストールフォルダ内の「PCCSRV」フォルダにある「ofcscan.ini」ファイルを開きます。
3. [Global Setting] セクションに次のキーを追加して、適切な値を設定します。

[Global Setting]

OspreyAsyncServerLookup=0、ネットワークフィルタ機能の非同期モードを無効にします  
=1、ネットワークフィルタ機能の非同期モードを有効にします

4. 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
5. ウイルスバスター Corp. Web コンソールを開き、[クライアント]→[グローバルクライアント設定] の順に選択します。
6. [保存] をクリックして設定をクライアントに配信します。

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムによって、次のレジストリキーが自動的に設定されます。

キー名: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Osprey¥Scan¥Common  
¥HttpManager¥config

名前: AsyncServerLookup

種類: dword

EN: HotFix\_6183 / JP: HotFix\_6183

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアントプログラムの確認メカニズムが強化され、エンドポイントのスマートスキャンエージェントパターンファイルとウイルスパターンファイルが破損から保護されるようになります。

EN: HotFix\_6199 / JP: n/a

機能:

ウイルスバスター Corp.クライアント情報を含む SQL テーブルのインデックスメカニズムが強化されます。